

琉球大学 研究推進機構 研究企画室
平成 27～29 年度 活動報告書

平成 30 年（2018 年）6 月

琉球大学 研究推進機構 研究企画室

Activities Report of Research Planning Office (FY2015–2017)

Authors:

Takeshi Kon, Yuki Tonooka, Soyo Takahashi, Katsuyuki Inoue, Masaru Hojo, Emiko Kawano & Mutsumi Nishida

Published on:

22 June, 2018

Published by:

Research Planning Office, Organization for Research Promotion, University of the Ryukyus

Address:

Research Planning Office
Subtropical Island Studies Research Bldg.
University of the Ryukyus
Senbaru 1, Nishihara, Okinawa 903-0213 Japan
E-mail: ura@to.jim.u-ryukyu.ac.jp
Website: <http://www.res.lab.u-ryukyu.ac.jp>

はじめに

本冊子は、2015 年の研究企画室（URA 室）の設置からちょうど 3 年が経つのを契機に、この 3 年間の活動実績を取りまとめたものである。私たちとしては、これをまとめることを、全力疾走をしてきた研究企画室の 3 年間の振り返って、今後の活動をさらに有効なものにするための検討の機会と考えた。そして何よりも、学内外の関係者にこの 3 年間の私たちの活動を知っていただき、琉球大学の発展に向けて今後のさらなる協働につなげていくことができればと考えた。

2004 年に国立大学が法人化され、個々の大学が自ら置かれている状況を分析し、自学の活動を強めるための適切な施策を立案し、実施していくことが必要となった。たとえば、運営費交付金が減り続けるなかで研究を活発に継続しようとするなら、競争的研究資金を得るための努力を強めなくてはならない。そのためには、まずは競争的資金の動向や内容の分析が必要となるが、これを個々の教員が日々の教育や研究そして社会貢献活動などで忙しいなかで行うことは実質上不可能である。また事務職員にとっても、日々の業務に加えてこれらを行うことは困難である。資金を獲得したら、プロジェクトを立ち上げて経営していくことになるが、ここでも事情は同じである。ここに、高度専門職員としてのリサーチ・アドミニストレーター（URA）が求められる理由がある。

このような状況を踏まえた議論に基づき、2015 年 1 月に本学に研究推進機構が設立され、翌月に研究企画室が同機構内に設置された。4 月 1 日には博士号を有する気鋭の URA 4 名が同室に揃い、活発な活動を開始した。本冊子の本文と基礎資料集をご覧いただければ分かるように、その活動内容は多岐にわたる。代表的なものをあげると、科学技術・学術政策の動向の分析・把握、競争的資金に関する情報収集と申請支援、学内の研究活動の分析・把握、研究プロジェクトの企画支援や進捗管理支援、研究成果の発信支援、研究倫理向上の支援、研究面での産学連携・地域連携の企画と支援などである。

限られた規模の陣容であるにもかかわらず、研究企画室は活発に活動して所期の目的は十分に果たしていると考えているが、私たちは現状にとどまることなく、今後、さらに機能を強化していきたいと決意している。しかしながら、本学の研究推進のために研究企画室がさらに大きな働きをするには、今後に向けての課題もある。URA が存分に力を発揮できるようなトラックの確立は、とりわけ重要な課題である。また、研究の主たる現場である各学部等へのきめの細かい支援が重要になってきているが、これができるような陣容への強化も求められる。こうした課題を積極的に乗り越え、研究企画室が本学の研究推進のためにさらに大きな働きができるよう、学内外の関係者のさらなるご理解とご協力をお願いしたい。

2018 年 6 月

研究企画室長
理事・副学長（研究・企画戦略担当）
西 田 睦

目 次

はじめに	1
目次	3
1. 研究企画室とその活動の概要	5
1-1. 沿革	6
1-2. 研究推進機構における研究企画室の役割	8
1-3. 研究企画室の室員構成	9
1-4. 全学委員会および学外委員会等	10
1-5. 会議・イベント等	11
1-6. 業務概要	12
2. 特記すべき活動・事業とその成果	17
2-1. 科研費を中心とした競争的研究資金の申請支援	18
2-2. 本学の研究力分析とその活用	22
2-3. 新たな機器共用システム（先端研究基盤共用促進事業）の導入と運営	24
2-4. 学際的・複合的研究プラットフォーム形成と URA の役割 ～水循環プロジェクトを例に	30
2-5. 研究企画室における産学連携支援業務	38
3. URA 座談会記事 琉球大学 News Letter 22 巻（2017 年 10 月）より転載	45
4. 基礎資料集	51
4-1. 研究企画室業務実績一覧	52
4-2. 活動カレンダー	84
4-3. イベントポスター集	107
4-4. 国立大学法人琉球大学研究推進機構研究企画室規程	113

1. 研究企画室とその活動の概要

1-1 沿革

琉球大学は 2004 年（平成 16 年）に国立大学法人に移行した。その後、2010 年代に入っても、本学の研究推進における課題として、法人化対応が不十分な状態のままにあり、バラマキでない大型の特色型戦略的研究プロジェクトの立ち上げ方法の模索をしていた。また、研究活動の分析・企画・プロデュース・ファシリテートの担い手が不在であった。

そのような中で本学は、全学の改革戦略を議論する場である企画経営戦略会議（部局長懇談会を衣替え）を設置した。そこで、基盤研究と特色ある研究の強化を起爆剤に、教育、地域貢献等の強化を図っていくという「琉球大学の改革の方向性」を策定した（図 1-1）。

これを基礎に、国立大学改革基盤強化促進費等によって、研究企画室が平成 26 年度末に発足した（図 1-2）。その沿革は以下のとおり。

2013 年 12 月～2014 年 3 月：企画経営戦略会議のもとに設置した「研究のとりがり検討プロジェクトチーム（PT）」（研究担当理事がチームリーダー、研究担当学長補佐がサブリー

ダー）で、「本学の強み・特色を活かした研究推進プランの策定について」を検討した。

2014 年 3 月：この PT のもとに置いた「URA 導入検討ワーキンググループ」が URA を導入すべしとの答申をした（提案書 琉球大学におけるユニバーシティー・リサーチアドミニストレーター（URA）制度の導入）。これらの答申で、これからの研究推進には、従来の教員のみ、事務職員のみでは限界があるとして、コミュニケーション能力（学内、学外との新しいネットワーク形成ができる人）、企画力、研究強化に向けてのデータ解析力、コーディネーター力などを有した求めるべき人材としての URA 像が示された。

2014 年 6 月：PT は、「本学の強み・特色を活かした研究推進の実行プランについて」、さらなる検討を進めた。

2014 年 10 月：研究推進機構、研究企画室（URA 室）、戦略的研究プロジェクトセンター等の設立の必要性等を明示した答申が完成

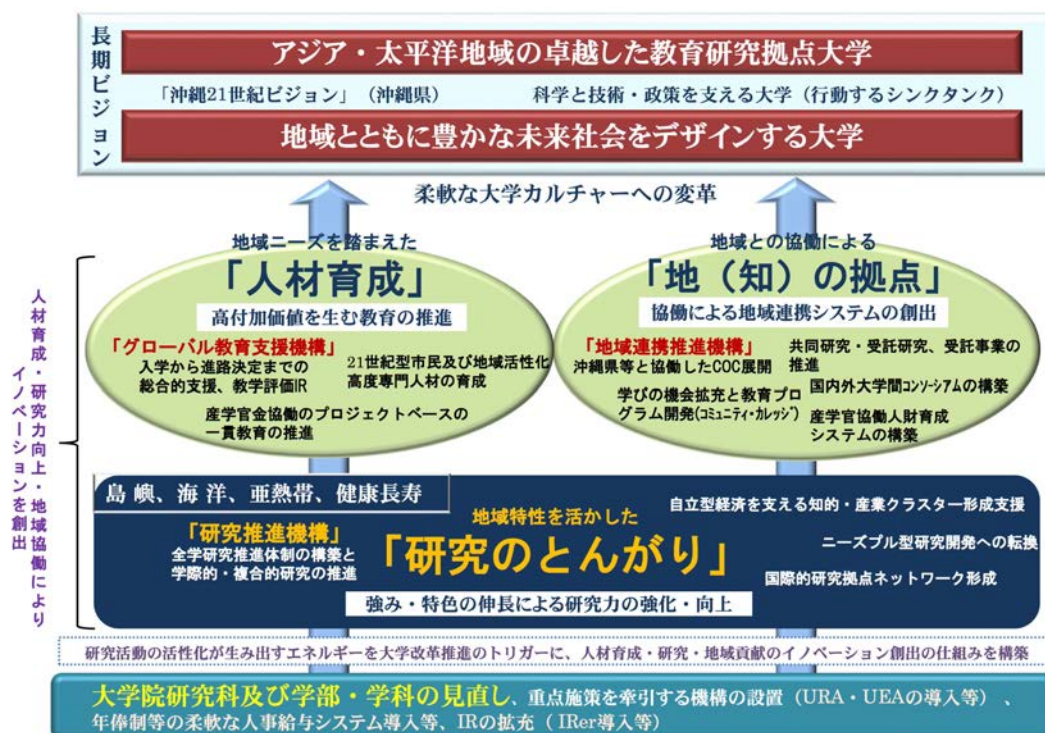


図 1-1. 琉球大学の改革の方向性（平成 26 年度 第 4 回 企画経営戦略会議資料）

した。URA 独自の新たな給与体系を検討・制定した。

2014 年 12 月：研究企画室規程が制定された。

2015 年 1 月：評議会、役員会の議論と承認を経て、本学で初めての部局横断型大規模機構として研究推進機構を設立。

2015 年 2 月：研究企画室（URA 室）設立。亜熱帯島嶼科学拠点研究棟の 3 階の仮オフィスにて URA2 名体制でスタートし、キックオフシンポジウムを開催した。

2015 年 4 月：URA2 名が着任し、4 名体制となった。

2015 年 6 月：研究推進機構ならびに研究企画室のホームページを開設した。

2015 年 9 月：亜熱帯島嶼科学拠点研究棟の 1 階に新たに研究企画室のオフィスを開設し、仮オフィスより移転した。

2016 年 2 月：亜熱帯島嶼科学拠点研究棟の正面玄関前に看板を設置した。

2017 年 4 月：新たな URA 人事制度および研究企画室規程改正案の検討を開始した。

2017 年 5 月：研究企画室規程を改正し、URA 以外にも教員や一般職員も室員として研究企画室に所属できるようになった。

2017 年 7 月：研究企画室の設立から 2 年以上経過して業務が拡大したこと、室員拡充を開始した。その第 1 弾として研究企画室に特命講師（データベース整備担当）が 1 名着任した。

2017 年 8 月：研究企画室設立以降、初めての URA 公募を開始した。

2018 年 3 月：URA1 名が転出した。

2018 年 4 月：2017 年度の期末評価を基に、初めて主席 URA が昇任によって誕生した。また主任 URA2 名も上席 URA に昇任した。



研究企画室関連規則類

琉球大学研究推進機構規則（平成 26 年 10 月制定）

琉球大学研究推進機構研究企画室規程（平成 26 年 12 月制定）

国立大学法人琉球大学特命職員 (I) 就業規程（平成 21 年 3 月制定）

図 1-2. 研究企画室における体制整備の行程

1-2 研究推進機構における研究企画室の役割

研究推進機構は、基盤的研究の一層の推進および沖縄の地域特性を反映した「熱帯・亜熱帯」「海洋・島嶼」「文化多様性・生物多様性」「健康・長寿・国際感染症」などの特色ある研究分野の強化を図ることを目的として平成 27 年 1 月 1 日に設立された。

本学の各専門分野を基盤とした学部や大学院研究科を縦軸とすると、本機構の活動はそこに個別の専門分野を超えた視点から、いわば横串を通す機能を果たすものであると言える。これら、縦軸の活動と横軸の活動をうまくかみ合わせるにより、本学の研究活動がより総合的に幅広く活発に展開することを目指している。

本機構は、熱帯生物圏研究センターや国際沖縄研究所（平成 30 年 4 月改称：島嶼地域科学

研究所）等の全学研究所・センター、博物館（風樹館）、研究基盤センター（平成 28 年に機器分析支援センターと極低温センターの統合により発足）に加え、新たな戦略的研究プロジェクトセンターならびに研究企画室から構成されている（図 1-3）。

研究企画室は、平成 27 年 2 月に研究推進機構内に設立された部署で、全学の研究支援をおこなう専門的知識やスキルを持った高度専門職員であるリサーチ・アドミニストレーター（URA）を配置している。URA は研究推進機構内では、その構成組織がそれぞれの活動を十全に進めていけるようにすることに加え、相互の有機的連携を強めることにより、より大きな働きをより効率的・持続的に行っていくような役割も担っている。

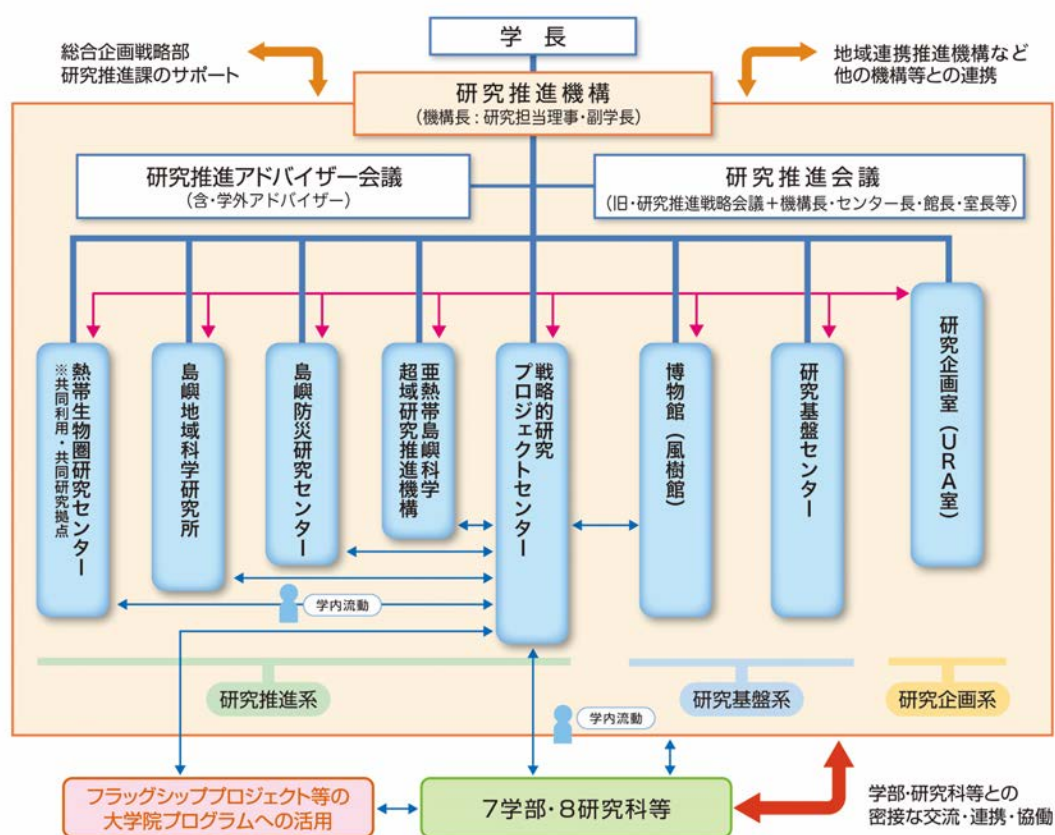


図 1-3. 研究推進機構体制図

1-3 研究企画室の室員構成（平成 29 年 3 月 31 日現在）

研究企画室は、室長、副室長、室員およびその他必要な者をもって組織され、室員は URA、併任教員、またはその他室長が指名する者である。平成 29 年 3 月 31 日現在、室長 1 名、副室長 2 名、室員 4 名（URA3 名および特命教員 1 名）で構成されている。

URA の職階は 3 階級（主席 URA、上席 URA、主任 URA）が設定され、毎年度末の業務評価によって昇任することができる（図 1-4）。

● 研究企画室組織一覧

室 長 西田 睦（平成 27 年 2 月 1 日～）
（理事・副学長）

副室長 殿岡裕樹（平成 27 年 4 月 1 日～）
（上席リサーチアドミニストレーター）

副室長 山田 学（平成 28 年 4 月 1 日～）
（研究推進課長）

室 員 昆 健志（平成 27 年 2 月 1 日～）
（主任リサーチアドミニストレーター）

室 員 高橋そよ（平成 27 年 4 月 1 日～）
（主任リサーチアドミニストレーター）

室 員 井上雄介（平成 27 年 2 月 1 日～）
（主任リサーチアドミニストレーター）

室 員 北條 優（平成 29 年 7 月 1 日～）
（特命講師）

<過去の室員>

副室長 船木茂人（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）（研究推進課長）

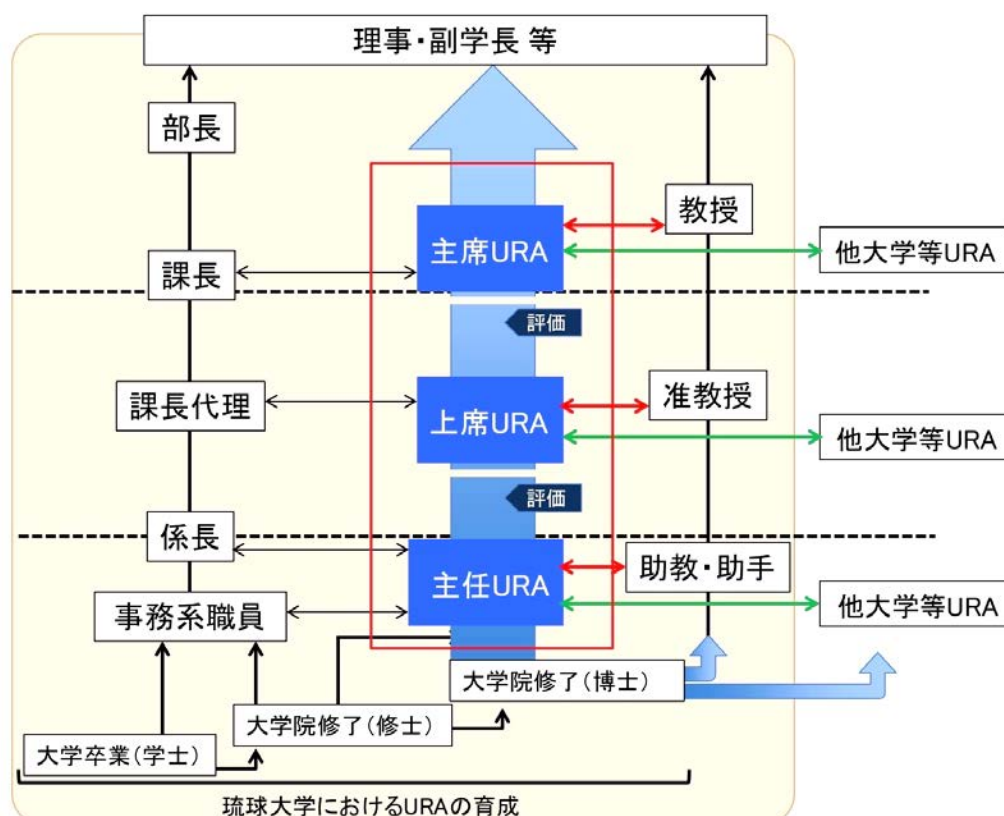


図 1-4. 琉球大学におけるリサーチアドミニストレーターのキャリアパス構想。「答申 琉球大学におけるリサーチ・アドミニストレーター（URA）制度導入の具体策」（研究とんがり推進プロジェクトチーム URA タスクフォース、平成 26 年 10 月）より

1-4 全学委員会および学外委員会等

1. 全学委員会等

URA は全学の研究推進に関わる委員会等に以下のように参加している（括弧内は担当 URA 名）（他組織との連携は図 1-5 参照）。

- ・地域連携推進機構産学官連携部門連絡会（定例会議参加メンバー）（殿岡）
- ・発明審査委員会委員（発明等に関する事項を審議、平成 29 年度より）（殿岡）
- ・先端医学研究センター機能強化タスクフォース（第一次答申の作成）（殿岡・昆）
- ・戦略的研究プロジェクトセンター運営委員（殿岡・昆）
- ・広報戦略本部員（昆）
- ・学内研究環境整備費ワーキンググループ（学内公募の審査）（昆）
- ・共用機器管理委員（全学の共用機器の管理運営）（昆）
- ・学長リーダーシッププロジェクト評価選定委員会委員（昆）
- ・研究費・研究活動不正ワーキンググループ（昆・井上）
- ・インスティテューショナル・リサーチ推進室員（現 大学評価 IR マネジメントセンター評価企画員・IR 企画員）（井上）
- ・国際沖縄研究所拠点化申請に向けた意見交換・ワーキンググループ（高橋・井上）

2. 学外委員会等

URA の有する知識や経験は学内のみならず学外でも活用されている。

- ・西原町新渡戸菊プロジェクト構成員。琉球大、西原町、西原町商工会の三者で平成 26 年に締結した包括連携協定に基づき、産学官連携による地域振興を目的として立ち上げたプロジェクト（殿岡）
- ・農林水産物の輸出促進研究開発プラットフォーム 九州・沖縄 コーディネートユニット コーディネーター（殿岡）
- ・「成長分野リーディングプロジェクト創出事業（研究コーディネート委託業務）」産学官連携推進会議に係る委員（殿岡）
- ・国立沖縄自然史博物館設立準備委員会・沖縄シンポジウム実行部会委員（昆）
- ・琉球大学・松浦市鷹島神崎遺跡発掘調査連携協議会：琉球大学と長崎県松浦市の間で平成 24 年に締結した連携協定に基づき、松浦市鷹島沖で発見された元寇船の調査研究や成果の利活用に協力して取り組んでいる（殿岡）
- ・沖縄科学技術振興ロードマップ推進会議：沖縄県の総合政策「沖縄 21 世紀ビジョン基本計画」において平成 28 年 4 月に策定されたものである。年に 1～2 回、県内の学術機関、行政、支援機関が集まり進捗の確認や意見交換を行っている（殿岡・昆・井上）。

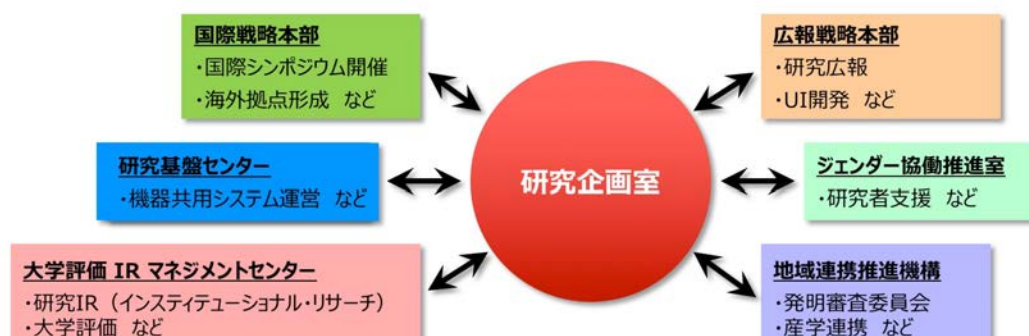


図 1-5. 研究企画室と他部署間の連携イメージ図

1-5 会議・イベント等

研究企画室は平成 27 年 2 月の設置より、研究企画室ならびに研究推進機構のミッションの達成のために会議やイベント等を開催してきた。以下にそれらについて概略を述べる。それぞれの具体的な開催記録については「4. 基礎資料集」を参照されたい。

1. 研究企画室定例ミーティング

研究企画室の効果的で緻密な運営のため、定例ミーティングを半数以上のメンバーが出張等で欠ける場合を除き、火曜と木曜に開催した。平成 27 年度の定例ミーティングの開催回数は 72 回、平成 28 年度は 68 回、平成 29 年度は 74 回であった。ミーティング終了後には議事メモも作成し、PDF ファイルとして保管し、室員で共有している。

また、同ミーティングには、研究企画室のバックオフィスでもある研究推進課の職員や案件に応じて室外の教員や職員も参加してもらうようになっている。このことにより部署を超えた情報共有ができ、また多くの事項で迅速な決定ができたものと考えられる。

2. 室長副室長会議（平成 28 年度まで）

研究企画室とそのバックオフィスである研究推進課との連携をスムーズにおこなうために、研究企画室長（理事）、副室長（上席 URA）

および副室長（研究推進課長）の 3 名によって、原則として毎週月曜日の朝に開催した。平成 29 年度より、上述の定例ミーティングに研究推進課の職員も適宜参加することになったために廃止となった。平成 27 年度の開催回数は 26 回、平成 28 年度は 32 回であった。

3. 研究推進会議

研究推進会議は原則毎月 1 回開催され、全学の研究推進施策や研究推進機構の運営及び業務に関する事項を協議している。研究企画室の URA もこの会議に毎回陪席し、同会議で議論された研究推進に関する方針等をタイムラグなく共有している。また、URA は同会議の事前打ち合わせにも参加し、会議資料の作成や議題の提案および調整等にも携わっている。

4. 研究推進フォーラム

研究推進フォーラムは、学長リーダーシッププロジェクト研究（とんがり研究）などの研究成果の発表や研究推進機構のアドバイザーの講演を中心に不定期に開催するものである。平成 29 年度までに合計 7 回開催した。また、サイエンスカフェも平成 28 年 6 月に 1 回開催している。



図 1-6. 研究推進フォーラムの様子（左：第 3 回、学長リーダーシッププロジェクトのキックオフシンポジウム、2015 年 6 月 21 日開催、右：第 6 回、学長リーダーシッププロジェクトの活動報告会、2016 年 12 月 6 日開催）

1-6 業務概要

リサーチ・アドミニストレーター（URA）は平成 23 年度から、文科省がわが国の大学に導入・育成を進めてきた専門人材で、「大学等において、研究者とともに研究活動の企画・マネジメント、研究成果活用促進をおこなうことにより、研究者の研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化等を支える業務に従事する人材」と説明されている。この説明の通り、研究企画室の URA の担うべき業務は研究に関連するあらゆる事項と言い換えられるほど広範囲に渡っているが、文科省ではこれを類型化し「URA スキル標準」として公表している。研究企画室ではこのスキル標準分類を基に、業務管理、情報共有をおこなっている。URA スキル標準では、研究支援業務を以下の様に分類している。

A. 研究戦略推進支援業務：政策分析、所属組織の研究力分析や研究戦略策定に関わる業務を指す。

B. プレアワード業務：競争的研究資金（アワード）の獲得を URA の主たる業務の一つととらえ、競争的研究資金の獲得のために事前におこなうプロジェクト企画、設計、調整、申請支援業務を指す。なおアワード（award）は賞や賞金と訳されることが多いが、研究支援の文脈では上述の通り競争的に獲得される研究資金のことである。

C. ポストアワード業務：競争的研究資金の獲得後におこなう、主に研究プロジェクトのマネジメントに関わる業務を指す。

D. 関連専門業務：上記 A～C のそれぞれに関連する、専門性の高い業務を指す。国際連携、産学連携、知的財産、研究広報、研究公正などの業務が中心である。

本稿では以下、A. 全学的な研究推進支援、B. プレアワード支援と成果、C. ポストアワード支援と成果、D. 関連する専門業務と成果を説明する。また、各業務のフローを図 1-7 に示した。

琉球大学におけるURAの研究支援業務フロー

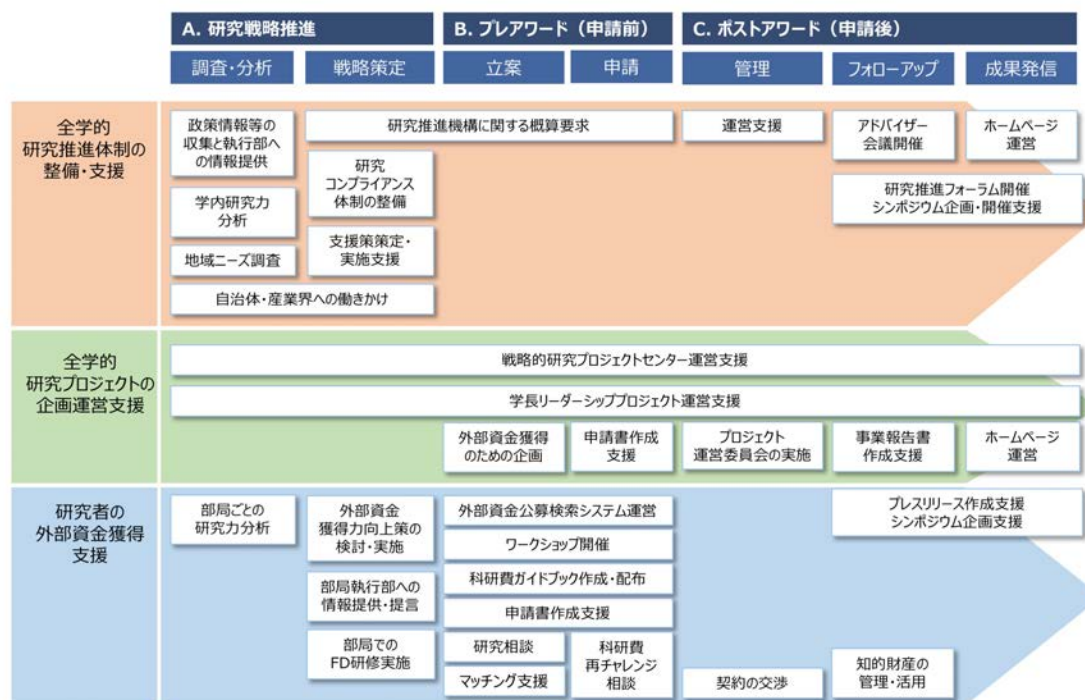


図 1-7. 研究企画室における業務フロー図

A. 全学的な研究推進支援

(1) 政策情報等の収集：文科省等の関係省庁や沖縄県庁、研究資金配分機関である日本学術振興会（JSPS）や科学技術振興機構（JST）からの政策情報等を通年収集した。それらの情報は、中期計画・中期目標の年度毎の達成状況を確認するプロジェクトシートの作成・確認に活用された。

(2) 研究 IR（インスティテューショナル・リサーチ）：科研費の配分結果の分析、出版された論文分析をおこなった（Web of Science および InCites を利用）。分析結果は、研究推進会議や IR 推進室会議、役員会、教育研究評議会で報告した。それらの情報は、プロジェクトシートの確認に活用するとともに、大学全体としての研究推進に加え、各学部等が主体となり研究推進をおこなう機運を高めた。また、論文分析の方法および分析結果の客観性を担保するため、統計数理研究所との共同利用研究をおこなっている（詳細は 2-2 節参照）。

(3) 学長リーダーシッププロジェクト運営支援：研究 IR や競争的研究資金の獲得実績など客観的なデータに基づき、学長が研究主宰者（PI: Principal Investigator）を指名するトップダウン型の研究プロジェクト「学長リーダーシッププロジェクト」について、平成 28 年度は新規 1 件の立ち上げを支援した。ここでは「地域ニーズに基づいた研究プロジェクト」を新たな視点として導入し、平成 27 年度に実施した地域ニーズ調査をもとに研究テーマや PI の候補案を分析・検討した。研究企画室から提案した候補案をもとに、学長の判断の下、亜熱帯地域の地盤特性に応じた地域づくりを目指す地域課題解決型研究（農学部 中村真也教授）を実施することになった。平成 29 年度は、平成 30 年度から開始する候補案選定のための研究力分析をおこない、学長リーダーシッププロジェクト評価選定委員会にその分析結果を提供し、新規 2 件の立ち上げを支援した。

(4) 国際沖縄研究所拠点化支援：国際沖縄研究所の共同利用・共同研究拠点化申請に向けた情報収集とワーキンググループへの参画等、申請支援をおこなった（平成 29 年度申請）。

(5) イベント開催：若手研究者と URA との協働・企画による「地域課題解決型研究のための競争的資金獲得ワークショップ」（平成 28 年 5 月 19 日、参加者数：30 名）、第 1 回サイエンスカフェ「TRANS×FORM—建築学が社会のカタチを変える—」（平成 28 年 6 月 29 日、参加者：45 名）、研究推進フォーラムを開催し、学部や分野を超えた学内研究交流の活性化支援をおこなった。

B. プレアワード支援と成果

(1) 競争的研究資金公募情報システムの構築・運営：本学の競争的研究資金への応募企画力の強化を図るため、本学の研究者または本学が応募することが可能な競争的研究資金の公募情報を集約し、一括して検索できることを目的としたシステムを構築し、運用を開始した。これにより、各研究者は、様々な省庁・機関のホームページに直接アクセスし、サイト内検索をすることなく、競争的研究資金の公募情報を効率的に収集することが可能となった。本システム運営にあたり、研究企画室が中心となって学内の関連部署（研究推進課、産学連携推進課、国際学術推進課、医学部）との連携体制を構築した。平成 28 年 12 月に運用を開始し、翌年 1 月には研究推進会議にてシステムとその運用に関する説明を行っている。研究推進会議での指摘事項を受け、平成 29 年 3 月 6 日に、農学部教授会での説明とデモンストレーションを実施した（詳細は 2-1 節参照）。

(2) 科研費の申請支援：不採択だった研究者に対して、悔しさが残るうちに開催する科研費再チャレンジ企画（ワークショップ・個別相談）、夏期開催の科研費獲得ワークショップ、秋の申

表 1-1. 科研費支援制度の利用者数

支援した年度	ワークショップ 参加者数	個別相談利用者数 (アドバイザー制度 のみを含む)
H27	85	39
H28	42	41
H29	101	37

請に向けての個別相談などをおこなった。個別相談では、審査結果の分析や研究計画調書の手直しなどの支援を実施した。さらには、獲得実績や審査委員のある研究者による科研費申請支援としてアドバイザー制度（研究推進課担当）も並行して実施している（表 1-1）。その他、競争的資金公募検索システムを構築し学内ホームページに掲載することによって、研究者が常時活用できるようになった（詳細は 2-1 節参照）。科研費の採択内定者数も増加傾向にある（図 1-8）。

（3）科研費申請支援のための情報発信：研究企画室の学内限定ウェブサイト『研究推進のための学内限定情報』を構築し、その中に科研費の情報を特化した『科研費特設ページ』を作成した。当該ページでは、研究企画室が平成 27 年に作成し、平成 28 年に改訂した『科研費申請ガイドブック（第 2 版）』をはじめ、ワークショップでの配布資料などを公開することで、学内の研究者に向けた情報共有を図った（詳細は 2-1 節参照）。

（4）新たな共用機器システム（文科省事業）：本事業には URA が中心となって申請書を作成し、採択された。平成 28 年 6 月より事業を開始し、部局単位で利用していた高額な生命科学

表 1-2. 沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業の URA による支援実績

支援した年度	申請件数 (本学全体)	採択件数 (本学全体)
H27	16 (19)	3 (6)
H28	27 (31)	7 (10)
H29	20 (20)	12 (12)

解析機器の全学的共用化をおこない、さらに故障をきっかけに休眠化した機器の再生・共用化を進めている（平成 28 年度 約 4000 万円）。採択後は運営支援をおこなっている（詳細は 2-3 節参照）。

（5）地域の科学技術政策と連動したプレアワード業務：本プレアワード業務として、沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業への対応があげられる。この事業は沖縄県の委託により沖縄科学技術振興センターを資金配分団体として実施されるもので、平成 28 年度は 2 年目にあたる。沖縄県の学術シーズと地域・企業等のニーズをマッチングし、大学と企業が連名で申請する点に特徴があり、本室が支援した案件では計 8 件が採択された（表 1-2）（産学連携支援の詳細は 2-5 節参照）。

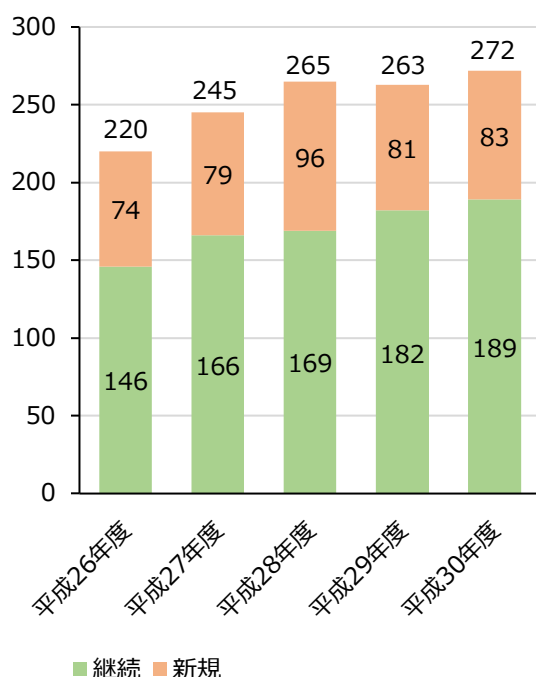


図 1-8. 科研費採択内定件数の推移

C. ポストアワード支援と成果

（1）異分野融合研究～言語系統樹プロジェクト：戦略的研究プロジェクトセンターで進められている学長リーダーシッププロジェクト研究の一つ（琉球諸語における「動的」言語系統樹システムの構築をめざして）が他分野との連携を強めて発展し、平成 29 年度に基盤研究（S）を採択するまでに至った。URA はプロジェクト運営と科研費申請書作成の支援をおこなっている。

（2）ゲノミクス解析支援チーム：戦略的研究プロジェクトセンターを拠点として、主に次世代シーケンサーを使った研究に対する研究相談、技術支援、大量データ解析支援などをおこなっている。フィールド中心だった研究にも先端的な手法が導入され、研究水準の向上に努めている。

URA が運営を支援している（詳細は 2-3 節参照）。

（3）水循環プロジェクト：平成 28 年度の戦略的研究プロジェクトとして採択された「琉球島嶼の水循環と琉球石灰岩に関連した学際的研究（代表 理学部 新城竜一教授）」に、担当 URA がつなげ役として参画したことにより、行政や他大学・研究機関、農業者・漁業者、NPO、市民等を巻き込んだ超学際的研究プロジェクトとして新たに展開することができた。これらの実績が評価され、平成 29 年度には JST の「科学技術コミュニケーション推進事業未来共創イノベーション活動支援」に約 20 倍の競争率の中、採択された（詳細は 2-4 節参照）。

（4）地域科学技術政策と連動したポストアワード業務：沖縄県の委託事業「沖縄感染症研究拠点形成促進事業」に採択された 3 件のうち「動物媒介性感染症分野（代表：医学部 小林 潤 教授）」に URA がメンバーとして加わり、種々の支援をおこなっている。その成果として特許を 1 件出願している。また地域との連携では、琉球大学、西原町、西原町商工会の 3 者による「西原町新渡戸菊プロジェクト」に URA が構成員として参加し、プロジェクトのマネジメント支援をおこなっている他、町内事業者による試作品生産の支援もおこなっている（産学連携支援の詳細は 2-5 節参照）。

D. 関連する専門業務と成果

（1）他大学等との URA ネットワークの構築：平成 29 年 3 月、人社系 URA を中心とした全国ネットワークによる第 3 回人文・社会科学系研

究推進フォーラム「地域と共に新しい“ジンブン”力を創造する人社系研究の展開」を主催し、共催大学である京都大学、大阪大学、筑波大学、早稲田大学の URA と協働で企画・運営をおこなった。本学だけではなく、全国の研究者や URA、行政機関、博物館・図書館等から 80 名以上の参加があり、自由闊達な意見交換をおこない、人社系研究推進 (URA) ネットワークを強化することができた。また、本学の URA 活動について、全国にプレゼンスを高める機会となり、平成 29 年度には、群馬大学を中心とする研究支援人材育成コンソーシアム (文科省科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業) のシンポジウムにおいて、西田機構長 (理事) が本学の研究企画室の取り組みについて基調講演をおこなった。

（2）産学連携・知財支援：本学の産学連携と知財には実務者が少ないこともあり、研究企画室の経験豊富な URA が大きく貢献している。企業とのマッチングから競争的研究資金の申請・獲得、そして運営まで関わっており、いわゆる上流から下流までの研究プロジェクト支援をおこなっている。また産学マッチングイベントにも実務担当者として URA が参加しており、平成 28、29 年度には Bio Japan、アグリビジネス創出フェアの出展ポスター作成、来場者対応をおこなった。出展後の企業からの共同研究等の相談にも対応している。また知財関係では、研究者からの発明相談に随時応じている。

（3）研究広報、研究機関としての発信力強化：研究成果の適切な発信、これを通じた研究機関のプレゼンス向上にも、URA が積極的に携わ



図 1-9. 文科省エントランスにおける研究成果の展示（左：エントランス外側、右：エントランス内側）

っている。上述の通り、URA が広報戦略本部の部員として活動するとともに、以下の具体的な業務をおこなっている。

- ・研究成果論文のプレスリリース：研究者が作成した記事を URA が研究者とともに手直しをして、広報室と連携してマスコミに配布した（紹介記事の作成 7 件）。

- ・文科省エントランスにおける研究成果の展示：琉球列島の生物多様性研究をテーマに大型パネ

ル作成とフィールドのドローン動画撮影を中心とした上映用本学 PR 動画の製作にも携わった（展示期間：平成 29 年 7～8 月、図 1）。

- ・情報発信：研究推進機構、研究企画室、戦略的研究プロジェクトセンター等の HP を運営し、本学の研究プロジェクト紹介、研究成果の発信、イベントの告知などをおこなっている（<http://www.res.lab.u-ryukyu.ac.jp/>）。

2. 特記すべき活動・事業とその成果

2-1 科研費を中心とした競争的研究資金の申請支援

1. はじめに

研究企画室では、本学の研究の推進を目指し、競争的資金の申請・獲得支援をおこなっている。なかでも、文部科学省が所管し、日本学術振興会が資金配分機関となる科学研究費助成事業（科研費）は、日本の研究者にとって、もっとも基本的な競争的研究資金であり、平成 29 年度の予算額を例にとると、2283 億円であり、国の競争的研究資金総額 4279 億円の半分以上を占めている。また、最近では、科研費の採択状況を大学の研究力の評価のひとつとしても使われている。本欄では、科研費を中心とした申請支援について、URA 着任までの取り組みと URA 着任後の取り組みに分けて記す。

2. URA 着任以前の取り組み

琉球大学では、科研費への応募数や採択件数の少なさが課題であった。平成 22 年度には、これまでは年に数回程度の開催であった研究推進戦略会議をおおむね 月 1 回の開催に変更し、第 1 回の会議から、研究推進戦略室長が科研費の採択率が全国平均の半分程度に留まっており、科研費獲得率の向上のための対策が必要である旨の発言をするなど、同会議の場を中心に、科研費対策の議論の活発化がおこなわれてきた。科研費の申請件数・申請率の増加を図るため、従前から、科研費への未申請者に対するペナルティー制度があった。しかしながら、ペナルティー制度は、申請件数の増加が認められたものの、申請内容の質の悪化に繋がり、採択率を低下させる結果となったため、平成 22 年度に廃止となった。また、科研費獲得インセンティブ経費は、科研費などの大型の外部資金獲得者に対し、追加で研究資金を配分するものであったが、当該経費の抜本的見直しを始めたほか、科研費説明会の開催方法の見直し、科研費相談窓口での相談に研究企画員が協力して対応するなど、科研費獲得向上に向けた取り組みを継続的に同会議で議論してきた。

平成 23 年度は、これらの議論を続けるとともに、科研費相談窓口において、希望により研究企画員が科研費の申請書（研究計画調書）の

事前アドバイスを始めた。その結果、未申請者に対するペナルティー制度の廃止に伴い、質の悪い申請が減少したことから、採択率の向上が認められるなど、一定程度の効果があったものの、採択件数および配分金額は前年度よりも減少するという結果であった。その状況について、平成 24 年 7 月 4 日の「平成 23 年度監事監査意見書」には、「教員一人当たりの配分額は依然として全国的にも下位であり、より高額の科学研究費補助金を獲得する努力を強化する必要がある」との記載がなされた。また、科研費獲得インセンティブ経費については、大型科研費へ申請する研究者に対する研究費の支援とし、大型科研費獲得のための研究費に変更した。

平成 24 年度は、前年度までの取り組みを継続するとともに、平成 23 年度の監事監査意見を受け、科研費説明会の説明資料を研究推進戦略室ウェブサイトに掲載するなど、教職員に科研費の情報に触れる機会を増やすなどの試みにより、科研費採択率向上のための取り組みを模索し続けた。

平成 25 年度は、科研費採択増をより強力に推進するため、採択された申請書を学内限定で公開し、モデル申請書のプールシステムを確立することや、申請書を事前チェックする科研費申請支援アドバイザー制度の導入をおこなった。この結果、科研費申請アドバイザーを 11 名の研究者が利用し、うち、10 名が科研費に応募した。科研費の新規応募件数は、下げ止まりをみせたものの、新規および継続の合計応募件数、採択件数、配分金額ではまだ減少傾向であった。また、現在の研究企画室につながる URA スタッフの導入に関する議論も平成 25 年度から開始された。

平成 26 年度は、科研費申請アドバイザー制度、科研費獲得に向けた学内説明会を強化するとともに、科研費の申請予定・科研費申請アドバイザーの利用予定についてのアンケート「科研費申請チェックシート」の提出を研究者に依頼するなど、科研費の応募率を高める取り組みをおこなった。その結果、科研費申請アドバイザー制度については、アドバイザー 36 名に委嘱をおこない、利用者は 26 名と大幅に増加し

た。申請件数（新規および継続の合計）も前年度よりも増加した。これらの科研費獲得増加に向けた方策の策定および改善の検討は、平成 27 年の研究推進機構および研究企画室の設置の後、研究推進会議および URA が引き続きおこなっている。

3. URA 着任以降の取り組み

平成 27 年度から URA による科研費申請支援を本格的に実施した。科研費の申請支援には、応募件数の増加に資するものと採択率の向上に資するものがあるが、平成 29 年度までは、研究推進課（科研費担当）と協力し、主に採択率の向上に資する支援が中心であった。具体的な支援内容は、大きく分けて（1）科研費申請アドバイザー制度、（2）URA による個別相談、（3）ワークショップ、（4）説明会、（5）科研費申請ガイドブック、の 5 項目である。また、それに加え、（6）科研費以外の研究資金の公募情報を提供するため、「琉球大学競争的研究資金公募情報検索システム」の管理運営をおこなっている。なお、これらの情報は、平成 28 年度以降、研究企画室の学内限定ウェブサイト「研究推進のための学内限定情報」に掲載し、周知を図っている。各項目について以下に記す。

（支援 1）科研費申請アドバイザー制度：本制度は、前述のとおり、URA 着任前の平成 25 年度に始まった制度であり、URA 着任後は、研究推進課が申し込み窓口である。研究企画室は、アドバイザーと利用者とのマッチングなどの協力をおこなっている。アドバイザーは平成 27 年度 46 名、28 年度 60 名、29 年度 50 名であり、利用者は、平成 27 年度 26 名、28 年度 23 名、29 年度 19 名であった。また、利用後のアンケートによると、本制度の利用者の多くが、役に立ったとコメントしているほか、専門分野の異なる教員にアドバイザーとして見てもらうことで、自分の研究計画調書が他分野の人にどのように見られているのかを知ることができた、との意見や、アドバイザーとの共同研究につながりそうである、などの意見が多く、非常に好評を得ている。

（支援 2）URA による個別相談：本支援は、URA 着任後の平成 27 年度以降に開始した。個

別相談は、通年実施しているが、4 月下旬から 5 月にかけて、当年に惜しくも不採択であった研究者を対象として、「再チャレンジ個別相談」を集中的におこなっている。通常の個別相談では、科研費の研究計画調書もしくはそのドラフトをもとに、研究者と URA とが主に個別面談をおこない、研究計画調書のブラッシュアップをおこなう。申請経験の浅い研究者に対しては、希望に応じて、研究デザインや研究内容に関するブレインストーミングをおこなうことで、採択率の向上を目指す。一方、再チャレンジ個別相談では、開示された審査結果と不採択であった研究計画調書をもとに、研究者に次回の申請に活かしてもらうことを目的とする。具体的には、どうして採択に至らなかったのか、その原因を研究者と URA が一緒に考えることが中心である。個別相談の利用者からは、研究分野を



図 2-1. 大勢の参加者で賑わうワークショップの様子（2015 年 7 月 16 日撮影）

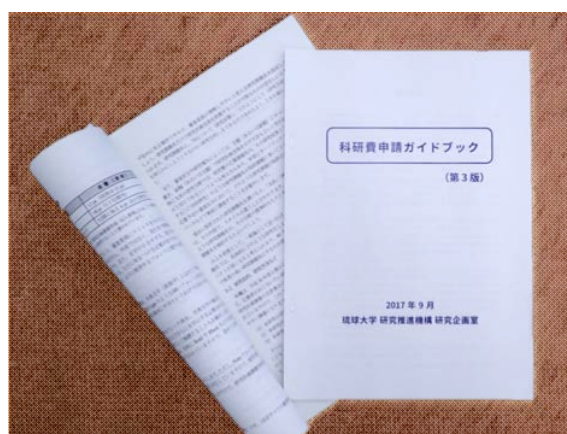


図 2-2. 科研費申請ガイドブック（第 3 版、2017 年 9 月発行）

異にする人に「読ませる」「理解してもらう」ための説得的な論理構成のノウハウを教示していただいた、不採択の原因がわかり、次の申請までに何をすることが必要であるかが明確になった、などの高い評価を得ている。

（支援 3）ワークショップ： 科研費の不採択者を主たる対象とした再チャレンジワークショップおよび科研費獲得ワークショップの 2 本立てで開催している（図 2-1）。再チャレンジワークショップは、主に審査の観点から見た審査結果の解釈方法、研究計画調書の改善例を参加者と URA がともに考え、議論するとともに、平成 29 年度からは、過去に URA を利用して採択された研究者の『研究計画調書改善の実例』と題する講演をおこなうことで、より参加者に具体的な改善例が伝わるような工夫をおこなっている。科研費獲得ワークショップは、採択への実践編と題し、研究計画調書の前年度からの変更点（特に平成 29 年度には、平成 30 年度からの科研費改革に伴う研究計画調書および審査システムの大幅な変更点）の解説をおこなったあと、審査の観点に沿って、参加者がみずから考えられるような企画を毎年おこなっている。平成 27 年度は、モデル計画調書の批

評、同 28 年度は、採択された研究計画調書の良い部分の探索、同 29 年度は自分の研究興味を学術研究にするための研究デザインの実践をおこなった。その時に用いた研究デザインに関するワークシートは、参加者の先生から大学院学生の指導にも利用したいとの申し出をいただくなど、好評を博している。

再チャレンジワークショップの参加者は、平成 27 年度 35 名、28 年度 25 名、29 年度 16 名であり、参加者数の減少が続いているが、これは、ワークショップに参加した研究者が採択され、勝ち抜けしたための減少と考えられる。また、科研費獲得ワークショップの参加者は平成 27 年度 47 名、28 年度 17 名、29 年度 83 名であった。平成 29 年度は、科研費審査システムの大幅な変更に加え、医学部総務課の多大な協力により、講座毎に周知をおこなったため、参加人数が大幅に増加したと考えられる。このようなワークショップ形式での科研費申請支援をおこなっている機関はまだ少なく、他大学や研究機関から内容や参加人数などの詳細についての問い合わせを受けた。

（支援 4）説明会： 平成 27 年度から、新任教員研修において、井上 URA が、研究活動スタ

表 2-1. 科研費に関する教授会 FD および部局長等との意見交換の実績

実施日	部局	内容	担当 URA
2016.3. 23	工学部	科研費／教授会 FD	殿岡
2016.4.20	法文学部・観光産業科学部	研究推進の方策／部局長等との意見交換	高橋・井上
2016.4.22	観光産業科学部	研究推進の方策／部局長等との意見交換	高橋・井上
2017.3.6	農学部	科研費および競争的研究資金公募情報検索システム／教授会 FD	井上
2017.6.6	法文学部	研究推進の方策／部局長等との意見交換	井上・高橋
2017.6.21	観光産業科学部	科研費／教授会 FD	井上・高橋
2017.6.28	法文学部	科研費／教授会 FD	井上・高橋
2017.7.14	工学部	研究推進の方策／部局長等との意見交換	井上・殿岡
2017.7.26	工学部	科研費／教授会 FD	井上
2017.8.31	法文学部	研究推進専門委員会陪席	高橋
2017.9.13	法文学部	科研費／教授会 FD	高橋・井上・北條
2018.1.12	工学部	研究推進の方策／部局長等との意見交換	井上・殿岡

ート支援を含め、科研費関係の説明を担当している。科研費応募時期には、研究推進課が中心となり、事務手続きに関する説明に加え、採択経験豊富な文系・理系・医系の各先生の自身の獲得経験にもとづいた講演を中心におこなっている。また、9月の公募開始後には日本学術振興会の職員を招聘し、県内の大学を対象にした説明会を開催している。上記の全学的な説明会に加え、教授会からの求めに応じて、科研費に関するFD (Faculty Development) および科研費を中心とした研究推進策に関する部局長との意見交換を実施しているほか、求めに応じて、部局の研究推進に関する専門委員会等にも陪席している（表 2-1）。

（支援 5）科研費申請ガイドブック：研究企画室では、科研費の申請経験の少ない研究者を対象に、自身の研究内容をどのようにして審査委員に伝わる研究計画調書に落とし込むかを中心に、研究計画調書の作成方法の基礎を記した科研費申請ガイドブックを平成 27 年度より発行している（図 2-2）。本ガイドブックは、利用者から大変好評を得ており、平成 29 年度には第 3 版となった。本ガイドブックの電子ファイルは、利用者の利便性のため、「研究推進のための学内限定情報」ウェブサイト上で公開している。

（支援 6）研究資金公募情報検索システム：本検索システムは、科研費以外の競争的研究資金の公募情報を一元的に研究者に提供するものである（図 2-3）。研究企画室がシステムの管理運営をおこない、研究推進課、地域連携推進課、国際連携推進課、医学部総務課（研究）、ジェンダー協働推進室が協働して情報を入力している。当初は国および政府系機関が実施する公募情報のみを掲載していたが、掲載の範囲を順次拡大し、現在では、地方公共団体や民間財団の実施する公募情報も掲載し、ほぼすべての公募を網羅している。トップページへのアクセス数は、2016 年 10 月 30 日の本格稼働以来、およそ 4000 回である（2018 年 1 月現在）。

4. おわりに

以上のように、研究企画室では、主として科研費の採択率の向上を目指す支援策を実施し



図 2-3. 琉球大学競争的研究資金公募情報検索システムのトップページ

てきた。課題として、科研費への応募件数が伸び悩む中、ワークショップへの参加者が減少するなど、応募件数の増加を目指す取り組みを実施する必要がある。応募件数を増やすためには、研究者の意識改革が必要であり、各部局が中心となり、各部局の特性に応じた支援策をおこなっていく必要がある。このため、研究企画室では、「各部局等における研究推進機能の強化に向けて（案）」を作成し、研究推進会議で内容を議論しているところである。今後は、従前から研究企画室および研究推進課でおこなってきた採択率の向上を目指す支援策をルーチンとして実施するとともに、この案を元に、各部局等に URA が説明に出向き、各部局等と連携した応募件数の増加を目指す支援策により、更なる研究の推進を図る予定である。

（井上雄介）

2-2 本学の研究力分析とその活用

1. はじめに

リサーチアドミニストレーター (URA) がおこなう業務のひとつに「研究戦略推進支援業務」がある。この業務は、大学の執行部が研究を推進するための戦略をつくる際に必要な情報を提供するもので、(1) 政策情報などの調査分析、(2) 研究力の調査分析、(3) 研究戦略策定の3つに分類される。

研究企画室においても、(1) 政策情報などの調査分析では、URA が文部科学省の審議会や委員会などを傍聴し、その内容を報告する、(2) 研究力の調査分析では、競争的研究資金などの外部資金の獲得額、出版した論文などの研究成果の量および質の分析、(3) 研究戦略策定では、研究推進会議への陪席と必要に応じた説明、などの活動をおこなっている。その中でも、井上 URA は、平成 29 年度から大学評価 IR マネジメントセンターの評価企画員および IR 企画員を併任しており、本学の研究力の分析の中心を担っている。そのため、ここでは、本学の研究力分析について、競争的研究資金に係る分析および研究成果に係る分析について記し、次いで、分析結果の活用例を記す。

2. 分析

競争的研究資金に係る分析：科学研究費助成事業 (科研費) は、国などの政府系機関の公募する競争的研究資金の半分以上を占める研究者にとってもっとも基本的な研究資金であり、採択にあたっては、その分野の専門家による審査 (ピアレビュー) がおこなわれている。また、採択課題 (研究代表者の所属に加え、各年度の配分予定金額を含む) は科研費データベースで、また、配分結果 (採択件数および金額) は、文部科学省ウェブサイトでそれぞれ詳細なデータが公開されている。そのため、研究企画室では、競争的研究資金として、主として科研費の採択件数および配分金額の分析をおこなっている。

具体的には、大学全体の科研費採択件数・配分金額の推移を規模の似た国立大学 (医学部を持ち、学部数が 9 以下の総合大学、グループ G

と呼ぶ) 25 校と比較し、ベンチマーキングをおこなうとともに、科研費データベースを用いて、部局別の採択件数・配分金額をグループ G の 25 校とのベンチマーキングも併せておこなっている。また、求めに応じて、部局別の科研費申請者数・採択者数・保有率・申請率などのデータを集計し、当該部局の研究推進専門委員会などに情報を提供している。

研究成果に係る分析：学術上の研究成果には、論文・書著・学会発表・講演などが挙げられるが、文部科学省が各大学の研究活動の状況を測定するために平成 25 年に出した『研究大学強化促進事業におけるヒアリング対象機関選定のための指標』では、論文の質を「論文数における Top 10 % 論文数の割合」で測り、国際的な研究活動の活発さを「論文数における国際共著論文の割合」で測ることが示されている。前者は、出版された論文が他の論文に引用された回数 (被引用数) を指標とし、後者は、論文の著者に日本国外の機関に所属する研究者が含まれているかどうかを指標としている。このことから、研究企画室でも、これに倣い、ピアレビューを経た国際学術雑誌 (具体的には、学術文献データベースである Web of Science に収録された雑誌) に掲載された論文の数およびその質に関する分析を中心に、分析ツールである InCites を用いておこなっている。

3. 分析結果を活用した事例

分析した結果は、一般的なものは、役員等ミーティング、研究推進会議、大学評価 IR マネジメントセンター会議などの場で報告し、執行部の研究推進方策立案に寄与している。その他、特定のオーダーに対する分析の活用例として、学長リーダーシッププロジェクト評価選定委員会への情報提供、熱帯生物圏研究センター (熱生研) の論文分析などがあり、以下にこの2つについて記す。

(事例 1) 学長リーダーシッププロジェクト評価選定委員会への情報提供：本学では、研究の「とんがり」分野における中心的な研究者を対象に、

学長リーダーシッププロジェクトのPIを委嘱し、特命助教の雇用経費と研究費を支援している。研究企画室では、研究の「とんがり」分野の炙り出しとPI候補者の絞り込み、また、PIの評価に関し、客観的な視点から情報提供をおこなった。

研究の「とんがり」分野とは、本学の研究の強みとなる分野で、Web of Science に収録されている雑誌に掲載された論文について、分野を表すキーワードで検索し、その数の国内順位を元に分野を特定した。また、本学では、必ずしもすべての分野の論文が Web of Science 収録雑誌に掲載されているわけではないため、科研費の旧分科細目別の採択件数の国内順位も分野の特定に利用した。

PI 候補者の絞り込みについては、本学の研究者が出版した論文の数に加え、各論文に対し、その分野における被引用数の上位何パーセントに位置するか（Category normalize citation impact: CNCI）、分野の被引用数上位 10% 論文数、科研費の採択件数・種目のデータを提供した。PI の評価については、PI から提出された報告書に挙げられた研究業績としての各論文に対し、論文の CNCI、掲載された雑誌のインパクトファクターのデータを提供した。

（事例 2）熱帯生物圏研究センターの論文分析：全国共同利用・共同研究拠点である熱帯生物圏研究センター（熱生研）の研究者が 2001–2016 年に出版した論文について、各論文の CNCI（当該論文の被引用数がある分野内において上から何パーセントに位置するのか）、また、国際共著論文であるかどうかの分析をおこなった。その結果、論文が掲載されている雑誌の指標であるインパクトファクターの高さにかかわらず、被引用数が上位の論文が多くあることを示すことができたため、平成 27 年度の期末評価での高い評価（A 評価）に貢献できたと思われる。また、国際共著論文も数多くあり、この結果は、文部科学省の科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会における酒井センター長の「琉球大学熱帯生物圏研究センターにおける国際化の取り組み」に関する説明資料として活用された。

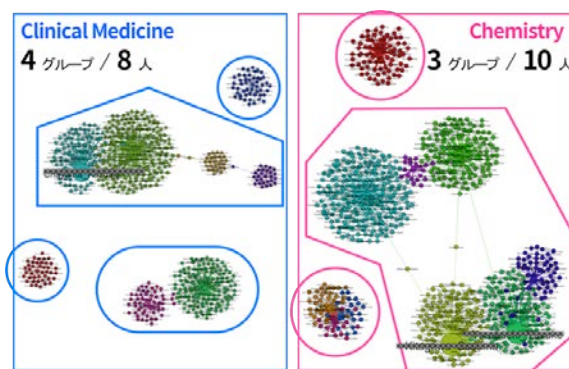


図 2-4. 医歯薬系（Clinical Medicine）と化学系（Chemistry）の 2 分野について高いインパクトを与える論文を出版した研究者の共著ネットワークの比較例。各分野の中心となる研究者を見出すことができる

4. おわりに

このように、研究企画室では、研究力の客観的な分析に取り組んでいるが、現在、新たな研究力の指標の策定も目指している。例えば、平成 28・29 年度の統計数理研究所の共同利用公募研究重点テーマ「学術文献データ分析の新たな統計科学的アプローチ」において、井上 URA が代表となり、昆 URA、村社経営戦略課 IR 推進係長と共同で『学術文献データベースを用いた共著分析とその可視化』を実施し、高いインパクトを与えている論文の共著関係のネットワークの可視化を試みている（図 2-4）。また、2018 年 1 月 18 日には、本学で IR に関する研究集会『日本版研究 IR の発展を目指してー統計科学に基づく異分野融合指標を例にー』を統計数理研究所の後援のもとで、主催した。本研究集会は、統計学関係の研究者、URA や IRer などの実務者双方から、合計 26 名の参加があった。

今後は、研究力の客観的な分析を進めるとともに、他の URA や統計学者と協力し、より精度の高い分析指標の策定を進めるとともに、本学の研究推進に役立つ情報を積極的に提供していく予定である。

（井上雄介）

2-3 新たな機器共用システム（先端研究基盤共用促進事業）の導入と運営

1. はじめに

本学では、全学的な技術センターとして平成19年に「機器分析支援センター」を設立し、主に化学系分析機器を中心に機器共用システムの運営をスタートさせた。平成28年10月1日には物理系の極低温センターと統合して「研究基盤センター」に生まれ変わり、より幅広い研究分野のサポートが可能となった。このような機器共用システムを構築していく過程で、平成28年度より開始した文部科学省の先端研究基盤共用促進事業（新たな共用システム導入支援プログラム）にリサーチアドミニストレーター（URA）が中心となって応募・採択されたことから、新たに生命科学分野でも機器共用システムを展開し、琉球大学全体の戦略としてさらに拡充・発展させていくこととなった。生命科学分野には本学の特色分野の一つである生物多様性分野も含まれ、共用システム導入は本学の特色分野強化の戦略として位置づけられる。

事業の目的：本事業は文部科学省による委託事業であり、平成28年度に立ち上げられたプログラムの一つである。本プログラムでは、大学等の研究機関内で散在している研究機器を学科・専攻など共通の研究目的を共有する研究組織単位で集約し、一元的に管理・共用化することの推進を目的としている。

予算：平成28年度 約4,000万円、平成29年度 約2,400万円、平成30年度 約2,400万円。

担当：昆 健志 主任 URA（申請から運営まで）。

2. 採択の経緯

平成28年1月に西田研究企画室長（理事・副学長）より本事業への申請検討の指示がURAにあり、1月末から2月にかけて情報収集と申請検討をおこなった。当時の船木副室長（研究推進課長）が文部科学省の担当課である科学技術・学術政策局研究開発基盤課を訪問し、昆URAが北海道大学における共用機器に関す

るシンポジウム「第3回北海道大学オープンファシリティシンポジウム」に参加することにより、情報収集をおこなった。また、並行して本学の既存の機器共用システムを運営している機器分析支援センター（現 研究基盤センター）の中村センター長とも意見交換もおこなった。これらの検討結果から、本プログラムに申請することとなり、昆URAが取りまとめを担当することとなった。

本プログラムは平成28年2月25日に公募が開始され、翌月の3月3日が文部科学省での説明会、そして3月17日が公募締め切であったことから、申請書作成期間が実質2週間ほどの短時間作業となった。説明会後の3月7日には、共用機器に関わる部局等の長や実務担当者が一堂に会した意見交換会をおこなった（医学部および医学部附属実習機器センター、熱帯生物圏研究センター、機器分析支援センター、および戦略的研究プロジェクトセンターなど）。ここでの意見交換の結果を受け、さらに農学部や医学部保健学科、理学部海洋自然科学科とも連絡を密にして、申請書の作成が開始された。

この意見交換会の開催は、短期間でしっかりとした申請書を完成させるための重要なポイントであった。申請書作成にあたっては、各部局の担当教員の他にも事務部との連携も非常にスムーズに進み、また機器共用システムを運営経験のある機器分析支援センターのノウハウも十分に取り込むことも可能となった。

申請から2週間ほど経った3月29日には、面接審査の実施連絡（書類審査通過）が文部科学省よりあった。面接審査は4月4日に実施することとなり、プレゼン資料を2日間で作成することになった。面接には、西田室長（説明者：担当役員）、着任間もない山田副室長（研究推進課長）、昆URA（申請書およびプレゼン資料作成者）の3名で臨んだ。説明時間が5分と短いことから無駄のない発表を間違いなくする必要があり、開室まもない琉球大学東京オフィスにて事前の練習を入念におこなった。その結果、面接での説明は滞りなくおこなうことができ、質疑応答では前向きな質問がほとんどであった。

以上のプロセスを経て、平成 28 年 4 月 28 日付けで採択通知があった。本プログラムは 6 月 1 日より開始された（平成 30 年度末までの予定）。研究企画室は、平成 30 年 1 月現在、全学的な戦略として組織横断的に生命科学分野の先端機器を共用し、これを効率良く運用することで研究力水準を向上させることを目的とした本プログラムの運営を支援している。

本プログラムのマネジメントは、全学的横断組織である研究推進機構内に設置された研究基盤センター、戦略的研究プロジェクトセンターおよび研究企画室、そして事務組織である総合企画戦略部研究推進課が中心になった組織体制で行われている（図 2-5）。本プログラムによって雇用した教員は、そのうちの戦略的研究プロジェクトセンターの所属とし、同機構内の研究企画室に所属する URA、研究基盤センターの教職員および研究推進課職員と協働して本プログラムの運営にあたっている。このマネジメント体制のリーダー（本プログラムの担当役員）は、研究推進機構の機構長でもある研究・企画戦略担当理事であることから、大学経営陣とプログラムマネジメント組織との意思疎通はスムーズであり、大学の戦略として機器共用化を推進する体制が構築されている。

3. 共用システムの整備状況

管理運営体制や運用ルールの整備：全学的に研究機器の共用化を進めるために、平成 28 年 6 月に新共用システム運営委員会（研究基盤セン

ター、戦略的研究プロジェクトセンター、研究企画室、総合企画戦略部研究推進課）を立ち上げ、平成 28 年 12 月までに 10 回の委員会を開催した（昆 URA が運営委員として参画）。同運営委員会は、本プログラムの機器共用化の実務を担い、共用機器の保守・運営の中心となり、学内に分散した機器の共用化やそれらの運営に関わる規則の検討をおこなった。

その成果として、平成 28 年 12 月には新たな機器の共用化や運営に関わる規則等*を制定し、本学における共用機器の運用について制度化した。そのために新たに共用機器管理委員会を研究基盤センターに設置し、平成 29 年 1 月 11 日に第 1 回目の委員会を開催した（昆 URA が運営委員として参画）。

また、新共用システム運営委員会では、新たに共用化する機器の利用料金を設定した。料金の計算は、使用する消耗品、電気代、利用予測などに基づき計算し、学内ユーザー分析、依頼分析（学内からの依頼）、受託試験（学外からの依頼）の 3 つの料金区分を設定した。

これら規則等の制定と委員会の設置により、全学的な機器共用化の仕組みが整備された。

*整備した規則等は以下の通り。

- ・琉球大学研究に係る共用機器の管理に関する規程
- ・琉球大学共用機器管理に係る申合せ
- ・琉球大学共用機器利用細則

構築状況：本プログラムの共用システムの管理・運営に、既存の研究基盤センターのシステム（非接触型 IC カードと学内 LAN を用いた機器利用管理・予約システム）を導入した。このシステムでは、登録研究者の機器利用時間/回数の把握をすることができ、その記録により機器利用料を徴収して、システム運営のための共助分担として保守管理費用を捻出し、共用機器システムの持続可能性が向上した。

本プログラムでは、この先行の共用システムとそのノウハウを、全学的に分散配置されている生命科学系の分析機器に展開し、同分野における先端機器を多くの研究者や学生が利用可能となる全学一体の機器管理システムの構築

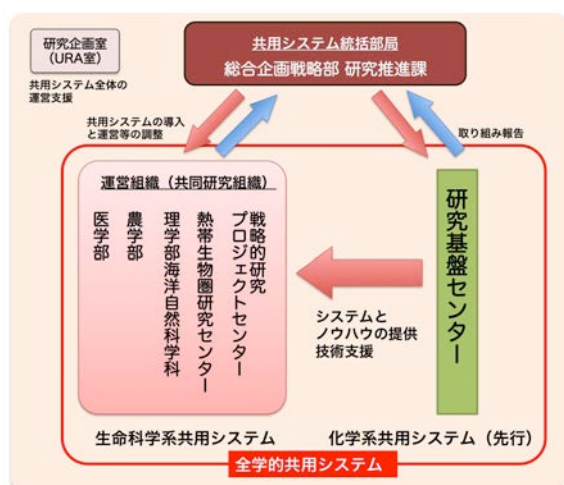


図 2-5. 新共用システムの組織図

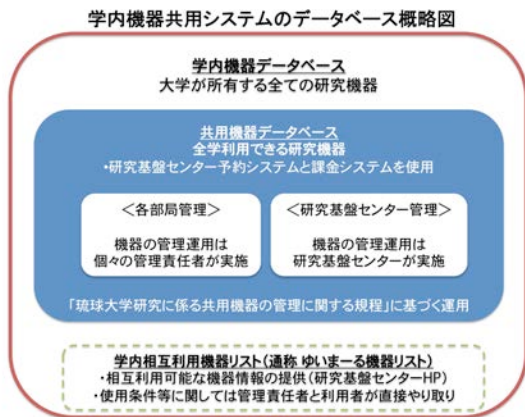


図 2-6. 学内機器の共用体制。共用・予約システム外の機器も含めて全てのデータベース登録を進めている

を進めている。これらのシステムをより多くの研究者によりわかりやすく利用してもらうために、平成 29 年には、予約管理システムの改修と英語ページの作成を進めた。

共用ルールの整備：千原キャンパス内の亜熱帯島嶼科学拠点研究棟にある戦略的研究プロジェクトセンター実験室を全学的共用機器の共用ルームとして使用し、既存の研究基盤センターのカードキーと統一化を図るなどの共用化に向けた整備を実施した。また、新たに再配置して共用化する機器(キャピラリーシーケンサー)のために電源工事をおこなった。

再配置した機器：平成 29 年までに、再配置した機器は 2 台であった。

①キャピラリーシーケンサー (ABI 3130xl) は、しばらく休止状態にあったが、本機を本学熱帯生物圏研究センターより戦略的研究プロジェクトセンター実験室へ移設した。この際には、休止状態の要因でもあった高額部品の交換やソフトウェアの更新などの更新再生作業もおこなった。

②液体シンチレーションカウンターについては、熱帯生物圏研究センターより研究基盤センターに移設し、更新再生作業を行い共用化した。

更新再生した機器：平成 29 年 12 月までの更新再生機器の台数は 14 台である。

共用機器の数：平成 29 年度における本プログラムの生命科学系共用機器の台数は 47 台である。

ウェブページ：新しく導入する共用システムをより多くの研究者に利用してもらうために、本プログラムを紹介するウェブページを作成して、公開している (<http://www.res.lab.uryukyu.ac.jp/sharing.html>)。

学内機器データベースの構築：現在まで、本プログラムによって共用化した機器を含めて、共用機器のデータベースを構築してきた(研究基盤センター管理の機器と部局管理の機器)。平成 28 年度からは、共用システムに含まれていない研究機器類のリスト作成も開始し(通称 ゆいまーる機器：「ゆいまーる」とは沖縄方言で相互補助の意)、研究者同士が相談をして、相互に利用できるシステムの構築も目指している(図 2-6)。

外国人研究者および留学生対応：予約システムや機器マニュアル類の英語化を進めている(業者発注済み、今年度中に納品予定)。

保守管理の実施状況：平成 29 年までに本プログラム費より一元的にメンテナンスした機器は次の通りである(計 5 台)。

- ・DNA シーケンサー (MiSeq)
- ・DNA キャピラリー シーケンサー (ABI 3130xl)
- ・セルソーター (SONY 製)
- ・レーザーマイクロダイセクション
- ・イオンクロマトグラフ

スタッフの配置状況：本プログラムで 3 名(特命助教 1 名、ポスドク研究員 1 名、事務補佐員 1 名)を雇用している。特命助教は、共用化された機器に関する運用ルール作成、さらなる機器共用化のための説明資料作成など本プログラムの運営の中心的な役割を担っている。ポスドク研究員(平成 28 年度は技術補佐員)は、共用機器の日常メンテナンスを主に担当し、機器の簡易マニュアル等の作成もおこなった。事務補佐員は、本プログラムの運営全般の庶務を担当している。

共用機器の稼働率：平成29年上半期(4～9月)における実績は、共用機器38台において、平均総稼働時間171時間、うち共用としての平均稼働時間156時間であり、稼働率は18%(前年度より5.1ポイント上昇)、共用率は91%(9ポイント減少)であった。稼働率の上昇は、本プログラムが順調に実施されていることを示しているといえる(表2-2)。一方、共用率の減少は、研究基盤センター等の共用施設以外の研究室から提供された機器が増加し、管理している研究者の使用時間は共用に含めていないためである。

4. 特徴的な取組

ゲノミクス解析支援チームによる支援：本プログラムの中心的な共用機器の一つである次世代シーケンサーMiSeqを用いたゲノミクス研究を進展させるため、部局の壁を越えたゲノミクス解析支援チームを平成28年に立ち上げて活動を開始した(図3)。本チームは学内教職員10名(医学研究科・工学部・熱帯生物圏研究センター・戦略的研究プロジェクトセンター)で構成され、全般的な支援や技術・解析指導等を行い、毎週火曜日にミーティングとゼミを開催し、学生や若手教員からの研究相談や解析支援、技術指導を行っている(計27件、平成28年12月現在)。さらに、共用対象機器を利用したい学生のために、個別での実験指導等を実施している。具体的にはDNA解析機器(MiSeq, ABI3130xl)を使用したい各学部(理・農・医)の学生に対し、平成29年中にも十数回にわたる実験および解析指導を実施した。これにより学生が自ら共用機器を利用した実験解析をおこなうことができるようになり、より高い教育的な効果が得られている。

また、ゲノミクス解析支援チームでは、解析機器のノウハウ・データ共有を進めている。

MiSeqの運用に関し、定期的にミーティングをおこなう事で、各員の解析ノウハウを蓄積すると共に、その情報をクラウド上で管理することにより共有化を図った。また遺伝子解析専用の学内サーバを整備し、各研究者がネットワーク上で必要な解析をおこなうことできる環境を構築した。更に新たに学内ネットワーク上に「機器カルテ」システムを構築し、機器管理情報の集約とデータベース化を行っている。

機器講習会：本プログラムに関わる共用機器の講習会を平成28年(6～12月)に11回、平成29年(1～9月)に10回開催した。開催した講習会は以下の通りである。

【平成28年】

- 6月27日 イオンクロマトグラフ講習会(初心者向け操作説明、参加者5名)
- 7月19日 初心者のための分析機器利用ガイド(6名)
- 7月29日 次世代シーケンサーセミナー(MiSeqセミナー、35名)
- 8月9日 質量分析セミナー(27名)
- 10月14日 レーザーマイクロダイセクション講習会(16名)
- 10月20日 理化学機器展示会(22名)
- 11月22日 透過電子顕微鏡の基礎・応用アプリケーションセミナー(13名)
- 11月30日 走査電子顕微鏡セミナー(15名)
- 12月2日 後期オリエンテーション 利用者説明会(10名)
- 12月7日 バイオ基礎実験セミナー(12名)
- 12月9日 セルソーター セミナー&講習会(22名)

表2-2. 共用機器における稼働時間・共用時間の実績と目標

	①稼働可能時間	②総稼働時間	③共用時間	④稼働率 (②/①)	⑤共用率 (③/②)
H29.3(実績)	1608 時間	208 時間	208 時間	12.9 %	100 %
H29.9(実績)	968 時間	171 時間	156 時間	18 %	91 %
H30.3(目標)	1952 時間	371 時間	338 時間	19 %	91 %
H31.3(目標)	1952 時間	482 時間	440 時間	25 %	91 %

【平成 29 年】

- 1 月 18 日 キャピラリーシーケンサー (ABI 3130xl) 説明会 (16 名)
- 2 月 22 日 RNA-seq 系統解析セミナー (25 名)
- 2 月 23 日 共焦点レーザー顕微鏡操作説明会 (11 名)
- 5 月 25 日、26 日 レーザーマイクロダイセクション 機器講習会 (20 名)
- 6 月 6 日、7 日 NC、CHN 元素分析装置 機器講習会 (11 名)
- 6 月 15 日 蛍光顕微鏡 機器講習会 (11 名)
- 6 月 20 日 1 分子リアルタイム DNA シーケンサー セミナー (21 名)
- 8 月 25 日 ライフサイエンス分析機器セミナー (8 名)
- 9 月 25 日～28 日 Q-TOF-MS 機器講習会 (4 名)
- 9 月 28 日 プロテオミクスセミナー (9 名)

機器見学会：機器見学会は平成 28 年度に初めて開催したイベントで、主に研究機器の広報活動の一環として、機器の概要説明及び操作デモを実演した。利用者を広く集めることを目的としているので、「初心者のための分析機器利用ガイド」のように手軽すぎず、且つ上述の操作説明会・講習会のような事前知識を求めない方式を試みた。開催した見学会は以下の通りである。

【平成 28 年】

- 11 月 29 日 ゲル撮影装置 見学会兼観察デモ (3 名)

【平成 29 年】

- 6 月 8 日 実体顕微鏡 見学会兼観察デモ (6 名)

研究紹介セミナーの実施：新規利用者の掘り起こしによる共用機器の利用促進を図るため、各種共用機器を使用している研究者に、実際に機器を利用しておこなった研究内容を紹介してもらうセミナーを実施した (計 1 回)。

【平成 29 年】

- 6 月 13 日 共用機器を利用した研究紹介セミナー (19 名)

共用機器レンタルサービスの実施：平成 29 年度より一部の少額共用機器 (サーマルサイ클ラー、パルスフィールド電気泳動装置) を対象に学内での機器レンタルサービスを開始している。これにより共用機器を活用した、新規教員の赴任時の迅速な実験環境の整備や、各研究室における一時的な実験量の増大へ対応が可能となった。

分野融合・新興領域の拡大への取り組み：

・沖縄の地域特性を生かした環境 DNA 技術開発

本学では沖縄の地理的特性を生かした研究が推進されてきたが、その多くはフィールド調査や観察に基づくものであった。それらの知見を活かしつつ研究を発展させていくために、本事業での共用化対象機器である MiSeq を用い、先端解析技術である環境 DNA 解析を全学的な研究テーマに組み込み、沖縄独自の環境 DNA 解析技術の構築を試みている。その結果、環境保全や保健衛生に関連した技術協力も県内企業との間で進みつつある。

・化学と生命科学の融合的な研究の推進

既存の化学系共用機器で行われてきた解析と、新たに共用化された生命科学系機器 (MiSeq 等) の解析を組み合わせることで、より包括的かつ先進的な研究の実施が図られている。具体的には鍾乳石の形成と微生物との相互作用に関する研究等が開始されている。

・共用機器を利用した文理融合研究推進の試み

本共用システムを運用する教職員と考古学分野の若手教員 (戦略的研究プロジェクトセンター) による、共用機器を利用した新たな考古学資料 (土器) における解析手法の共同開発が開始された。その際、資料の提供や検討会を通じ、外部研究機関 (沖縄県立埋蔵文化財センター) との協力関係も構築され、大学外との研究ネットワークも拡大しつつある。その成果は民間外部資金の新規獲得 (1 件) や関連学会 (沖縄考古学会) での発表という形で表れ始めている。

5. 支援プログラム終了後の方策

共用機器システムを継続していくために、平成 28 年度には共用システム運営にかかわる規定等を整備し、平成 29 年度は本規定等に基づき、共用機器管理員会等によるシステムの運用管理を実施している。合わせて共用システムに関わる学内予算枠も研究推進会議を通して整備しており、平成 31 年度以降も継続して共用システムを運用していく予定である。

また本事業では生命科学分野の解析機器を対象とした共用システムの構築を行っているが、加えて、工学系などの生命科学系以外の解析機器に対象を広げることにより学内への水平展開を図り、最終的にすべての研究解析機器を対象とした学内主要研究組織（9 組織）での共用システム運営が行われる予定である。

さらに沖縄県内の各研究教育機関（沖縄科学技術大学院大学、沖縄工業高等専門学校など）

や沖縄県と連携し、本事業で整備した共用システムを基盤とした新たな機器共用の枠組み構築することで学外への水平展開を図っていく。例えば、おきなわマリンサイエンスネットワーク（平成 29 年に設立された沖縄県内の海洋研究・調査に関わる 10 機関で構成）による海洋研究関連の連携研究体制や、次世代シーケンサーを中心とした機器共用プラットフォームの構築を目指していく（県内 3 機関）。このような水平展開については、特に URA が中心となって進めていく予定である。

本事業で雇用した教職員に関しては、事業終了後も雇用継続に努めることで人的にも持続した共用システムの運用をおこなう予定である。URA はその制度設計・運営についても引き続き精力的に取り組み、本学の研究推進に貢献したいと考えている。

（昆 健志）

2-4 学際的・複合的研究プラットフォーム形成と URA の役割～水循環プロジェクトを例に

1. はじめに

ある学問分野の深化だけではなく、「文理融合」や「学際的研究」による新たな学術領域の創出が求められて久しい。しかし、異分野の研究シーズとのマッチングや部局横断的な事務調整・運営など、PI（研究者）の負担が大きくなるなど多くの課題を抱えている。これらの課題を解決し、学際的・複合的な研究を加速させるため、本学では平成 27 年度に研究バックグラウンドを持ったインタープリター（翻訳家）として URA が導入されたことは、先述したとおりである。

平成 27 年度に研究推進機構が設置されると、戦略的研究推進経費「中期計画達成経費」の運用が、各部局代表者から構成される研究推進会議によって見直され、部局を越えた学際的・複合的な研究を推進するため、PI が責任をもつ研究チームの立ち上げの強化や、人事制度の見直しによる若手研究者の雇用など学内ファンドのあり方が検討された。さらに、研究企画室が設置されると、平成 28 年度より、戦略的研究プロジェクト（旧中期計画達成プロジェクト）に採択された研究プロジェクトをより効果的に実施するため、プロジェクトマネジメントを担当する URA を配置するなど、URA がプレアワード支援からポストアワード支援まで一貫して伴走する研究サポート体制を整備した。

本コラムでは、URA が横串となって研究プロジェクトに参画することによって、学内ファンドを獲得した研究プロジェクトが、分野や部局を横断する学際的・複合的な研究プラットフォームへと拡充し、地域との連携や大型外部資金の獲得にスピノフした「水循環プロジェクト」を紹介する。

2. これまでの課題（URA 着任以前）

本プロジェクトは、本学の特色ある学術領域のひとつである「島嶼」の脆弱な水環境が抱える様々な地域課題を解決するために、URA が研究者や地域のつなげ役となり、琉球大学の自然科学系や社会科学系の多彩な研究領域からなる学際的な研究チームの支援をおこない、行

政や企業、博物館、小中学校、NPO 等の地域の人びとと協働・対話しながら、その解決策を考え、実践に取り組む地域課題解決型研究のひとつである。

琉球弧の島々では近年の居住・観光人口の増加に伴って土地利用が進み、地下水や湧き水の塩水化・枯渇化、飲み水用水源の水質悪化、農業用水や観光用水の不足、水質悪化による生き物や農作物への悪影響など、さまざまな問題が起きている。これらの問題の解決には、琉球弧特有の水循環の特性を科学的に把握することや人間活動が環境に与えている影響を軽減するための技術開発が重要である。さらに、きれいな水を使い続けることができる社会をつくるためには、水との関わり方を見つめ直すことが欠かせない。

琉球大学では、平成 26 年度より、このような問題意識をもった自然科学系や社会科学系分野の研究者からなる学際的な研究チーム「水循環プロジェクト」を立ち上げ、学内の競争的資金（琉球大学研究推進戦略経費等）を 3 年連続獲得しながら、島嶼地域の水循環を総合的に理解する分野横断的な研究を推し進めてきた。

しかし、平成 28 年 3 月、研究企画室に、当時の戦略的研究プロジェクト・リーダーから、現在のチームは理学部や農学部自然科学系研究者が中心であり、今後、サイエンスと社会をつなぎ、島嶼地域の水環境に関する社会課題解決型研究へと展開する上で、人文・社会科学系や工学系、医学系研究者との連携や共同研究をおこないたいと相談があった。そこで、人文・社会科学系研究の推進を主に担当する高橋主任 URA が、平成 28 年度の戦略的プロジェクト「琉球島嶼の水循環と琉球石灰岩に関連した学際的研究」を担当し、学際的・複合的な研究プラットフォームの構築と地域社会との連携をサポートすることになった。この「水循環プロジェクト」がこれまで獲得した競争的資金は以下の通りである。

- ・琉球弧の島嶼域と海洋環境の総合的な地球化学的解析（平成 26 年度 琉球大学研究推

進戦略経費 中期計画達成プロジェクト、代表 理学部 新城竜一教授）。

- ・異分野融合による琉球弧の島嶼地球環境科学（平成 27 年度 琉球大学研究推進戦略経費 中期計画達成プロジェクト、代表 理学部 藤田和彦教授）。
- ・琉球島嶼の水循環と琉球石灰岩に関連した学際的研究（平成 28 年度 琉球大学研究推進戦略経費 戦略的プロジェクト、代表 理学部 新城竜一教授）。
- ・JST 科学技術コミュニケーション推進事業 未来共創イノベーション活動支援「水の環でつなげる南の島のくらし」（代表 理学部 新城竜一教授）。

3. 学際的研究プラットフォーム形成と URA の役割（プレアワードおよびポストアワード）

URA の主な研究サポート業務には、競争的研究資金を獲得するまでのプレアワード支援と研究費獲得後のプロジェクトマネジメントを始めとするポストアワード支援、研究成果を発信する研究広報支援などがある。「水循環プロジェクト」においては、3 年間、本学の特色ある研究として学内ファンドに採択された実

績があり、URA によるプレアワードおよびポストアワードの両支援を受けて、分野横断型の研究や外部資金獲得へと新たなフェーズに展開中である（図 2-7）。

（プレアワード 1）部局を超えた学際的な研究交流の場の企画や運営：URA として、研究者のニーズに応じた研究者マッチングをおこなうため、はじめに「水」に関わる研究を行っている学内研究者（シーズ）のリストアップをおこなった。そして、学内の研究交流やゆるい研究者ネットワークを促進するため、学際的な研究会の企画・運営をサポートした（図 2-8）。キャンパスの中央に位置する附属図書館 1 階のセミナー室にて月に 1 回の研究会を実施し、多様な研究領域からの参加や、琉球弧の水に関する様々な研究紹介、そして活発な議論をおこなうことができた。なかでも、環境ガバナンスや環境税を対象とする政治学や、明治以後の下水政策と社会変容を対象とする衛生歴史学などの人社系研究者や、水資源の利用と都市計画を専門とする工学系研究者、水環境と長寿研究に関する医学系研究者など、新たな領域の研究者が気軽に参加できる対話の場を創出することができた。

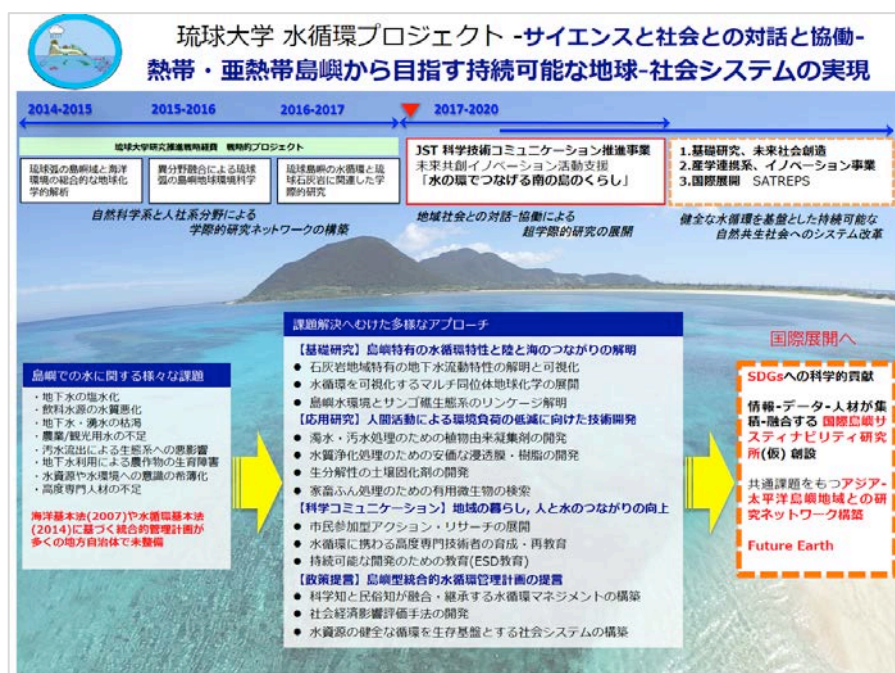


図 2-7. 水循環プロジェクト全体の構想図



図 2-8. 多分野の研究者と URA からなる水循環プロジェクトチームの多良間島合宿（2017 年 3 月）

研究者からは、このような部局を超えた学際的な研究交流により、普段は接点の少ない分野の研究者と顔見知りになったことや、新しい知見を得ることができ、研究アイデアが広がったなどの声が寄せられた。

（プレアワード 2）競争的資金獲得のための情報収集や提供、申請書ブラッシュアップ支援：プロジェクトメンバーによる分野融合的な共同研究の萌芽がみられ、平成 29 年度には 13 本の論文（国内 8 本、海外 5 本）、22 件の口頭発表（国内 18 件、海外 4 件）など、研究成果が確実に現れ始めている。

水循環プロジェクトチームは、これまでの共同研究を通して、水循環基本法を所管とする内閣官房水循環対策本部や沖縄県、国立研究開発法人産業技術総合研究所（産総研）と意見交換を重ね、自然科学的な解析だけではなく、都市計画や保全政策などへも利活用できる島の水循環の特性に応じたビックデータを集約する水文環境図作成の共同研究を検討し始めたところである。

本プロジェクトは、これらの研究成果をもとに外部資金獲得を目指し、これまでに JST 1 件、民間助成 2 件、沖縄県科学技術イノベーション事業 2 件、地球研等へ申請をおこなっている。URA は、競争的資金獲得のための情報収集と提供をおこない、研究企画や申請書のブラッシュアップ支援をおこなった。

（ポストアワード）プロジェクトの進捗管理など：高橋 URA が、水循環プロジェクトチームに担

当として加わり、琉球大学に新しく着任した政治学や歴史学などの若手研究者と自然科学系研究者との研究交流や、行政や地域の方との意見交換や勉強会をおこなうなど、研究者との連携のもと、ネットワークや活動の幅を広げてきた。

平成 29 年度には、これまでの取り組みが評価され、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の平成 29 年度「科学技術コミュニケーション推進事業未来共創イノベーション活動支援」に、全国の競争率 20 倍の中から「水の環でつなげる南の島のくらし」（代表 理学部新城竜一）プロジェクトとして採択された。

本事業では、島の水循環に関する社会・地域課題解決に資するため、科学と社会をつなげ、子どもたちや市民を対象とした科学教室や参加型アクション・リサーチ、水行政者を対象とした高度専門職の育成を目指すワークショップ等を企画・運営し、多様なステークホルダーや多世代と対話・協働しながら、共に解決策を探ることに挑戦している。「水」をキーワードに、自然科学系だけではなく、人文・社会科学系分野の研究者や URA も加わり、地域社会とともに超学際的な研究プロジェクトとして展開している。事業採択後の具体的な支援内容と URA の役割については、次の「事例紹介」で詳述するが、主なポストアワード支援は下記のとおりである。

- （1）進捗状況・予算の管理
 - （2）プロジェクト実施のための内外関係者との調整
 - （3）研究広報支援（メディア対応・発信、寄稿、パネル展、シンポジウム、ウェブ発信等）
 - （4）報告書作成支援
 - （5）新たな外部資金公募情報の収集と提供、申請書作成支援
- ポストアワードからプレアワード支援へと循環

4. 事例紹介：JST 科学技術コミュニケーション推進事業未来共創イノベーション活動支援「水の環でつなげる南の島のくらし」

代表：理学部 新城竜一 教授

期間：2017 年 7 月 1 日～2020 年 3 月 31 日

資金：500 万円×3 年間（1,500 万円）

学内研究者：9 名

担当：高橋そよ 主任 URA（プレアワード & ポストアワード支援）

参加機関：一般財団法人美ら島財団総合研究センターと湧き水 fun 倶楽部、内閣官房水循環対策本部、産総研地圏資源環境研究部門地下水研究グループ、沖縄 GIS、一般財団法人沖縄県環境科学センター、(株)建設技術研究所、大学コンソーシアム沖縄、NPO 法人沖縄ある記 等

沖縄県事業への協力：沖縄県「知的産業クラスター支援ネットワーク強化事業（大学等人材地域マッチング事業）」（地域課題ソリューションプロポーザル業務：担当 宮里大八特命准教授）

JST 事業採択による波及効果（2017 年度）：

- ・新たな資金獲得の好循環
学内環境整備費
日本地球化学会（第 65 回年会、琉球大学開催）：沖縄観光コンベンションビューロー助成金（200 万円）
- ・ネットワークの拡大
内閣官房、沖縄県、産総研、日本科学未来館との共同研究の検討
- ・地域社会との継続的な関係性の構築
八重瀬町：協議会設置に向けて
多良間村：小学校での総合学習
- ・教育・人材育成への効果
大学コンソーシアム沖縄との連携

長期目標：本事業は、これまで水循環プロジェクトが取り組んできた、基礎研究（島嶼地域の水循環機構の解明）と応用研究（環境保全型農業や土地利用の開発）、科学コミュニケーション（水と暮らしの関わりへの向上）の 3 つの柱のうち、研究のアウトリーチ活動を中心とする地域との対話・協働の基盤作りを目指すものである。

本活動のビジョンは、海と陸とを一体的にとらえた統合的な水循環管理を実施することで

健全な水循環を構築し、持続可能な島嶼型自然共生社会を実現するため、多様なステークホルダーとの対話の場を創出することである。

本研究プロジェクトでは、従来の環境教育で行われてきた一方向的なレクチャーではなく、地域の子供たちや住民、水行政関係者と一体となって課題を共有・解決できる体制を構築することを目的とする。具体的には、水資源・水環境に対する意識の向上と継続的な水質モニタリングの体制を構築することを目指し、1) 地域の人々と研究者が共に課題を見つけ、能動的に学ぶ市民参加型アクション・リサーチ、2) 水行政や水資源管理に関する高度専門職を対象とした社会人教育や技術向上のためのワークショップ、3) 島の子供たちを対象とした科学教室・出前授業などをおこなう。それによって、多様なステークホルダー（資源の消費者や管理者等の利害関係者）との定期的な対話の場を創出する。さらに、本企画のテーマについて、地域出身の学生が主体的に取り組めるような仕掛けを展開し、若い世代による地域の創生も図る。また、内閣官房水循環政策本部の平成 30 年以降の「先進的な流域マネジメントに関するモデル調査」実施団体としての認定を視野に入れながら、八重瀬町を中心とした行政との意見交換を実施する。本事業を展開する中で、八重瀬町や宮古島市、多良間村と連携協定を結び、本事業を推進する参加機関として協働できる体制づくりをおこなっていく。このような活動を通して、2014 年に制定された水循環基本法で推進される流域単位での水循環管理計画の策定に向けた協議会の設置と適切な政策提言を目指す。

提案機関の役割：提案機関である琉球大学は、自然科学系や社会科学系の多様な研究者を中心とした学際的な「水循環プロジェクト」と研究支援部門である「研究企画室（URA 室）」、大学附属博物館「風樹館」をコア・ユニットとして、本プロジェクトの企画・運営を主体的におこなっている。プロジェクト担当 URA（高橋そよ 主任 URA）が、プロジェクト進捗状況・予算の管理、関係者の調整等を担当。

参加機関の役割：参加機関である一般財団法人美ら島財団総合研究センターと湧き水 fun

倶楽部は、島嶼地域の水と人の関わりに関するESD 教育 プ ロ グ ラ ム (Education for Sustainable Development : 持続可能な開発のための教育) の開発を担当している。特に、現在検討しているESD教育カードゲームや、来年度以降、多良間小学校で開講予定の総合学習の授業内容について、これまでの環境教育の実績を活かした助言やアイディア出しをするなど、提案機関との密な関係のもと、本プロジェクトに参加している。

さらに、今年度は水行政者対象におこなったワークショップをとおして、内閣官房水循環対策本部や産総研地圏資源環境研究部門 地下水研究グループ、沖縄 GIS、一般財団法人沖縄県環境科学センター、(株)建設技術研究所、NPO 法人沖縄ある記と新たなネットワークができ、今後も本プロジェクトに参加し、継続的に共同研究について議論を重ねている。

連携状況・実施体制：研究代表者である新城竜一教授(理学部)と担当の高橋URAを中心に、提案機関と参加機関とは、月1～2回のミーティングの他に、チャットワークやTime treeなどのアプリを使い、日常的に迅速な情報共有ならびにディスカッションをおこなうなど、機動力のある活動体制を構築している。

外部評価委員会：学外委員4名と学内委員1名の計5名で構成され、年1回開催する。平成29年度は、平成30年2月5日(月)の予定である。委員は以下のとおり。

- ・富永千尋(公益社団法人沖縄県地域振興協会/専務理事兼事務局長)
- ・谷口真人(総合地球環境学研究所/副所長)
- ・川辺みどり(東京海洋大学/教授)
- ・河野 博(東京海洋大学/教授)
- ・西田 睦(琉球大学/理事・副学長)

対話の場の創出(行政と教育から)：今年度は、長期目標である「海と陸とを一体的にとらえた統合的な水循環管理を実施することで健全な水循環を構築し、持続可能な島嶼型自然共生社会を実現するため、多様なステークホルダーとの対話の場を創出すること」を実現するため、行政アプローチとして、水行政関係者とのネットワーク構築、水行政担当者などの高度専門職人材を育成するためのワークショップの開催

を、教育アプローチとして、水循環に関連した教材開発、科学教室の実施、サイエンスアゴラ出展準備を年度目標としたが、これら全てを概ね達成することができた。10月にウェブサイトを開設し、情報・成果発信を行っている。

(公式ウェブサイト)

<http://mizunowa.sci.u-ryukyu.ac.jp>

(行政アプローチ 1) 流域マネジメント・モデル地

域認定に向けた取り組み：本プロジェクト立ち上げの初年度は、地域が抱える課題の理解と主要なステークホルダーとのネットワークキングを目的として、沖縄県や本プロジェクトの実施フィールドである沖縄島南部の八重瀬町や宮古島市、多良間村の水行政担当者(企画調整課や土木建設課、農林水産課等)との意見交換、さらに地下水を利用する農家などへのヒアリングを実施した。地下水を農業だけではなく、飲料水として利用する八重瀬町においては、2006年に島尻郡東風平町と具志頭村が合併した後、旧具志頭村が制定していた地下水保護条例や審議会が機能していないことから、地下水管轄部署である土木建設課より、このプロジェクトに参画しながら改善策を探りたいと提案があったことは意義深い。この話し合いをきっかけとし、2017年10月に、八重瀬町土木建設課とともに、水循環基本法と他府県の自治体の動向について学ぶため、内閣官房水循環政策本部事務局から講師を招聘し、町長との意見交換と水行政担当者対象のワークショップを八重瀬町役場会議室にて開催した。

ワークショップ開催にあたり、八重瀬町長とプロジェクト代表の新城竜一教授らメンバー4名が面談をおこない、八重瀬町における地下水の利用と課題について意見交換をおこなった。さらに、ワークショップ当日には内閣官房水循環政策本部事務局岩崎室長、JST 科学コミュニケーションセンター柴田事務局長らとの意見交換をコーディネートした。また、招聘した内閣官房水循環政策本部事務局岩崎氏の要望を受け、沖縄県の水循環基本法を所管とする沖縄県企画部地域・離島振興課宮里副参事と本プロジェクトの外部評価委員である公益社団法人沖縄県地域振興協会の富永専務理事兼事務局長との意見交換を調整した。

当日は、沖縄の島々の水循環の特性を理解するため、午前中には内閣官房やJST、プロジェクト関係者、ワークショップ参加者らと、糸満市／八重瀬町の慶座地下ダムと湧水、浄水場の巡検をおこなった。午後に開催したワークショップには、内閣官房や内閣府総合事務局、沖縄県、八重瀬町役場、水道企業団等の水行政担当者が約45名参加し、各セクターが抱えている課題や連携したいことなど、活発なディスカッションをおこなうことができた（図2-9）。

ディスカッションでは、顕在化しづらい水資源の問題を共通課題として認識するためには、水に関する科学的な情報の可視化と共有化の重要性が指摘された。そこで、これらの解決策を探るため、先行事例として富士山麓等で水文環境図を作成し、研究者のためのオープンデータだけではなく、一般社会での活用に取り組んでいる国立研究開発法人 産業技術総合研究所地圏資源環境研究部門 地下水研究グループから講師を招き、第2回水循環ワークショップ「科学情報を可視化する～富士山麓の“水文環境図”ができるまで、そしてその活用」（2017年12月4日）を琉球大学にて開催した。ワークショップには、環境アセスメント企業職員や研究者、学生などから25名が参加した（「高度専門職の育成」参照）。

今年度は、各行政機関の水資源担当者とのネットワークキングや顕在化しづらい水資源に関する課題を共有化することができた。

（行政アプローチ 2）高度専門職の育成（水行政・研究機関対象）

本プロジェクトの重要なミッションのひとつである「水行政や水資源管理に関する高度専門職の意識向上」を目指し、今年度は、水行政担当者や地域課題に関心のある学生を対象とした水循環ワークショップなどの活動をおこなった。

この水循環ワークショップ（水行政者対象、高度専門職人材の育成）の経緯や内容は、「流域マネジメント・モデル地域認定に向けた取り組み」との関連性から上述のとおりである。ワークショップの資料やプロジェクトメンバーによるショートレポートをプロジェクトウェブサイトに掲載するなど、参加できなかった方やワークショップ後にも振り返りができるよう、情報を公開する仕組みづくりにも取り組んだ。

第1回 水循環ワークショップ in 八重瀬町 （2017年10月26日）

「最近の水循環施策の動向」 内閣官房水循環政策本部事務局 岩崎福久 企画官

第2回 水循環ワークショップ「科学情報を可視化する～富士山麓の“水文環境図”ができるまで、そしてその活用」（2017年12月4日）

「水文環境図作成の背景と今後の出版計画について」 産業技術総合研究所地圏資源環境研究部門 地下水研究グループ 井川怜欧 主任研究員



図2-9. 第1回 水循環ワークショップの様子。（左）ポストイットに書かれた質問をスクリーンに照らしながら、参加者が発言しやすいように総合討論をファシリテートするメンバー。（右）後半の総合討論では、まず参加者全員の自己紹介から始め、セクターや部署を超えて顔の見える関係性を築いた

「水文環境図 No.9 富士山ができるまで」
同 小野昌彦 研究員

第3回 水循環ワークショップ (2018年2月3日 予定)

「Future Earth×サイエンスの役割」 愛媛大学 佐藤哲教授

（教育アプローチ 1）市民参加型アクション・リサーチ（多世代対象）：地域の水とのつながりの見直しや向上を目指すため、プロジェクトメンバーで、ESD 教育の先進事例に関する情報収集や勉強会をおこない、市民参加型アクション・リサーチや科学教室の基盤となる理念とカリキュラム案を検討した。これまで沖縄県各地で地域の人びとと共に地域資源の再発見に取り組んできた NPO「沖縄ある記」が新たに参画することになり、島の水のつながりと水を介した歴史・文化の理解向上を目的とした野外巡検・調査プログラムを検討している。来年度以降は、「科学教室（次世代対象）」と統合したプログラムを展開する。

（教育アプローチ 2）科学教室「みずのわ教室」（次世代対象）：2017年9月に多良間村教育委員会や宮古島市教育委員会と意見交換を行い、2018年度以降、小学校での「総合的な学習の時間」での ESD 教育プログラム（テーマ：島の水循環の特性を自然科学的に理解する）の提供と講師派遣、宮古島市総合博物館での子ども・市民を対象とした博物館講座などへの講師派遣をおこなうこととなった。科学教室では、1）座学、2）フィールドワーク、2）実験の一連の活動から、「なぜ？」や「ホント？」を引き出し、サイエンスマインドを育成するプログラムを検討している（図 2-10）。

JST 科学コミュニケーションセンターの紹介を受けて、2017年12月24日（日）、ESD 教育開発班リーダーの土岐知弘准教授（理学部）と島袋美由紀学芸員（大学博物館）が日本科学未来館を訪問し、サイエンス・コミュニケーターとの意見交換をおこなった。その結果、2018年3月に日本科学未来館が企画開発をした ESD 教材を使ったワークショップ「未来館オリジナルゲームボード“未来に向かって舵（かじ）をとれ！”」を開催することになった。ワ

ークショップは子ども版だけではなく、ESD 教育プログラム開発に取り組む専門職も対象にした大人版も開催し、沖縄におけるサイエンスコミュニケーション力の向上を目指した意見交換をおこなう。来年度以降も、日本科学未来館科学コミュニケーターと継続的に情報交換をおこない、本プロジェクト・オリジナルの ESD 教育カードゲームの開発や、子どもたちや市民向けの体験型科学教室（みずのわ教室）を2回実施する予定である。

大学コンソーシアム沖縄との連携：本プロジェクトでは、地域住民の水資源・水環境に対する意識を向上させることを目指し、これに地域出身の学生が主体的に取り組めるような仕掛けを展開し、学生をはじめとする若い世代を中心とした地域の創生も図ることを長期目標の一つとしている。そこで、今年度は、地域の教育機関との連携を目指し、沖縄の10ある高等教育機関からなる「一般社団法人大学コンソーシアム沖縄」による琉球大学共通教育科目「地域企業（自治体）お題解決プログラム」（担当 宮里大八特命准教授 他）への協力をおこなった。本講義は、地域課題の解決に関心のある学生が、いくつかの実際に稼働しているプロジェクトチームに参加しながら、課題の発見や解決策を思考する力を実践しながら鍛えるものである。今年度はプロジェクトメンバーの高橋 URA が島の水資源が直面する課題と特性について概要を講義したのち、久保慶明准教授（法文学部）によって、地域課題を検討する際の基礎情報となる意識調査について、社会調査法の基礎論と実習「大学生による水に対する大学生の意識調査」をおこなった（県内の大学生 516 人より回答、分析中）。

成果発信（研究広報）：公式ウェブサイトの開設や SNS 発信、JST 科学コミュニケーションセンターでのリンクページなど、メディア班を立ち上げ運用している。また、担当 URA のサポートにより、全国の小中高等学校や科学館・博物館へ配布される JST 機関紙「サイエンスウィンドウ」での「水」特集ページ（2018 年冬号）にプロジェクト紹介の記事を寄稿した。さらに、文科省文教ニュースや在校生の家庭等へ配布される「琉球大学 News Letter」（2018

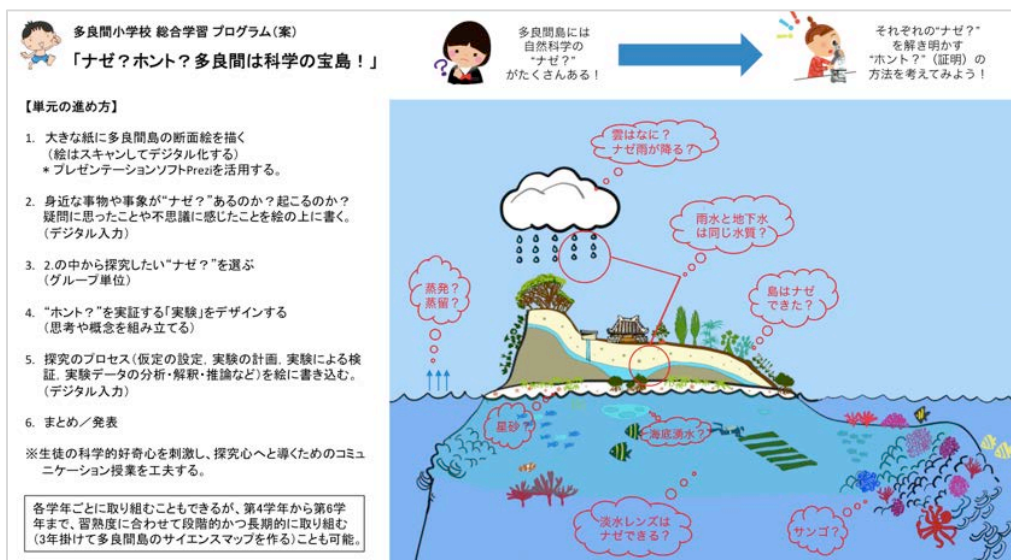


図 2-10. 多良間小学校へ提案した ESD 教育プロジェクトの概要

年 1 月刊行)など、学外へ積極的な情報発信をおこなっている。

本事業期間中のサイエンスアゴラ出展に向けて、今年度は提案機関である琉球大学と参加機関である美ら島財団の担当者がサイエンスアゴラへ参加し、情報収集とネットワーキングをおこなった。本プロジェクトの技術補佐員も参加し、収集した資料・情報をもとに報告書を作成し、出展に向けて準備を進めている。

水の環シンポジウム開催：沖縄県との問題意識の共有と連携を図るため、2018 年 2 月 4 日(日)に共催シンポジウム「水から考える SDGs×沖縄・島じまの挑戦 2018」（沖縄県立博物館・美術館）を開催した。この企画を通じて、沖縄県企画部担当者のコーディネートにより、国際連合大学の沖大幹上級副学長や沖縄県庁内で地下水保全に関連する部署（環境部や農林水産部等）との意見交換・情報交換をおこなった。シンポジウムでは、ステークホルダーミーティングとして、国際機関（国連大学）や政府機関（JST）、行政（沖縄県）、教育機関（琉球大学：水の環プロジェクト）、民間企業、市民の各活動を紹介し、セクターを超えたパートナーシップのあり方を議論した。また、関連して SDGs の理念の普及啓発として、日本科学未来館の協力を得て、沖縄県庁県民ロビーにて体験型パネル展「水から考える SDGs」を開催した。

5. おわりに

URA がつなげ役となって参画し、自然科学系だけではなく、社会科学系分野の研究者との学際的な研究として広がりをもった「水循環プロジェクト」は、外部資金獲得により地域課題の解決にサイエンスから応えるため、内閣官房や JST、沖縄県、市町村自治体、企業、教育機関、NPO、大学コンソーシアムなど、多様なステークホルダーと協働する超学際的研究（トランスディシプリナリティ研究）へ展開している。

水循環プロジェクトに対する URA 支援として、今後は、日常の暮らしの中で見えづらい地下水や、地下水をめぐる課題を顕在化するための科学情報を可視化するなど、社会が科学的な研究成果を利活用できるような発信方法（研究アウトリーチの深化）の検討や、沖縄と共通する水問題に直面するアジア・太平洋島嶼地域との国際共同研究へと発展できるよう、ポストからプレアワード支援へと好循環する対応が求められている。

部局を超えた学際的・複合的研究プラットフォームをもとに地域課題解決に取り組む「水循環プロジェクト」は、地域貢献型大学である琉球大学の「特色ある研究」の企画と研究支援策のひとつのあり方を示しているのではないだろうか。

（高橋そよ）

2-5 研究企画室における産学連携支援業務

1. はじめに

本文中でも述べられている通り、文部科学省による URA を育成・確保するシステムの整備の中で作成された「URA スキル標準」には、URA の中核業務として位置づけられる「研究戦略推進支援業務」、「プレアワード業務」および「ポストアワード業務」に加え、これらの中核業務それぞれに関連する専門性の高い業務として「関連専門業務」が9項目、策定されている。「産学連携支援」は関連専門業務の一つで、具体的な活動内容としては「企業と研究者の研究プロジェクトに対する考え・要望を聞き、方向性を整理し、プロジェクトの実現に向けた交渉・仲介をおこなう。また、産業界と連携し公的競争的資金による複数の当事者による大型・長期のプロジェクトの推進を支援する」と説明されている。

国立大学への運営費交付金が減少の一途を辿っている現状を鑑みるに、研究の原資として民間からの資金を活用することは、特に地方の国立大学にとっては避けられない流れであると考えられる。本セクションでは、研究企画室において URA の関連専門業務である産学連携支援を、どの様にして中核業務と結びつけ、琉球大学の研究力向上に結びつけようとしているか、その実施内容を紹介する。

琉球大学の産学連携支援体制：国立大学における研究支援体制の整備は、おおむね産学連携支援組織→URA 組織の順でなされてきた。本学も同様で、平成 28 年度までは「産学官連携推進機構」が産学連携活動を担ってきた。平成 29 年 4 月に、産学連携と地域連携を包括的にこなう「地域連携推進機構」が立ち上がり、地域連携推進機構の一部門である「産学連携推

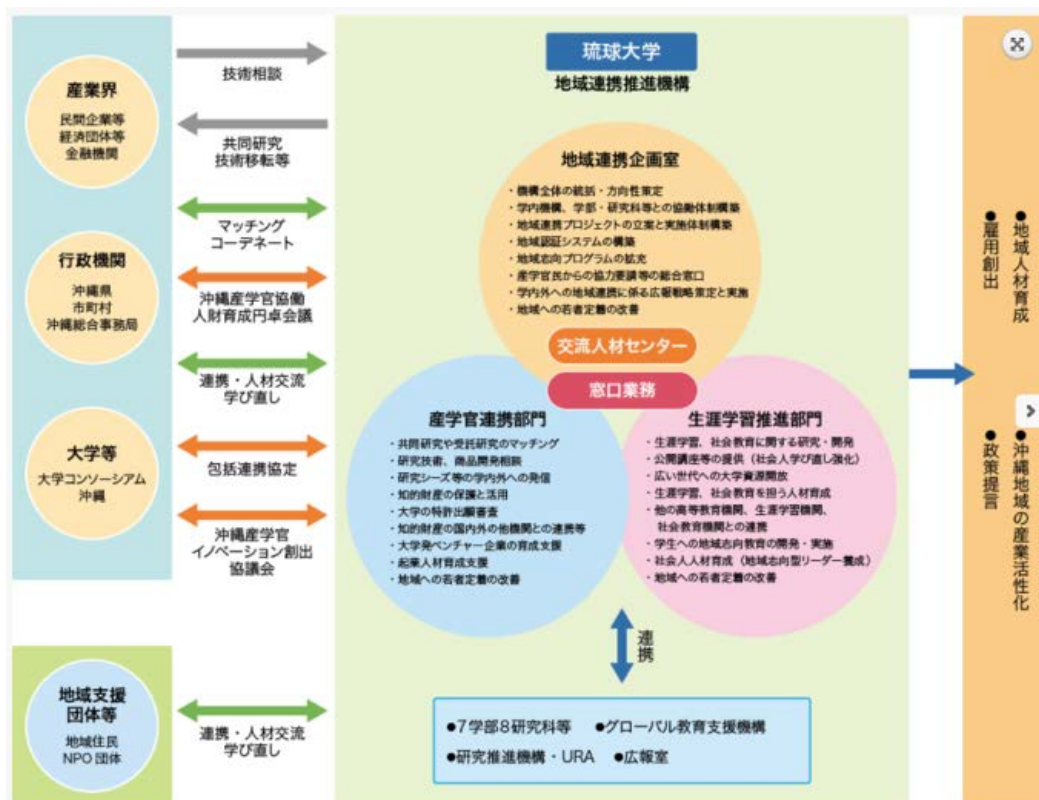


図 2-11. 琉球大学地域連携推進機構の体制図（地域連携推進機構 HP より）

進部門」が本学における産学連携活動を担当するようになった（図2-11）。

体制図にも説明されている通り、地域連携推進機構は研究企画室・URAとも密接に連携して産学連携支援活動をおこなうこととなり、実務上も地域連携推進機構の専任教員、産学官連携部門の併任教員（各部局から7名）、URAと産学官連携部門の事務を所管する総合企画戦略部 地域連携推進課 産学連携推進係とが協力して、産学連携支援活動を行っている。また産学官連携部門の定例連絡会には研究企画室から殿岡 URA がメンバーとして参加し、情報交換につとめている。

「プロジェクトマネジメント」視点の産学連携：上述の URA スキル標準にて説明されている通り、わが国の大学における産学連携支援活動は単に企業ニーズと研究シーズをマッチングさせ、共同研究に結びつけるという段階から、現在では研究プロジェクトの立ち上げ、競争的研究資金の獲得、さらには大型・長期にわたるプロジェクトへのステップアップ等、プロジェクトマネジメントの様々な側面を有する活動へと進化を遂げている。URA 業務の目的の一つが「研究を通じた大学の価値向上」にある以上、民間企業との連携は研究プロジェクトを推進するための選択肢であり、URA 活動の中に適切に組み込むことで研究の広がりにも寄与すると考えられる。

他方、企業は大学とは異なる習慣・文化を有する組織であり、基本的に研究者どうしの合意事項が組織間の合意事項になりやすい学-学の連携とは異なり、特に契約面での条件交渉や知的財産の取扱い、さらには経営層によるプロジェクトの可否判断や進捗の管理といった研究者にはなじみの少ない事柄を扱う必要がある点には注意が必要である。当然、URA が産学連携を研究推進の選択肢の一つとして活用する際には、研究そのものに加え民間企業の考え方や習慣といった事項にも注意を払い、適切に取り扱っていく必要がある。

URA 業務における「プレアワード業務」とは、競争的研究資金の獲得に到るまでに必要とされる種々の活動であり、「ポストアワード業務」とは競争的研究資金を獲得した後に生じる様々な事態に対応する業務、と理解されている。

やや乱暴ではあるが、産学連携支援活動にこの「プレアワード」「ポストアワード」を当てはめて考えると、「ある研究者と企業とが共同研究を実施することに合意した」という時点を区切りに、これより以前をプレアワード業務（または、プレアワード的な業務）、以降をポストアワード業務として類型化できるのではないかと。以下、URA の中核業務のうち特に「プレアワード」と「ポストアワード」について、産学連携支援活動がどの様に関連するか、研究企画室の3年間の実績を交えて説明する。

2. 産学連携活動におけるプレアワード業務

典型的な産学連携のスタートは、企業側に技術的な課題があり、大学側研究者にこの課題を解決しうる技術がある場合に、両者で協力してこの技術課題を解決する、というものである。かつては「ニーズとシーズのマッチング」と呼ばれたが、現在では単なる技術上のお見合いではなく、企業側の顕在化した、あるいはまだ顕在化していない技術上のニーズを要素に分割し、大学研究者側で対応可能な技術要素を明確化し、これを単年度、あるいは複数年度のプロ



図2-12. イノベーション・エコシステムにおける URA の役割。文部科学省「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」公募説明会資料より抜粋 (http://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/chiki/program/1368825.htm)。URA が事業プロデューサーチームの一員として位置づけられている

ジェクトとして検討するという工程を踏むようになっている。これらの工程は研究プロジェクトの企画立案支援に相当するものであり、文部科学省の産学連携支援事業の中でも URA がこのような役割で位置づけられる事例が出てきている（図 2-12）。

本学では技術相談の窓口が一本化されており、前述の産学連携推進係が本学の窓口を務めている。技術相談は大学に直接ある場合（公式 HP の問い合わせフォーム、電話、FAX）、研究者に直接ある場合と、産学連携実務者に直接ある場合の 3 パターンが主で、URA に直接来る場合もある。なお研究企画室は「学内の研究者、研究リソースについて熟知している部署」と実務者には認識されており、「〇〇の研究を行っている研究者は本学にいるか？」という形で技術相談への対応を依頼されるケースが多い。技術相談、あるいは共同研究依頼への対応は一度で終わる事はほとんど無く、これを共同研究プロジェクトの形で合意にもっていくためには複数回の面談や検討を経る必要がある。研究企画室では、平成 27 年度に 2 件、28 年度に 4 件、29 年度には 8 件の技術相談に URA が対応している。

研究広報の業務とも一部関連するが、産学連携のきっかけとして、本学では企業向けの展示会や技術説明会も活用している（研究シーズ情報を発信して、マッチング相手を募る方法である）。URA 業務の観点では研究シーズの把握、



図 2-13. JST 新技術説明会 ポスターセッションの様子。殿岡 URA（右端）が野口教授（右から 2 番目）のフォロー

研究の進捗状況の確認、外部からの研究成果の評価、研究プロジェクトの次の展開を考える材料の収集などがあり、主要な展示会については「シーズを発表する研究者＋産学連携推進系の事務担当者＋URA」の組み合わせで出展準備から会場での対応、開催後のフォローアップまでを行っている（表 2-3 および図 2-13）。

以上、産学連携のプレアワード業務について述べてきたが、近年、特に製薬系業界で「公募型の共同研究テーマ募集」という産学連携の新たな枠組みが提示され、主要な国内製薬系企業ではこの枠組みの下でのプログラムが出揃ったところである。塩野義製薬の「FINDS」、第一三共の「TaNeDS」等々、企業が予めテーマを設定し、研究者がこのテーマに合致した研究計画を応募し、企業側で選定して共同研究に結びつけるというスタイルである。これらの制度では大学側に URA や産学連携コーディネーターの様なプロジェクト推進の担当者を置くことが求められ、この担当者がマネジメント業務を担うこととなっている。製薬系企業からは URA に制度の紹介、該当しそうな研究者の探索、フォローアップ対応を求められることが多く、これは採択後のポストアワード業務にもつながっている。

以上、産学連携のプレアワード業務について述べてきたが、近年、特に製薬系業界で「公募型の共同研究テーマ募集」という産学連携の新たな枠組みが提示され、主要な国内製薬系企業ではこの枠組みの下でのプログラムが出揃ったところである。塩野義製薬の「FINDS」、第一三共の「TaNeDS」等々、企業が予めテーマを設定し、研究者がこのテーマに合致した研究計画を応募し、企業側で選定して共同研究に結びつけるというスタイルである。これらの制度では大学側に URA や産学連携コーディネーターの様なプロジェクト推進の担当者を置くことが求められ、この担当者がマネジメント業務を担うこととなっている。製薬系企業からは URA に制度の紹介、該当しそうな研究者の探索、フォローアップ対応を求められることが多く、これは採択後のポストアワード業務にもつながっている。

表 2-3. URA が参加したマッチングイベントの一覧

マッチングイベントの名称	開催日	所属 研究者
JST 地方創生！南日本ネットワーク新技術説明会	2015.7.2	工 野口 隆
イノベーション・ジャパン 2015	2015.8.27-28	熱生 原國 哲也
Bio Japan 2015	2015.10.15-16	工 瀬名波 出 農 平良 東紀 農 小西 照子
アグリビジネス創出フェア 2015	2015.11.18-20	農 田場 聡 農 平良 英三 農 モハメド アムザド ホサイン
JST 医療・福祉・創薬 新技術説明会	2016.7.26	医 村上 明一 医 田中 勇悦
イノベーション・ジャパン 2016	2016.8.25-26	農 橋 信二郎
Bio Japan 2016	2016.10.12-14	農 石井 貴広 工 瀬名波 出 農 小西 照子
アグリビジネス創出フェア 2016	2016.12.14-16	農 田場 聡 農 金子 哲 農 諏訪 竜一
JST ライフサイエンス 新技術説明会	2017.7.25	医 野口 洋文
アグリビジネス創出フェア 2017 (沖縄県農業研究センターとの共同出展)	2017.10.4-6	農 宮城 一菜 工 玉城 史朗 農 諏訪 竜一
Bio Japan 2017 (沖縄 TLO、株式会社 Grancell との共同出展)	2017.10.11-13	医 野村 紘史 農 石井 貴広 熱生 屋 宏典

所属略号：工 工学部、熱生 熱帯生物圏研究センター、農 農学部、医 医学部

企業との連名による競争的研究資金獲得：産学連携活動におけるプレアワード業務のうち、特に企業との連名による公的な競争的研究資金の獲得は重要な部分を占めている。文部科学省系の研究助成のうち特に科学技術振興機構（JST）が所管するもの、経産省系の研究助成のうち研究要素が強い新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が所管するもの、農水省系では「知」の集積と活用の中 研究開発プラットフォームの枠組みを活用するもの等、競争的研究資金の獲得と産学連携とがセットになったプログラムが年々増加しており、公的な研究費

へのアクセスを考える上で産学連携が避けて通れないという状況は今後もしばらく継続するであろう。さらに、沖縄県では県庁が科学技術振興関係の事業にかなりの予算を割いており、これらの事業も「地域振興」や「沖縄県での事業化」を掲げているケースが多いことから、競争的研究資金の獲得に企業との調整を要するという点では省庁系の研究助成と同様である。

以下、研究企画室が関与したもののうち代表的な事例を示す。

（事例 1）JST「地域産学バリュープログラム

（旧・マッチングプランナープログラム）」：JST が所管する研究開発助成事業の一つで、企業等の開発ニーズ解決のため、大学等が保有する研究成果・知的財産がその解決に資するかどうかを確認するための試験研究開発費を支援するという制度である（図 2-14）。申請は研究者・企業担当者・コーディネーター等橋渡し人材（URA、産学連携コーディネーターを包含する研究支援人材を指す）の三者が連名でおこなう事が要件となっており、申請に到る種々の調整を橋渡し人材がおこなう。研究企画室では平成 27 年度に 5 件の申請支援を行い、うち 3 件が採択された（1,700 千円/件、単年度）。



図 2-14. JST「地域産学バリュープログラム」制度概要の説明図

(<http://www.jst.go.jp/mp/outline.html> より)



図 2-15. 農林水産物の輸出促進研究開発プラットフォーム@九州・沖縄の説明図

(<https://www.a2b-platform.org/> より)

沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業

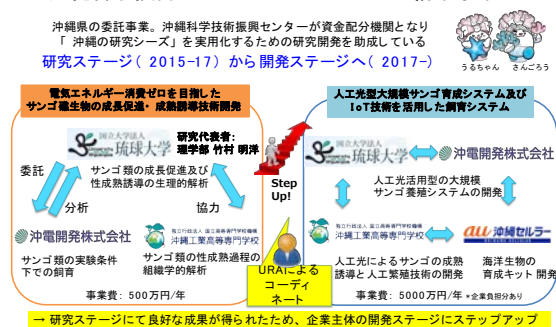


図 2-16. 沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業 URA によるマネジメント事例

（事例 2）農林水産物の輸出促進研究開発プラットフォーム@九州・沖縄

九州大学を中核機関とするコンソーシアムで、「九州地区の農林水産物の輸出促進」をキーワードに活動を行っている。九州地区の農学部を有する大学（九大、佐賀大、宮崎大、鹿児島大、琉球大）と企業、九州地区の農業関連団体が主なメンバーで、プロデューサー（PD）の下に専門委員会（PD チーム）が設けられ、URA はこの中のコーディネートユニットに所属して課題抽出やプロジェクト企画立案支援などを行っている。琉球大学の関係分としては、企業と連携した植物ウイルスの検出技術（農 関根准教授）、九大と連携した熱帯産ナマコの飼育（理 竹村教授）などの個別プロジェクトをこのコンソーシアムの枠組みの中で進めている（図 2-15）。

（事例 3）沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業

沖縄県が委託者、沖縄科学技術振興センター（OSTC）が資金配分団体となって運用される競争的な研究開発支援事業で、企業との連名申請、コーディネーターを置くことの 2 点が応募要件となっている。平成 27 年度に事業がスタートしており、平成 29 年度までの採択実績は表 2 の通りである。この事業では大学研究者が申請主体となる「構築事業」と、構築事業の採択課題を対象とし企業が申請主体となる「共同研究補助金」の 2 つのプログラムが用意されており、平成 29 年度からは共同研究補助金についても助成がスタートしている。平成 29 年度までの 3 年間で、本学からは合計 29 件

が採択されているが、この8割にあたる25件がURA支援による申請であった（表2-4）。またURAが支援対象としている研究者の所属部局もまんべんなく分布しており、全学の研究推進組織として研究企画室が機能していることを示している。

平成27年度 構築事業のURA支援採択案件のうち2件（研究代表者：理 竹村教授、農 橘准教授）については、企業主体の共同研究促進補助金へのステップアップを果たしている。このうち竹村教授のプロジェクトについては、企業・他の研究機関との連名申請による競争的研究資金の獲得（プレアワード業務）→プロジェクトのマネジメント（ポストアワード業務）→次の競争的研究資金の検討及び新たな企業とのマッチング（プレアワード業務）を経て大型の研究資金の獲得に到っており、URAの中核的業務と関連専門業務としての産学連携支援が重なる好事例である。図2-16に、これまでの経緯を示している。

表 2-4. 沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業 URA 支援件数と採択実績

沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業 (総額 12,000 千円/3 年間)		
年度	琉大採択件数 (部局別数)	うち URA 支援件数 (部局別数)
H27	4 (医 2 理 1 熱 1)	3 (医 1 理 1 熱 1)
H28	10 (医 4 農 3 工 2 教 1)	8 (医 3 農 3 工 1 教 1)
H29	12 (医 2 農 3 工 2 理 2 熱 3)	12 (医 2 農 3 工 2 理 2 熱 3)
沖縄科学技術イノベーション共同研究促進補助金 (総額 50,000 千円/2 年間)		
H29	3 (医 1 農 1 理 1)	2 (農 1 理 1)

部局略号：医 医学部、理 理学部、工 工学部、熱 熱帯生物圏研究センター、農 農学部、教 教育学部

表 2-5. URA がコーディネートした企業との共同研究件数（契約締結ベース）

年度	件数（部局別数）	共同研究費 (千円)
H27	0	0
H28	7 (医 4 農 1 工 1 教 1)	16,703
H29	8 (医 5 農 1 理 1 教 1)	17,648

部局略号：医 医学部、農 農学部、工 工学部、教 教育学部、理 理学部

3. 産学連携活動におけるポストアワード業務

大学と企業とで公的な競争的研究資金を獲得した場合、生じるポストアワード業務は大学単独で獲得した場合とあまり変わりはない。一方で産学共同研究の場合、民間企業との契約交渉があり業務は複雑化する傾向にある。URAは研究者、大学事務担当者、企業担当者の間に入り、契約条件の交渉を担当しており、その成果は以下の通りである（表2-5）。

共同研究に着手後のポストアワード業務は、公的な競争的資金を獲得した場合とほぼ同じである。関係者によるミーティングの調整と実施、研究進捗状況の確認、必要に応じた情報調査などがあげられる。一方で特に研究成果の取扱いについては、いち早く論文発表したい研究者と、知的財産を確保したい企業との間で調整が必要になることが多く、そうした調整もURAが対応している。また、共同研究に関連して大学が保有する研究成果有体物を企業に提供するケースもあり、この場合には有体物提供契約（MTA）を大学と企業が結ぶ事になるため、その交渉や調整もURAが担当している。さらに、本学の複数の研究者が関係する企業との大型共同研究では、企業側から共同研究成果報告書の取りまとめをURAに依頼する事例があり、各研究者の研究成果をURAが取りまとめて企業に報告している。

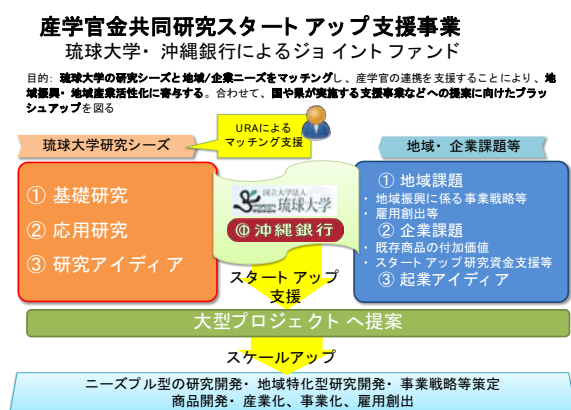


図 2-17. 沖縄銀行との包括連携に係る産学官金共同研究スタートアップ支援事業の実施体制図

研究企画室の立ち上げから 3 年目の段階であることから、産学連携支援業務についてもプレアワード業務が中心であった。今後はプレアワード業務で立ち上げたプロジェクトがポストアワード、更にその先のプレアワードにつながっていくことが予想され、引き続き URA としても対応していく予定である。

企業との包括連携：近年、国立大学では関わりの深い企業との間で個別の共同研究の枠を超えた「包括連携」の協定書を締結し、組織対組織でより深化した連携活動をおこなう、という事例が増えてきている。本学の立地する沖縄県は研究開発型の企業集積に乏しく、いわゆる共同研究発展型の包括連携は無いものの、地元の主要な金融機関である沖縄銀行、琉球銀行、コザ信用金庫との間に包括連携協定を締結して

いる。金融機関が保有する企業情報（特にニーズ情報）と大学の研究力をマッチングさせ、地域企業が課題解決を通じて競争力を付けることで、地域経済の底上げを図っていくというねらいである。

沖縄銀行との包括連携においては、本学と沖縄銀行とが資金を供出して「産学官金共同研究スタートアップ支援事業」を平成 28 年度に立ち上げている（図 2-17）。研究者と企業とが連名で申請する学内公募であり、URA がコーディネーターとして複数の採択案件に関わっている。また琉球銀行との包括連携においては、企業から琉球銀行を通じて寄せられた技術相談について、URA に研究者情報の照会があり、幾つかの案件では企業、琉球銀行、琉大研究者と URA とで技術相談を行っている。

4. おわりに

文部科学省のイノベーション施策が URA を大学における構成要素として位置づけるようになった現在、本学の URA も産学連携支援活動を主たる業務の一つとして位置づけ、少しずつ成果も上がってきているのが現状である。本学における産学連携支援業務は地域連携推進機構、研究推進機構にまたがる機構横断的な業務でもあり、効果を上げるためには実務者どうしの日々の連携が欠かせない。研究企画室では琉球大学の研究力向上の有効な手段として、引き続き関係部署と協力しながら、産学連携支援業務を遂行していく所存である。

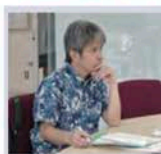
（殿岡裕樹）

3. URA 座談会記事

琉球大学 News Letter 22 巻（2017 年 10 月）より転載

琉大を研究 で元気に

リサーチ・アドミニストレーター座談会 「琉球大学の知をささえる」



聞き手：本村 真
琉球大学 法文学部 教授
研究推進機構 副機構長
学長補佐（研究担当）

本村 琉球大学の「研究の今」を紹介しているこのコーナーですが、今回は少し視点を変えて、琉球大学を研究面で牽引するチームを紹介したいと思います。学生の皆さんは法文学部、農学部、医学部…と、それぞれの専門ごと学部にも所属していますが、大学には学部以外に、大学全体の活動を支える部署がいろいろあります。今日はその中から、研究推進機構 研究企画室に所属するリサーチ・アドミニストレーター（URA）4名に来て頂きました。いわば研究マネジメントのプロであるURAに、琉球大学で研究することの面白さ、研究視点での沖縄の魅力などについてお話を伺いたいと思います。URAの皆さん、どうぞよろしくお願いします。

URA一同 よろしくをお願いします。

Ⅱ 「研究マネジメント」という新しい仕事

本村 まずはURAという、ほとんどの人が聞き慣れない職種についてから始めましょうか。「URAとは何か」について、簡単に説明してもらえますか？

殿岡 研究企画室で副室長を務めている殿岡です。URAについて説明するのに、まずは大学をめぐる社会情勢からお話を始めたいと思います。

本村 いきなり大きな話になりましたね。超少子高齢化とか、さらなるグローバル化により他国との競争が激しくなるとか、そういったことでしょうか。

殿岡 はい。国立大学が法人化され、また少子化が進んだ現在は、大学にとって自立と競争の時代に入っています。法人化したということは、ある意味会社と同じように自分たちの運営は自分たちで決め、戦略も自分たちで立案しなければいけない時代になったわけです。

本村 確かに、国立大学だった時代より「あれも決めなければいけない」「これも考えなければいけない」と、そのための会議がかなり多くなった気がしますね。

殿岡 社会からの要請も大きくなり、多様化しています。社

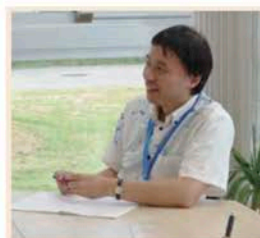
リサーチ・アドミニストレーター（Research Administrator）、頭文字に大学（University）のUを付けてURAと呼ばれる職種をご存じだろうか。全国の大学に導入が進められている、研究マネジメントの専門職である。琉球大学では2015年、大学全体の研究力を向上させる目的で研究推進機構を設立し、同時に4名のURAが活動を開始した。本稿ではURAという仕事を通して見た、琉大の魅力や可能性について語ってもらった。

会の中で琉球大学にどのような価値があるかということ、色々な形で明らかにしていく必要が出てきました。そこで琉球大学では、研究を熟知しつつ社会ともつながれる人材、様々な立場の人たちに対し、相手に応じた言葉で説明して琉球大学の価値を伝えられる人材、さらに、研究を通じて琉球大学そのものの価値を上げるような人材を導入し育成するために、研究企画室を作りました。今から2年前のことです。今日ここにいるメンバー4名は、いわば創立メンバーということになります。

井上 琉大の価値を高める必要がどんどん高まっていて、そのために私たちはどの学部にも属さず、琉球大学全体の研究を推進する組織に所属しているということです。

殿岡 大学には当然、学生を育てるという役割もありますし、最近では社会貢献も役割として期待されていますが、私たちは研究に特化して活動しています。これまでも例えば、琉球大学にはサンゴ礁の研究をしているすごい先生がいるとか、琉球史や琉球方言なら琉球大学に聞けとか、個々の価値があったと思いますが、それを今ある状態に留めず、より良い状態にしていくことを専門に行う人材がURAであると考えています。

本村 研究から見た琉大の価値を高めるといいますが、総合大学は全国にありますよね。それぞれの大学に強みや特徴があると思いますが、井上さん、琉大の強みについてはいかがでしょう？



殿岡 裕樹（とのおか ゆうき）
長野県飯田市出身。1997年
東北大学理学部生物学科卒、
2002年 同大学院理学研究科
修士。博士（理学）。2003年より
山口大学にてNEDOフェロー、
産学連携コーディネーター、
URAを務め、2015年より現職。
ライフサイエンス分野を専門とし、
農業には特に思い入れが強いが
実際の腕はからっきし。ミニトマトでギリギリのレベル。



井上 あらためまして、主に研究力分析などを担当している井上です。社会の中で生きる大学ということを考えて、自分たちの研究、大学の研究成果を社会にどうやって結びつけていくか、非常に大事なところだと思います。それから、自分たちの研究の立ち位置、大学の立ち位置をしっかりと分析することが重要です。最近では大学ランキングなどで大学が比較されるなか、この先どう大学が生き残っていくのか、そのための材料を得ることが大事だと私は思っています。

本村 大学人として、ランキングはどうしても気になってしまうところです。最近では学術論文などの研究成果だけではなく、獲得した研究資金なども評価の指標になっているようですね。

井上 研究資金、中でも国が準備し、研究者が申請をして審査に基づいて配分される科学研究費を獲得することは、研究者にとってとても重要です。この申請のためのガイドブックを私たちURAが作成しましたが、先生方にはたいへん好評で、研究費獲得に役立っているのではないかと感じています。

本村 新たな研究を展開させるための「材料」を手に入れて研究を発展させたい、そのためには新しい出会いや交流が必要だと感じている教員は多いと思います。けれども、日常業務が忙しいということもあって、研究者自身でそれを実現できるのは一部の先生に限られていたと思います。このような状況を変えるためのURAの役割について、昆さんどう思いますか？

昆 琉球大学を卒業し、念願になって13年ぶりに戻ってきました昆です。実際にURAをやってみて、何でも屋のような側面もあると感じています。琉大が研究で世界と戦っていくのに足りないピースが何かを探して、それを埋めていくようなイメージです。

本村 出会いや交流の場を作るために必要となることを含めて、琉球大学の研究に足りないピースを埋めるということでしょうか。高橋さん、今の件に関してご自身の経験からコメント頂けますか？

高橋 主に人文・社会系分野を担当している高橋です。私は、URAはピースをつなぐ棚だと思っています。大学の先生方は、意外と他の分野や学部がどのような研究をしているのかを知りません。私は、ピースとピースをつなぎ、新しい絵を描くことができるように、ワークショップやサイエンスカフェなど、研究マッチングをおこなうための仕掛けづくりに取り組んでいます。時々、つなぎ役の棚がはみ出て、違う絵とつないだり、ピースの代わりとして粘土を貼り付けて立体的にしてみたり。URAとは、学術的に新しいことが創造される瞬間に立ち会えることのできる、黒子的な役割だと思っています。

本村 URAという専門職が入って、大学として組織的に新たな出会いを仕掛ける仕組みが出来つつあるという状況は研究者としてもとてもありがたいですね。

昆 私は研究推進機構の中で、学部を超えた研究プロジェクトの受け皿になる「戦略的研究プロジェクトセンター」の運営支援もしています。ここでは、異なった学問分野の協

働による新たな、そして有望な研究展開の芽がいくつも出てきました。異分野の研究者が相互に接触することを可能にする場の設定に、URAは大きな役割を果たしていると思います。また専門職という点では、研究広報にも力を入れています。これは大学の研究成果を社会に分かりやすく、正確に、かつ効果的に伝えるというもので、研究に対する深い理解とコミュニケーション能力の両方が高いレベルで求められる仕事になります。試行錯誤しながら、琉球大学の研究面での発信力を高めていきたいと考えています。

Ⅱ 地域とともにある琉大、その魅力とは



毘 健志（こんたけし）1993年琉球大学理学部海洋学科卒。2002年同大学理工学研究科修了。博士（理学）。東京大学、東邦大学等の研究員を経て、2015年より現職。主に研究広報、研究コンプライアンス、戦略的研究プロジェクトセンターの運営などを担当している。いつもの業務の他にはサンゴ礁の魚やナメクジウオの進化・多様性の研究にも動いている。

本村 殿岡さんからは研究面で価値を高める、という話がありましたが、URAの職務として、いわゆるアカデミックな目標に向かって支援する部分の他に、社会貢献に向けた社会との橋渡しの役割というのがあると思います。もしかしら大学によって、URAによって、イメージやエネルギーを割く割合が違うのではないかと推察します。地域貢献は本学のミッションですが、その点とURAの役割についてはどうでしょうか？

殿岡 沖縄にある大学ということ、沖縄によって生かされている大学でもあるわけで、地域社会との繋が

りも重要と考えています。研究者によって、自分は琉球大学に所属しているが世界を見て研究しているという人も当然いますし、いや、自分はこの沖縄の社会と直接向き合って、そこを研究のフィールドにしている、という研究者もいます。

井上 ひとくちに研究者といっても、色々ですよ。

殿岡 そうです。琉球大学全体として考えた時には、例えば地域に対して発信する時には地域向きの研究者に登場してもらえば良いし、グローバルな競争力について発信したい場合はそれを得意とする人たちの出番という具合に考えています。URAは適切に、アピールする相手によって何をアピールするかというところを交通整理していく、ある意味矛盾するようなことですが、やり方次第でちゃんと発信できると考えています。

本村 次に、琉球大学の研究について、学生や保護者のみなさん、あるいは琉大と何かコラボしたいと思っている人たちに対して、「これが琉大の魅力です！」とアピールしたい部分について話していただけますか？

高橋 科学的な知見から、長期的な視野をもって現場の方と一緒に新しい社会をデザインし、研究者自身も島に生きる市民として社会実践できることが、琉球大学で研究することの強みだと思います。そして、環境や生態系、歴史や文化が多様な琉球列島は、研究テーマの宝庫であることが、研究フィールドとしての魅力だと思います。

毘 地域に根ざし、理系文系問わず幅広い分野を網羅できるの

も、地方にある総合大学ならではの、という感じがします。

高橋 私は今、琉球大学の自然科学系や社会科学系による学際的な研究チーム「水循環プロジェクト」のサポートをしています。このプロジェクトは、島嶼地域の貴重な水資源の持続可能な利用と保全という地域課題について、研究者だけではなく、行政や農業者、漁業者、教育関係者、NPO等、様々な立場の方との対話を重ねながら、どのような解決策があるかを探ることを目的としています。これまでの取り組みが評価され、今年度、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）「科学技術コミュニケーション推進事業未来共創イノベーション活動支援」に採択され、地域の方とのアクションリサーチなどを展開し始めているところです。

毘 URAが出会いの場を作ったことで理系・文系それぞれの先生方が参加する研究グループへと発展し、採択に繋がったという点も、ひとつのURAの活動成果と言えると思います。沖縄ではどの島でも観光業を柱にしている中で、水が環境、あるいは魅力ある自然、さらには海に与える影響は大きいものがある、そういう点でも注目されると思います。

Ⅲ 琉大のこれから～研究の視点から～

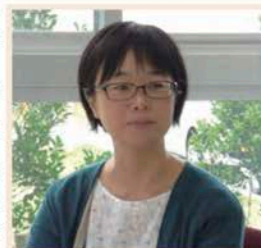
本村 さて、琉球大学は2050年の創立100周年に向けて、『地域と共に豊かな未来社会をデザインする大学』という長期ビジョンを立てています。ここでいうデザインは、地域の人々と語り合うことなくしては描くことはできません。また、本学の国内外における位置付けとして、『アジア太平洋地域の卓越した教育研究拠点』という長期ビジョンも掲げられています。これらのビジョンに向けて、URAというポジションからみた課題、または可能性をどう考えていますか？

毘 そうですね、『アジア太平洋地域の卓越した教育研究拠点』ですが、例えば生物多様性の研究や環境問題の研究であれば、もうすでにそうなりつつあるのではないのでしょうか。特に南太平洋の島嶼国には短期大学しかない国も多いので、これらの国々から琉大の各学部、大学院も含めて、プログラムを介して学生が来ています。

井上 すでに実績があると言えるわけです。そういう学生たちが育って、国に戻っても交流が続いて、更に次の学生が来るという循環ができれば、自ずとアジア太平洋地域の教育研究拠点になると思います。

毘 ただ一番の問題はやはり資金でしょうか。特に向こうでは修士課程を出て働いている研究者が多いので、琉大で研究して学位が欲しいと思っても、こちらから奨学金をもらって留学できる人は一人か二人くらいです。もっと資金面でサポートできれば交流が活発になり、お互いに盛り上がると思います。

本村 海外の卒業生とのネットワークの展開、とても楽しみです。



高橋 そよ（たかはし そよ）北海道生まれ。2000年 琉球大学法文学部卒、2008年 京都大学大学院人間・環境学研究科修了。博士（人間・環境学）。米国・東西センターの客員研究員、国際NGOのプログラムオフィサー、琉球大学女性研究者支援事業のコーディネーターを経て、2015年より現職。

昆 はい。特に今、生物多様性の面でいえば遺伝資源の利用で、外国と契約などを交わす上で、例えばインドネシアで生物の研究をしようとする時に、向こうから許可をもらうかわりに、研究者を費用は琉大持ちで大学院生として受入れてくれないかという話は結構あります。そういう利益の分配みたいなところは、論文であれば共著者にするくらいしかありませんが、その他に研究者も育てて欲しいという要望が結構多いです。ですので、そのあたりにもっと力を注ぐことが出来れば、長期ビジョンが実現できるのではないかと考えています。

高橋 私はもうひとつやってみたいことがあります。沖縄でしかできない国際展開として、世界のウチナーンチュネットワークを使った研究を企画してみたいというのが次の夢です。

本村 すでにビジネスの世界では、WUB (Worldwide Uchinanchu Business Association) のネットワークもあるし、若者のネットワークも動きが出てきています。こうした動きに、研究も関わっていくということですね。

高橋 例えば世界規模の産学連携的な試みとか、何かを開発するとき、世界ビジネスへ向けてとか、いろいろな方法で、文系だけではなく理系からもウチナーンチュネットワークを使った研究展開ができるのではないかと考えています。ウチナーンチュネットワークと協働する研究は、沖縄の大学だからこそできるものです。

本村 長期ビジョンとしても非常に楽しくワクワクするような内容だと感じます。井上さんはいかがですか。

井上 はい、私手がけている研究力分析の面からのコメントになりますが、アジア太平洋地域の卓抜した教育研究拠点となる大学を目指していくためには、研究成果を今以上に英語論文の形で世界に向けて発信していく必要があると考えています。その実現のためにも、私の主な担当である外部資金獲得のお手伝いをしっかりとやって行きたいと思っています。

本村 世界に情報発信し、留学生の受け入れを含めてグローバルな交流もさらに盛んになると、研究面が違ってくる展開になってくるとは思いますが、殿岡さんはいかがですか。

殿岡 先ほど、中・長期的な話もしましたが、もともと、日本の中で沖縄は地理的に非常に特殊なところにあります。亜熱帯気候で、しかも本土から遠く離れたところにあり、歴史的にも琉球王国という背景があり、中国との交流の歴史もありました。日本本土では全くみられないような動植物が微生物も含めて山ほどいますし、海にはサンゴ礁があり、土地は白い砂と赤い土で満ちています。研究の材料として見た時には、ある種の特殊性を持っているわけです。世界中から優れた研究者が実際に来ていますし、琉球大学でそれを最大限に生かした研究をしている人も大勢いますので、この魅力が国内外に発信されることによって、優れた研究者が集まって来る、そういう良い循環ができてと考えています。

昆 確かにそうですね。今、琉球大学には優れた研究者たちがいますし、次世代の優れた研究者を育てている実績のある分野も複数あります。ですから、さらにいい研究者が琉球大学に来て、いい研究をして、その結果いい人材が育っていくということが、十年単位の話になりますが、実現すれば素晴らしいと思います。

井上 大学受験における偏差値という物差しで見ると、琉球大学の現在の偏差値は必ずしも高くはありませんが、それはあくまで受験偏差値であって、そこでやっている研究が優れた研究

で、優れている事実がきちんと客観的に示されると、偏差値とは異なる評価が得られると思います。

高橋 それに沖縄は島ですから、アジア太平洋の島国の人々が沖縄に来て、沖縄をフィールドにして研究し、教育を受ければ、彼らの国に帰った時に直で利用できるものがたくさんありますよね。果たすべき役割みたいなものは、ある程度地理的な要因によることもありますので、最大限に活かしたほうがいい。琉大は今、そういう方向に動いていると思います。

本村 十年、二十年のスパンで考えて、URAがどういう活躍をみせて、琉大が面白い研究をどう展開していくのか、今日うかがった話をもとにしていろいろ想像できて楽しみです。それでは最後に、研究企画室・URAとしてのアピールをお願いします。

殿岡 URAは文部科学省が制度設計して大学に導入された専門人材ですが、この新しい職種を何かに例えられないかということで、「URAは作家に対する編集者のような存在」という説明がされました。研究者というのはプロの作家で、書きたいように作品を書いていく。それを売れる本にするためにあらゆることをやるのが編集者。研究者との関係では、伴走者とか併走者とも言われます。

本村 作家と編集者、ですか。なるほど。

殿岡 一緒に研究を作り上げていく上で必要なことは、全部やるということです。例えば競争的な資金の獲得は当然しなければならぬし、研究費を獲得したら、今度はそれをうまく活用しなければいけない。研究活動の中で、高橋さんがさっき言ったように、誰かと繋がってよりそれを大きくしていく必要もあるでしょうし、良い成果が出てきたら今度はそれを適切な形で外に見せる…。これは昆さんが中心になって手がけている研究広報という仕事になります。さらにそれを次に繋げるためには、井上さんがやっているような仕事。今自分がどういう立ち位置で、次はどこにいったらそれが最大限に活用出来るかという分析が必要になります。研究を最大化するために必要なことを何でもやるというURA。それを端的に表すのが編集者ということなのだと思っています。琉球大学は地方国立大学で規模も中くらい、という立ち位置があるわけで、それに合った制度をこれから作っていったらいいと思います。

本村 ありがとうございます。URAの皆さんのこれからの活躍を、一研究者としても頼りにしています。

URA一同 ありがとうございます。琉大を研究で元気にするよう、さらに頑張りたいと思います。



井上 雄介(いのうえ かつゆき)
2002年東京大学農学部卒、
2009年同大学院農学生命科学研究科修了。博士(農学)。東京大学大気海洋研究所特任研究員、2013年新潟大学研究企画室URAを経て2015年より現職。2000年から陸上競技の審判員、2010年より日本陸上競技連盟公認A級審判員。現在月に数回の審判を務める。

4. 基礎資料集

4-1 研究企画室業務実績一覧

	平成26-27年度	平成28年度	平成29年度
A. 研究戦略推進支援業務			
A1. 政策情報等の調査分析			
【文部科学省】			
競争的研究費改革に関する検討会 陪席	昆		
「大学のイノベーション経営システム確立推進フォーラム（東京大学）」参加	殿岡		
「産学官連携による共同研究強化のためのガイドライン」情報収集		殿岡	
研究振興局長来訪への対応		殿岡	
研究基盤部会 陪席			昆
概算要求事項の確認			昆
【日本学術振興会（JSPS）】			
JSPS London 訪問	殿岡		
「科学上のブレークスルーに関するグローバルシンポジウム」出席	高橋		
国際共同研究展開やHorizon等の海外グラントに関する情報収集		高橋	
【科学技術振興機構（JST）】			
マッチングプランナー（九州沖縄地区担当）との情報交換	高橋	殿岡、高橋、井上	高橋
JST・RISTEX主催「持続的可能な多世代共創社会のデザイン」研究開発領域シンポジウム個別相談会出席	高橋		
JST研究開発戦略センター（CRDS）主催ワークショップ・コメンテーター出席			高橋
【内閣府】			
内閣府総合科学技術・イノベーション会議 原山議員来訪対応	井上		
「新興感染症と向き合う最新の研究と市民の対策」シンポジウム		殿岡	
【経済産業省・NEDO】			
地域政策研究官による勉強会（内閣府沖縄総合事務局）	殿岡		
【厚生労働省・AMED】			
AMED 再生医療実現拠点ネットワーク 情報収集		殿岡	
AMED 医療機器開発支援ネットワーク（医工連携）（内閣府沖縄総合事務局）		殿岡	
【沖縄県、県内自治体】			
沖縄海洋産業創出協議会 陪席	昆		
沖縄県科学技術振興ロードマップ策定検討委員会 陪席	昆		

	平成26-27年度	平成28年度	平成29年度
県内学術機関（琉大、OIST、沖縄工業高等専門学校）及び研究支援機関による意見交換会（沖縄県庁）	殿岡		
沖縄科学技術振興ロードマップ推進会議		殿岡	殿岡
農林水産プラットフォーム（九州・沖縄 内閣府沖縄総合事務局）との情報交換		殿岡	
沖縄県「成長産業リーディングプロジェクト創出事業」			殿岡
【第五期科学技術基本計画の意見交換会】			
沖縄科学技術大学院大学で開催される意見交換会に関して内閣府との調整・対応	井上		
【国際沖縄研究所共同利用・共同研究拠点化】			
北海道大学スラブ・ユーラシア研究所への情報収集		井上、高橋	
【概算要求事項】			
文部科学省および内閣府の本学に関係があると思われる部分の抜粋			井上
【その他】			
農林水産省 海外遺伝資源利用に関するシンポジウム	殿岡		
NISTEP 政策レビューシンポジウム 参加	井上		
A2. 研究力の調査分析			
【研究力調査の業務基盤整備】			
トムソン・ロイター講習	昆		
デスクトップPCの数理解析環境の整備		昆	
【教員研究力分析ツールの情報収集】			
メディアヒュージョン社の製品の検討		昆	
【インスティテューショナル・リサーチ（IR）関係】			
情報収集・講演会・シンポジウム等への参加	井上	井上	井上
エルゼビアセミナー・シンポジウムへの参加	井上	井上	昆
トムソン・ロイターセミナー／シンポジウムへの参加	井上	昆	
トムソン・ロイター InCites ユーザー会への参加	井上、昆	井上	
人文社会科学系の研究力評価指標に関する検討			井上
京都大学 URA 成果公開シンポジウムへの参加			井上
【論文に係る研究力調査分析】			
InCites の使用説明会への参加	井上、昆		
InCites を用いた論文の量および質の分析	井上、昆	井上、昆	井上、昆
NISTEP「研究論文に着目した日本の大学ベンチマーキング2011、2015」の分析	井上、昆		
政策研究大学院大学（GRIPS）「大学ベンチマーキングセミナー」への参加	昆	井上	
研究環境基盤部会（第89回）での熱帯生物圏研究センターの発表資料への情報提供			井上、昆、殿岡

	平成26-27年度	平成28年度	平成29年度
【熱帯生物圏研究センター中間評価対応】			
共同利用研究拠点中間評価指標の対応（論文の数と質、科研費獲得状況など）	井上、昆、殿岡		
【外部資金獲得に係る研究力調査分析】			
科研費獲得状況の分析・他大学との比較	井上	井上	井上
本学の間接経費獲得額の分析	井上	井上	井上
科研費以外の外部資金（主に企業との共同研究や寄附金）獲得状況の分析・コメント作成	井上、殿岡、高橋	井上、殿岡、高橋	井上、殿岡、高橋
【法人評価対応】			
第二期法人評価への対応（研究力の観点から）	井上		
第2回人文・社会科学系研究推進フォーラム出席	高橋		
第三期中期目標・中期計画期間におけるプロジェクトシー トの記載項目の検討（法人評価対応用）		井上	
【研究力を測る指標（分野別・大学機能別）の抽出と大学の研究力の可視化に関する基礎的研究】			
研究に関する情報の収集・シンポジウムへの参加		井上	井上
研究結果の分析			井上
【琉大研究シーズ情報の把握と外部への提供】			
沖縄県「海洋資源調査・開発支援拠点形成促進事業」 への研究者・研究シーズ情報提供	殿岡		
沖縄TLO「琉大研究シーズ情報」作成への協力			殿岡
A3. 研究戦略策定			
【概算要求】			
Web of Science の契約変更に伴う予算の使用変更について検討	井上		
本学ウェブサイトの英語化の検討	井上、昆		
「地域社会ニーズ調査」に関する実施・分析・報告書作成	高橋	高橋	
琉大コミュニティキャンパス事業本部（RCC）との地域ニーズ・ヒアリング調査の実施	高橋		
沖縄振興開発金融公庫（融資第一部 地域振興班）との意見交換	殿岡、昆、高橋、井上		
東京における活動拠点（東京オフィス）設置の検討	井上		
概算要求調書作成	殿岡、昆、高橋、井上	殿岡、昆、高橋、井上	
設備サポートセンター事業の申請案を作成		昆	昆
（平成29年度）データサイエンス関係		殿岡、昆	
（平成29年度）国立大学機能強化促進費		殿岡、昆	
（平成29年度）基盤的設備等整備分の申請検討		昆	
（平成29年度）生物多様性関連の申請検討		昆	
（平成29年度）図書館での申請支援		昆	
（平成29年度）研究コンプライアンス体制の計画			昆
（平成30年度）組織整備：素案作成			昆

	平成26-27年度	平成28年度	平成29年度
【施設設備要求】			
（平成28年度）データサイエンス基盤に関する申請書		昆	
【第三期中期計画】			
プロジェクトシート作成	昆、殿岡、 高橋、井上		
平成29年度計画の見直し		昆	高橋
【第2期中期目標期間の業績評価】			
大学改革支援・学位授与機構長からの評価報告書 （案）の確認	高橋	昆	
【平成30年度 戦略の進捗状況に関する調査】			
主に論文（量および質）のデータを提供			井上
【国立大学機能強化促進費】			
戦略2に関わる計画調書の見直し			高橋
【軍事防衛研究の取扱にかかる検討ワーキング】			
陪席・参加 他大学における現状の情報収集			殿岡、昆 昆
【各部局等における研究推進機能の強化】			
提言作成支援			殿岡、昆
【各学部（部局）における研究戦略策定支援】			
法文学部長との意見交換	井上、高橋	井上、高橋	
法文学部研究推進専門委員会だより作成支援			井上、高橋
観光産業科学部との意見交換	井上、高橋	井上、高橋	
医学部長とURA室との意見交換会	殿岡		
文部科学省「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」（不採択を受けての再検討）			殿岡
臨床研究教育支援センターとの連携			殿岡
【部局 FD】			
法文学部教授会（科研費採択状況等）		井上、高橋	井上、高橋、 北條
観光産業科学部教授会（科研費採択状況等）		井上、高橋	井上、高橋
工学部教授会（科研費採択状況等）			井上
【研究基盤センター】			
旧 極低温センターにおけるスペースマネジメント			昆
【熱帯生物圏研究センター】			
国際共同研究拠点に関する文部科学省での説明資料 （国際共著論文等）の提供			井上
海外共同拠点化のための情報収集			昆
【国際沖縄研究所】			

	平成26-27年度	平成28年度	平成29年度
【海洋研究者連絡会】			
ネットワーク構築・運営案作成、メーリングリスト作成			昆
【総合的教員ポスト運用戦略】			
説明会に参加・情報収集		昆	
【先端医学研究センター機能強化TF】			
第1次答申案作成		殿岡、昆	殿岡、昆
【インスティテューショナル・リサーチ推進室】			
室員（併任）として主に研究 IR を担当		井上	
第3期中期計画のロジックシートの確認（施設運営部）		井上	
九州地区 IR 機構会議（陪席）		井上	
【大学評価 IR マネジメントセンター】			
評価企画員（併任）、IR 企画員（併任）として研究 面に関する自己評価、IR を担当			井上
【情報システム研究機構（RIOS）理事長の学長訪問】			
業務内容・共同研究の公募状況などの説明に陪席			井上
【海外共同研究拠点ネットワーク形成調査】			
オークランド大学（ニュージーランド）での島嶼地域における 消滅の危機に瀕した言語学的研究交流セミナーの企画 運営	高橋		
カナリア諸島のラスパルマス大学およびラグラナ大学視察 RETIでの座長（Session 4A: Island Economy and Its Sustainability, 18 Nov）		高橋	高橋
フレンチポリネシアCRIOBE視察			昆
【中期計画達成プロジェクト】			
事後評価方法の検討、報告会企画調整	高橋		
【人社系研究推進支援】			
第2回人文・社会科学系研究推進フォーラム出席、ネット ワーキング（主催 筑波大学）	高橋		
第3回人文・社会科学系研究推進フォーラム企画運営		高橋、井上	高橋
第4回人文・社会科学系研究推進フォーラム企画運営 （主催 京都大学）			高橋
法文学部長と事務長、研究企画員との意見交換、FD研 修		高橋、井上	高橋
観光産業科学部長と事務長、研究企画員との意見交換		高橋、井上	高橋
人社系研究の成果発信について情報収集（図書館情報 サービス課と、京大や北大の新刊情報ポータルのような 集約的な情報発信について、意見交換・検討）			高橋
人社系URAの情報交換会（JINSHA : Japan Inter- institute Network for Social sciences, Humanities, and Arts)の運営メンバーに参加			高橋

	平成26-27年度	平成28年度	平成29年度
【国際沖縄研究所拠点化申請支援】			
東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所（AA研）訪問等、他大学のデータベース整備状況調査	高橋		
他大学との共同利用・共同研究の実施支援		高橋	高橋
全国共同拠点化のための情報収集		井上、高橋	昆、井上、高橋
デジタルアーカイブ構築、日本島嶼学会でのネットワーキング		高橋	高橋
藤田所長との情報交換、会議の出席	高橋、井上	高橋、井上	高橋、井上
【データベース構築】			
研究対象データベース構築について検討			北條
風樹館データベース整備について検討			北條、高橋
研究資源のアーカイブズ化について検討			北條
【学外機関との連携】			
農林水産省 沖縄地区担当コーディネーター（バイオジェット）との情報交換	殿岡		
経済産業省「日米グリーンエネルギー技術協力」への研究シーズ情報提供	殿岡		
農林水産物の輸出促進研究開発プラットフォーム（九州・沖縄）		殿岡	
沖縄農業研究会・産業技術セミナー「先進ICT／エネルギー技術による沖縄農業の高度化」		殿岡	
松浦市との連携協議会（水中考古学） 研究ロードマップ作成等		殿岡	殿岡
B. プレアワード業務			
B1. 研究プロジェクト企画立案支援			
【国およびその関係機関】			
インドネシア メダカプロジェクト研究計画の検討	昆		
文部科学省「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」企画立案支援	殿岡	殿岡	殿岡
農林水産省「知」の集積と活用による研究開発モデル事業		殿岡	
JST 未来社会創造事業 申請に向けた共同研究体制・申請内容の調整等			井上
JSPS 頭脳循環プログラム	高橋		
【沖縄県】			
「先端医療産業開発拠点形成事業」企画立案支援	殿岡、高橋		
「沖縄感染症研究拠点形成促進事業」企画立案支援	殿岡		
「沖縄感染症研究拠点形成促進事業」後継事業への企画立案支援			殿岡
「ライフスタイルイノベーション創出事業」企画立案支援	殿岡		
「沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業」プロジェクト企画支援	殿岡		殿岡
「沖縄科学技術イノベーション共同研究促進補助金」支援		殿岡	

	平成26-27年度	平成28年度	平成29年度
【学内】			
戦略プロジェクト申請相談		高橋	
女性研究者支援研究費(グループ研究)ならびに世界農業遺産に関する調査助成への申請支援		高橋	
水循環プロジェクト(学内マッチング、研究会の企画支援)		高橋	
大分県世界農業遺産 研究助成申請支援申請支援		高橋	
琉球史・分野横断型デジタルアーカイブ構築(マッチング・プレスト支援)			高橋
(熱帯感染症、戦争マalaria) トヨタ財団研究助成申請			高橋
戦略プロジェクトへの申請(戦略プロジェクト研究申請)			高橋
戦争マalariaに関する記録・聞き取り調査(戦略プロジェクト研究申請)			高橋
世界のウチナンチュ大会での社会心理学的調査報告書(4ヶ国語対応)に関する研究アウトリーチ(戦略プロジェクト研究申請)			高橋
【当面は公的資金獲得を前提としない】			
西原町新渡戸菊プロジェクトの企画立案支援	殿岡		
沖縄生物資源を活用した創薬プロジェクトの企画立案支援	殿岡		
バイオメテックス情報収集	昆		
次世代シーケンサーを用いたプロジェクトの技術情報収集と関連研究者へ利用案内	昆	昆	昆
インドネシアシーラカンス プロジェクト研究計画の検討		昆	
中部大学と琉球大学の「高温超伝導直流送電技術」研究連携の検討		殿岡	
OISTからの研究提案「琉球列島におけるカエルの遺伝的多様性」の検討		殿岡、昆	
沖縄工業高等専門学校からの研究提案「沖縄におけるミニマルファブの展開」の検討		殿岡	
学内研究者からの依頼による研究プロジェクトの立ち上げ		殿岡	殿岡
極地研究所と本学研究者との共同研究に係る研究内容調整・資金情報提供		井上	
松浦市との包括連携に係る研究プロジェクト立案支援			殿岡
九州大学からの研究提案「亜熱帯食用ナマコ」の検討			殿岡
【その他】			
農業環境技術研究所と風樹館の連携プロジェクト(とんぼウォッチ) 対応	高橋		
国連大学との防災プロジェクトの展開の検討	高橋		
「金沢大学環日本海域環境研究センター」との共同研究支援	高橋		
APN(アジア太平洋地球変動研究ネットワーク) のプロジェクト支援	高橋		

	平成26-27年度	平成28年度	平成29年度
B2. 外部資金情報収集			
【競争的研究資金公募情報検索システム】			
企画・業者との折衝・学内他部署との調整・管理運営	井上		
ホームページの作成・修正および広報との連携		昆	
【文部科学省関係】			
オープンイノベーション加速に向けた産学共創モデル：持続可能なソーシャルビジネスとして応募ができないかの検討	井上、高橋		
科研費審査システム改革 2018 説明会への参加		井上	井上
文部科学省および日本学術振興会の説明会への参加（情報収集）	井上	井上	井上
科研費「国際共同研究加速基金」情報収集	井上		
先端研究基盤共用促進事業 情報収集	昆		
JST 目利き人材研修「国等の支援制度説明（旧・競争的資金活用コース）」への参加	井上	井上	
JST マッチングプランナープログラム マッチングプランナーによる説明会	殿岡	殿岡	
JST 事業説明会等での情報収集	殿岡		殿岡
JST マッチングプランナープログラム 学内向け説明会（説明者：殿岡）	殿岡		
産学連携学会を通じたJST事業情報収集	殿岡		
JST 平成28年度 マッチングプランナープログラム 企業ニーズ解決試験 JST福岡オフィス担当者からの情報収集	殿岡		
JST START事業		殿岡	
JST ACT-I 工学部の情報系の研究者に事業案内		殿岡	
平成29年度 文部科学省概算要求		殿岡	
文部科学省 データ関連人材育成プログラム			殿岡
RISTEX（平成27年度戦略的創造研究推進事業 WS/公募説明会） JST東京本部出席、RISTEX「フューチャー・アース 課題解決に向けたトランスディシプリナリー研究の可能性調査」公募情報の提供	高橋		
「ワークショップ形式公募説明会 2016～地域課題解決型研究プロジェクトのための競争的資金～企画運営		高橋、井上	
JSTマッチングプランナーとの意見交換	高橋	高橋	高橋
JSPS「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」（実社会対応プログラム）成果公開シンポジウム		高橋	
【経済産業省、農林水産省、その他省庁関係】			
経済産業省「革新的エネルギー技術国際共同研究」提案に向けた研究シーズ情報収集（産学官連携推進機構）	殿岡		
AMED公募説明会参加	昆		
AMED「橋渡し研究加速ネットワークプログラム（シーズABC）」九大AROセンターによる説明会	殿岡	殿岡	殿岡

	平成26-27年度	平成28年度	平成29年度
農林水産省「農林水産分野における気候変動対応のための研究開発」コーディネーターからの情報収集	殿岡		
環境研究総合推進費 情報収集			高橋
【沖縄県関係】			
「沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業」情報収集	殿岡	殿岡	井上
「ライフスタイルイノベーション創出推進事業」資金配分機関（沖縄TLO）からの情報収集	殿岡		
「平成29年度 沖縄国際物流拠点活用推進事業」			殿岡
「産学官連携推進ネットワーク形成事業」			殿岡
【その他】			
（学内）医学系研究者への外部資金情報提供についての医学部総務課との相談	殿岡		
リバネス L-RAD説明会	殿岡		
味の素株式会社「Ajinomoto Innovation Alliance Program」企業担当者からの情報収集	殿岡		
（学内）戦略プロジェクト研究			殿岡
クラウドファンディングを活用した研究費獲得に関する情報収集			殿岡
B3. 研究プロジェクト企画のための内部折衝活動			
【文部科学省】			
地域イノベーション・エコシステム形成プログラムの対応	殿岡	殿岡	
地域科学技術実証拠点整備事業の対応		殿岡	
先端研究基盤共用促進事業の申請に関する意見交換会開催	昆		
【沖縄県】			
沖縄感染症研究拠点形成促進事業の対応	殿岡		
【その他】			
（学内）個別の共同研究マッチング	殿岡	殿岡	
バイオ3Dプリンタープロジェクトによる戦略的研究プロジェクトセンター実験室利用調整	昆		
B4. 研究プロジェクト実施のための対外折衝・調整（採択前）			
【国立科学博物館】			
沖縄での古生物学的研究の相談対応	昆		
【沖縄科学技術大学院大学】			
カエルゲノムプロジェクトの研究相談調整		昆	
【東京大学大気海洋研究所】			
プロジェクト連携や合同シンポジウム開催などの会議		昆	

	平成26-27年度	平成28年度	平成29年度
【美ら島財団総合研究センター】			
医学部マイクロCTを使った共同研究の支援		昆	
環境DNA研究の事業化の検討	昆	昆	
メタバーコーディング勉強会	昆		
【環境省やんばる自然保護事務所】			
研究交流についての相談対応		昆	
【東京海洋大・SIPチーム】			
総合的な海洋管理に関する意見交換		昆、高橋	
琉球大学での特別講義の調整		高橋	
水循環プロジェクトとの研究交流会の企画調整		高橋	
【アクアマリンふくしま】			
インドネシアシーラカンスプロジェクトにおける調整	昆	昆	
【サムラトランギ大（インドネシア）】			
インドネシアシーラカンスプロジェクトにおける調整	昆	昆	
【沖縄環境科学センター】			
環境DNAプロジェクトに関する相談対応		昆	
【文部科学省関係】			
文部科学省「平成28年度 地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」久米島町、県内企業との調整	殿岡	殿岡	殿岡
JST START事業 プロモーターとの個別相談		殿岡	
JST 地域産学バリュープログラム			殿岡
【経済産業省、農林水産省、その他省庁関係】			
農林水産省「知」の集積と活用場の構築」九州大学を代表とする九州・沖縄地区のコンソーシアム形成	殿岡		
農林水産省 補正予算		殿岡	
農林水産省「知」の集積と活用場」による研究開発モデル事業		殿岡	
AMED 再生医療の産業化に向けた評価基盤技術開発事業		殿岡	
【沖縄県関係】			
「沖縄感染症研究拠点形成促進事業」管理法人のトロピカルテクノプラスとの調整等	殿岡		
「沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業」	殿岡	殿岡	殿岡
喜如嘉芭蕉布プロジェクト			殿岡
「沖縄国際物流拠点活用推進事業」			殿岡
「沖縄科学技術イノベーション共同研究促進補助金」			殿岡
【その他】			
（学内）産学官金共同研究スタートアップ支援事業		殿岡	
リバネス研究費			井上

	平成26-27年度	平成28年度	平成29年度
B5. 申請資料作成支援（申請資料作成に係るセミナー等を含む）			
【科研費（詳細はトピック参照）】			
申請相談と作成支援 件数：36（平成28年）、24（平成29年）、25（平成30年）	殿岡、昆、高橋、井上	殿岡、昆、高橋、井上	殿岡、昆、高橋、井上
科研費申請アドバイザー制度に係る研究推進課（科研費担当）との打ち合わせ・マッチング協力	井上	井上	井上
科研費再チャレンジ企画（ワークショップ）	井上	井上	井上
科研費獲得ワークショップの企画・準備・開催 参加者：47（平成28年）、17（平成29年）、83（平成30年）	井上、殿岡、昆、高橋	井上、殿岡、昆、高橋	井上、殿岡、昆、高橋
奨励研究の説明会の開催		井上	
科研費再チャレンジ企画（個別相談）	殿岡、昆、高橋、井上	殿岡、昆、高橋、井上	殿岡、昆、高橋、井上
【研究活動スタート支援】			
新任教員研修での説明（講演）	井上	井上	井上
個別相談と申請書作成支援	井上	井上、昆、高橋	井上、高橋
【学振特別研究員PD/DC, RPD】			
申請相談と作成支援	殿岡、高橋、井上	殿岡、高橋、井上	殿岡、高橋、井上
説明会の開催		井上	井上
【平成28年度 JSPS 外国人特別研究員受け入れ支援】			
問い合わせに対応		井上	
【平成28年度 JSPS 海外特別研究員申請支援】			
個別相談と申請資料作成支援（件数：1）		井上	
【科研費ガイドブック】			
初版の作成・改訂作業	井上、昆、殿岡、高橋		
第2版の作成・改訂作業		井上、昆、殿岡、高橋	
第3版の作成・改訂作業			井上、昆、殿岡、高橋、北條
【JSPS 拠点形成事業】			
「先端拠点形成型」個別相談と申請書作成支援	井上、高橋		
「アジア・アフリカ学術基盤形成型」申請支援	井上、高橋		高橋、井上
【JSPS 二国間交流事業（共同研究）】			
申請書作成支援			井上
【JSPS 頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム】			
個別相談と申請書作成支援（平成28年 2件、平成29年 0件、平成30年 2件）	井上、昆		井上、高橋

	平成26-27年度	平成28年度	平成29年度
【JSPS 課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業】			
ブレインストーミングと申請書作成支援（実社会対応プログラム）（平成28年 1件）	井上、高橋		
ブレインストーミングと申請書作成支援（領域開拓プログラム）（平成30年 1件）			井上、高橋
【JSPS新学術領域支援基盤形成事業】			
「人文学系の特性を踏まえた学術資料の研究支援プラットフォーム」（代表：国立歴史民俗博物館）企画調整	高橋		
【文部科学省 先端研究基盤共用促進事業】			
計画書の作成ととりまとめ	昆	昆	
【文部科学省 地域イノベーション・エコシステム形成プログラム】			
申請支援（琉球大、沖縄県、久米島町）	殿岡		
【文部科学省 地域科学技術実証拠点整備事業】			
申請支援		殿岡	
【文部科学省 データ関連人材育成プログラム】			
公募情報の提供			井上
【JST（RISTEX）戦略的創造研究推進事業】			
持続可能な多世代共創社会のデザイン、ブレインストーミングと申請書作成支援	井上、高橋		
「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」「コミュニティがつなぐ安全・安心な都市・地域の創造」公募情報の提供		井上、高橋	
【JSTさきがけ・ACT-I】			
「社会と調和した情報基盤技術の構築」への申請検討 公募情報の提供		昆	井上
【JST マッチングプランナープログラム】			
申請支援	殿岡	殿岡	
【JST「未来社会創造事業」（探索加速型）】			
申請書作成のためのプレスト・申請書のブラッシュアップ（平成29年 1件）		井上	
【JST START事業】			
申請支援		殿岡	
【JST 地域産学バリュープログラム】			
申請支援			殿岡
【JST 科学技術コミュニケーション推進事業「未来共創イノベーション活動支援」】			
水循環プロジェクト・申請・ヒアリング支援			高橋

	平成26-27年度	平成28年度	平成29年度
【総合地球環境学研究所 インキュベーション研究】			
ヒアリング・プレゼン支援		昆	
【経済産業省、農林水産省、その他省庁関係】			
AMED「平成27年度 革新的バイオ医薬品創出基盤技術開発事業」	殿岡		
AMED「アフリカにおける顧みられない熱帯病対策のための国際共同研究プログラム」	殿岡		
AMED「2017 新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業」		殿岡	
AMED「再生医療実現拠点ネットワークプログラム」申請支援		井上	
農林水産省「「知」の集積と活用」による研究開発モデル事業（第2次）		殿岡	
【日本学術会議】			
第23期学術の大型研究計画に関するマスタープラン申請支援	殿岡、昆		
【沖縄県関係】			
「先端医療産業開発拠点形成事業」	殿岡		
「沖縄感染症研究拠点形成促進事業」	殿岡		
「沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業」	殿岡、井上	殿岡、井上	殿岡、井上
「沖縄国際物流拠点活用推進事業」（平成28年度）沖縄県医科学研究財団 研究奨励賞申請支援		井上	殿岡
【地域課題解決型研究のための競争的研究資金獲得ワークショップ】			
ワークショップの企画・開催・公募内容の説明		井上、高橋	
【総合地球環境学研究所 インキュベーション研究】			
ヒアリング・プレゼン支援	高橋		
【学内】			
産学官金共同研究スタートアップ支援事業	殿岡		
学内研究環境整備費 戦略的研究プロジェクトセンターによる申請支援		昆	
琉球大学ブランド商品開発支援			殿岡
研究プロジェクト推進経費 申請書作成のための相談			井上
【研究企画室学内専用ページ（学内限定情報）】			
企画・作成・管理運営	井上	井上	井上
【その他】			
民間、財団等の研究助成に係る申請書作成支援	殿岡	殿岡	殿岡
国連大学「地球規模課題解決に資する国際協力プログラム」申請支援			高橋
JICA 草の根技術協力事業（島嶼地域の災害レジリエンス評価に関する研究企画）			高橋

	平成26-27年度	平成28年度	平成29年度
住友財団助成金申請支援		昆	
カシオ科学振興財団研究助成申請支援			井上
宇流麻学術研究助成基金申請支援		井上	
トヨタ財団研究助成基金申請支援		高橋	高橋
C. ポストアワード業務			
C1. 研究プロジェクト実施のための対外折衝・調整（採択後）			
【先端研究基盤共用促進事業】			
熊本大学の共用システム視察		昆	
【JST マッチングプランナープログラム】			
申請支援（採択3件）	殿岡		
【経済産業省、農林水産省、その他省庁関係】			
SIP「インフラ維持管理・更新・マネジメント技術」プロジェクトへの琉大研究者の参画	殿岡		
【沖縄県関係】			
「沖縄感染症研究拠点形成促進事業」採択	殿岡	殿岡	
「沖縄科学技術イノベーションシステム形成促進事業」申請支援（採択4件）	殿岡	殿岡	
「沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業」		殿岡	殿岡
喜如嘉芭蕉布プロジェクト			殿岡
「沖縄科学技術イノベーション共同研究促進補助金」			殿岡
「沖縄国際物流拠点活用推進事業」			殿岡
【学長リーダーシッププロジェクト】			
国際シンポジウム開催日時・場所等の調整		井上	
【中期計画達成プロジェクト】			
個別支援（研究アウトリーチ支援について依頼相談）	高橋		
個別支援（6件）	高橋		
【戦略的研究プロジェクト】			
「無形文化財の記録・保存・継承」プロジェクト支援（国際沖縄研究所）		高橋	
水循環プロジェクト支援		高橋	
【JST科学技術コミュニケーション推進事業】			
「水の環プロジェクト」のポストアワード支援全般			高橋
【その他】			
リバネス研究費 採択後の対応		殿岡	
（学内）琉球大学ブランド商品開発支援			殿岡
C2. プロジェクトの進捗管理			
【文部科学省関係事業】			
科研費による個別研究プロジェクトの支援	殿岡	殿岡	
JST マッチングプランナープログラム	殿岡	殿岡	

	平成26-27年度	平成28年度	平成29年度
【先端研究基盤共用促進事業】			
新共用システムの運営委員		昆	昆
機器分析支援センターとの連携		昆	昆
運営委員会の調整・進行		昆	昆
実験室・共用機器管理・運営		昆	昆
確定調査・会計検査（実地調査）対応			昆
機器見学会実施			昆
【沖縄県関係事業】			
「沖縄感染症研究拠点形成促進事業」	殿岡	殿岡	殿岡
「沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業」	殿岡	殿岡	殿岡
「沖縄科学技術イノベーション共同研究促進補助金」			殿岡
「沖縄国際物流拠点活用推進事業」			殿岡
【戦略的研究プロジェクトセンター】			
プロジェクトセンターの運営委員として支援		昆	昆
ホームページ作成・管理		昆	昆
利用規程とその関連事項の見直し			昆
動物実験に関わる調整			昆
所属教員の外部資金獲得支援			昆
機器整備計画立案・実施			昆
【学内 研究プロジェクト推進経費（戦略プロジェクト研究）】			
エコモルフロジープロジェクトの運営支援		昆	
エコモルフロジープロジェクトの個別課題への助言			昆
【環境DNA】			
ミーティング開催と運営支援		昆	昆
個別課題の実施支援			昆
包括連携に基づく美ら島財団による環境DNA解析機器類 の利用調整			昆
CREST「環境DNA分析に基づく魚類群集の定量モニタリ ングと生態系評価手法の開発」における全国一斉調査			昆
【インドネシア メダカ研究プロジェクト】			
プロジェクトキックオフ支援			昆
【亜熱帯の時空間ゲノミクス】			
支援研究費公募の周知支援			昆
【琉球弧マルチフィジックス風化プロジェクト】			
定例ミーティングに出席、進捗状況の確認		井上	井上
国際シンポジウム陪席		井上	
【学長リーダーシッププロジェクト】			
国際シンポジウム関係の調整		井上	

	平成26-27年度	平成28年度	平成29年度
【その他】			
(学内) 学長リーダーシッププロジェクトおよび戦略プロジェクト研究支援 主担当URA	殿岡、昆、 高橋、井上	殿岡、昆、 高橋、井上	殿岡、昆、 高橋、井上
他大学等との共同研究（共同研究契約あり）			殿岡
松浦市との包括連携にかかる共同研究（水中考古学）			殿岡
(学内) 琉球大学ブランド商品開発支援			殿岡
C3. プロジェクトの予算管理			
【沖縄県関係事業】			
「沖縄感染症研究拠点形成促進事業」	殿岡	殿岡	殿岡
「沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業」		殿岡	
「沖縄科学技術イノベーション共同研究促進補助金」			殿岡
【戦略的研究プロジェクトセンター】			
研究環境整備支援		昆	
【JST科学技術コミュニケーション推進事業】			
「水の環プロジェクト」の進捗状況の管理			高橋
C4. プロジェクト評価対応関連			
【先端研究基盤共用促進事業】			
JST担当者の現地視察対応		昆	
【沖縄県関係事業】			
「沖縄感染症研究拠点形成促進事業」		殿岡	殿岡
「沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業」		殿岡	
【JST科学技術コミュニケーション推進事業】			
「水の環プロジェクト」JST担当者の現地視察対応、外部 評価委員会			高橋
【その他】			
(学内) 中期計画達成プロジェクト 事後評価	殿岡		
(学内) 産学官金共同研究スタートアップ支援事業		殿岡	
会計検査院への産学官連携に関する概要説明			殿岡
C5. 報告書作成			
【文部科学省関係事業】			
JST マッチングプランナープログラム		殿岡	
【先端研究基盤共用促進事業】			
平成28年度の実績報告書および事業報告書作成			昆
【沖縄県関係事業】			
「沖縄感染症研究拠点形成促進事業」		殿岡	
「沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業」		殿岡	

	平成26-27年度	平成28年度	平成29年度
【JST科学技術コミュニケーション推進事業】			
「水の環プロジェクト」の平成29年度四半期報告書、実績報告書、中間報告書等の作成			高橋
D. 関連専門業務			
D1. 教育プロジェクト支援			
【日本財団「海を活かした教育に関する実践研究」助成事業】			
ブレインストーミング・申請書の作成支援	高橋、井上		
大学コンソーシアムとの連携			高橋
D2. 国際連携支援			
【海外から】			
海外研究者からの問い合わせへの対応 ドイツの老年学研究者	殿岡		
太平洋島嶼国からの琉球大学視察対応		殿岡、昆	
カナダ・アルバータ州政府在日事務所代表の来沖			殿岡
【海外へ】			
平成27年度 沖縄感染症研究拠点形成促進事業	殿岡		
ISNTD Bites (London) への参加			
共同研究契約書 英語版ひな型の作成支援		殿岡	
在沖米国海軍病院との連携に関する説明資料作成		殿岡	
13th International Coral Reef Symposium 2016 への参加		殿岡	
D3. 産学連携支援			
【イベント等】			
産学連携学会への参加	殿岡		
JST 新技術説明会	殿岡	殿岡	殿岡
イノベーション・ジャパン出展	殿岡	殿岡	
Bio Japan出展	殿岡		殿岡
アグリビジネス創出フェア出展	殿岡	殿岡	殿岡
経済産業省、文部科学省、内閣府、琉球大「本格的な産学官共同研究をすすめるための地域フォーラムin沖縄」		殿岡	
【産学連携活動におけるプレアワード業務】			
企業からの技術相談への対応	殿岡、昆	殿岡	殿岡
企業との共同研究マッチング		殿岡、昆	殿岡
個別企業からのニーズ情報収集			殿岡
共同研究の検討における秘密保持			殿岡
内閣府沖縄総合事務局（経済産業部）を通じた技術相談、マッチング相談	殿岡		
公募型共同研究テーマ募集（製薬系企業等）への対応	殿岡	殿岡	殿岡
研究成果に関する企業からの問い合わせへの対応	殿岡		殿岡

	平成26-27年度	平成28年度	平成29年度
企業と大学との連名による競争的研究資金獲得	殿岡	殿岡	殿岡
共同研究プロジェクトの企画立案	殿岡	殿岡	殿岡
共同研究における予算交渉			殿岡
【産学連携活動におけるポストアワード業務】			
共同研究契約等の締結に向けた実務	殿岡	殿岡	殿岡
共同研究テーマに関する情報調査	殿岡	殿岡	殿岡
共同研究プロジェクトの進捗管理		殿岡	殿岡
企業への技術移転			殿岡
研究成果有体物			殿岡
共同研究成果報告書の作成			殿岡
【包括連携関係】			
沖縄銀行との包括連携に関する対応 産学官金連携	殿岡	殿岡	
沖縄振興開発金融公庫との包括連携に関する対応	殿岡		
琉球銀行との包括連携に関する対応			殿岡
【沖縄金融公庫との連携】			
本学と沖縄金融公庫との連携に関する打ち合わせ出席・関係者調整	高橋、井上		
【JST産学バリュープログラム 広域連携案件】			
トピカルテクノプラスより、JSTと十勝（帯畜大、とかち財団等）、沖縄県内研究機関との研究連携についてマッチング相談			高橋
【その他】			
（学内）産学官連携推進機構 連絡会への参加	殿岡	殿岡	
（学内）産学官金共同研究スタートアップ支援	殿岡	殿岡	殿岡
県内経済団体との連携 沖縄経済同友会		殿岡	
ダイキンとの包括的な連携に向けた提案		殿岡	殿岡
大学発ベンチャーの支援			殿岡
沖縄工業連合会 定時総会への参加			殿岡
軍事安全保障研究に係る産学連携			殿岡
D4. 知財関連			
【知財関連一般】			
研究者からの発明相談への対応	殿岡	殿岡	殿岡
（学内）提携弁理士による発明相談会への同席	殿岡		
研究成果有体物対応		殿岡	殿岡
企業との共同研究成果の特許化に関する相談		殿岡	殿岡
特許を受ける権利の出願前譲渡に関する相談		殿岡	
知財マネジメントに関する他機関との交流（AMED）		殿岡	
特許出願後のフォローアップ（他機関への情報開示等）		殿岡	
企業への技術移転			殿岡
琉大ブランド商品開発支援に係る商標			殿岡
発明審査委員会 委員としての参加			殿岡
化合物検索ツール Scifinder の導入検討			殿岡

	平成26-27年度	平成28年度	平成29年度
【自身の研究成果の知財化】			
発明審査委員会資料作成			北條
D5. 研究機関としての発信力強化促進			
【研究企画室リーフレット】			
作成	高橋、昆		
【研究推進機構ホームページ】			
サイト作成・管理	昆	昆	昆
【研究推進機構SNS】			
FacebookおよびTwitterのアカウント作成・管理		昆	昆
【戦略的研究プロジェクトセンター】			
ホームページの開設・管理・運営	昆	昆	昆
【研究推進機構アドバイザー会議】			
会議開催報告の作成および文教ニュースへの投稿		昆、井上	
【地域ニーズ調査】			
調査結果のホームページへの公開（昆・高橋）		昆、高橋	
【広報戦略タスクフォース】			
答申案の作成	昆		
大学公式HPリニューアル案の選定	昆		
【広報戦略本部】			
部局等の英語名称の検討		昆	
本学紹介プレゼン資料の英語版の検討		昆	
ニュースレターの企画検討		昆	
広報室作成の紅型を用いた名刺デザインの検討		昆	
大学公式HPの内容検討		昆	
大学概要の内容検討		昆	昆
公式カレンダーの写真提供		昆	
広報戦略本部員			昆
UI開発に仕様書策定委員として参加			昆
UI開発のための電通ヒアリングへの出席			高橋、井上
【文部科学省展示】			
展示方針の検討	昆		
【文教ニュース原稿】			
研究企画室主催イベントの文教ニュースへの寄稿	井上、高橋	井上	
研究推進アドバイザー会議の文教ニュースへの寄稿		井上、昆	
【東京オフィス】			
東京地区における情報発信・情報収集・作業場所としての 東京オフィスの設置検討	井上		
東京オフィスの什器・パソコン整備・メンテナンス	井上	井上、昆	井上

	平成26-27年度	平成28年度	平成29年度
【研究推進機構ホームページ】			
中期計画達成プロジェクト紹介記事等の執筆・研究者との調整	高橋、昆	高橋、昆	
【研究推進機構SNS】			
Facebook記事のアップ（イベント等）	高橋、昆	高橋、昆	高橋、昆
【研究推進機構アドバイザー会議】			
企画調整	高橋		
【地域ニーズ調査】			
調査結果のホームページへの公開		昆、高橋	
【研究機関としての発信力強化促進】			
自己PRの資料を作成			北條
【琉大研究者データベース】			
琉球大学研究者データベース更新への協力	殿岡		
琉大研究者データベースの英訳修正			北條
データベース管理業務に関する内容把握			北條
琉大研究者データベースのデモサイト確認			北條、昆
【その他】			
地元紙によるURA室取材への対応（琉球新報）		殿岡	
D6. 研究広報関連			
【研究成果のプレスリリース】			
ルール作成	昆		
プレスリリースの作成支援	昆	昆	昆
【研究企画室リーフレット】			
英訳対応	昆		
【琉大ニュースレター】			
研究等紹介記事作成		殿岡	殿岡、高橋、昆、北條
【機器分析支援センターニュースレター】			
共用機器の記事作成	昆		
【研究広報マニュアル】			
作成	昆		
監事指摘事項対応			昆
【学内競争的研究費によるプロジェクト】			
ホームページでの紹介	昆	昆	昆
【研究野外フィールド】			
ホームページ紹介案の検討	昆		
【研究成果のSNS発信】			
研究成果に関する記事の発信		昆	昆

	平成26-27年度	平成28年度	平成29年度
【学長リーダーシッププロジェクト】			
PI紹介パンフレット原案の作成	井上		
PI紹介リーフレット作成	昆、高橋		
広報		殿岡	
【文部科学省エントランス展示】			
展示計画資料の作成	昆		
展示内容の取りまとめ		昆	昆
大型パネルの作成		昆	昆
動画素材のとりまとめ		昆	
動画構成			昆
展示設営・撤収作業			昆
【研究者HP作成支援】			
はじめての研究広報―研究活動に役立つ基礎知識セミナー受講とレポート配信			昆
【マスコミ対応】			
日本テレビ対応	昆		
沖縄テレビ対応	昆		
研究問い合わせへの対応	殿岡		殿岡
【研究者データベース】			
デモサイトの試用・確認・改善点の提案			井上
【科学コミュニケーション】			
「光化学とサイエンス・コミュニケーション」に関する相談対応	高橋		
伊良部漁協から、博物館（風樹館）の標本をもとにした 展示物製作の依頼があり、調整（委託事業）			高橋
サイエンスカフェ企画運営（図書館とのコラボ企画）			
【風樹館ビオトープ&沖縄県盲学校100周年事業】			
風樹館のこれまでの実績を生かし、沖縄県沖縄盲学校 100周年事業としてビオトープづくりへの協力・調整			高橋
【科研費成果公開】			
文部科学省 科研費成果事例 対応	高橋		
【メディア発信のサポート】			
JST 科学コミュニケーションセンター機関誌「サイエンスウィンドウ」水特集号への寄稿			高橋
【その他】			
琉大概要 記事添削	殿岡		
企業との共同研究に関する広報	殿岡	殿岡	
NISTEP「ナイスステップな研究者」選定に関する対応	殿岡		
沖縄県「平成27年度 沖縄感染症研究拠点形成促進事業」事業HP立ち上げ	殿岡		殿岡
研究成果報告会・シンポジウムの広報	殿岡		
琉球銀行との包括連携 研究推進関連の情報整理		殿岡	

	平成26-27年度	平成28年度	平成29年度
沖縄TLO 琉大研究シーズ集		殿岡	
タラ号来沖に合わせたScientific Meeting への協力		殿岡	
第31回 九州地域戦略会議			殿岡
D7. イベント開催関連			
【情報収集】			
サイエンスアゴラ見学	昆	昆	昆、高橋
【研究推進フォーラム】			
第2回の企画・調整・学長レク・文教ニュース	高橋		
第3回の企画・調整	高橋		
第3回の運営	昆、井上、殿岡、 高橋		
学長リーダーシッププロジェクト PIへの情報提供・インタビュー	井上、昆、殿岡、 高橋		
第4回の企画・調整		高橋	
【戦略的研究プロジェクトセンター特命助教交流会】			
企画・運営	昆、殿岡、 高橋、井上		
【言語系統樹プロジェクト】			
ワークショップの内容調整	昆		
【RNA-Seq系統解析セミナー】			
セミナーの調整・運営		昆	
【国立沖縄自然史博物館】			
シンポジウムの調整・運営・広報	昆	昆	昆
シンポジウム開催報告の学会発表			昆
【おきなわマリンサイエンスネットワーク】			
ネットワーク構築・運営		昆	昆
琉球大開催の運営			昆
【学内プロジェクト中間報告会】			
シンポジウムの調整・広報・運営支援		昆	
【環境省シンポジウム ESNAP】			
シンポジウムの調整・広報・運営支援	昆	昆	
【沖縄観光コンベンションビューローとの連携】			
MICE支援事業の情報交換・学内周知		昆	昆
【日本学術会議シンポジウム】			
開催支援		昆	
【琉球大学・沖縄県共催シンポジウム・パネル展】			
シンポジウム「水から考えるSDGs × 沖縄の島じまの挑戦」企画調整			高橋
パネル展「水から考えるSDGs」（日本科学未来館共催）			高橋

	平成26-27年度	平成28年度	平成29年度
【その他】			
アグロイノベーション九州（6福岡）出展に向けた資料準備		殿岡	
沖縄県「沖縄感染症研究拠点形成促進事業」イベント		殿岡	殿岡
学内研究集会・シンポジウム等の開催支援		殿岡	
D8. 安全管理関連（安全管理等）			
【試薬管理】			
化学物質管理・システム準備（CRIS）	昆		
【高圧ガス】			
亜熱帯島嶼科学拠点研究棟の高圧ガスボンベ管理		昆	昆
【廃液】			
亜熱帯島嶼科学拠点研究棟の廃液管理		昆	
【電気】			
亜熱帯島嶼科学拠点研究棟の漏電調査		昆	
【分析機器】			
亜熱帯島嶼科学拠点研究棟の分析機器類の管理全般		昆	昆
D9. 倫理・コンプライアンス関連（研究不正等）			
【名古屋議定書ABS】			
情報収集ならびに本学における対応策の検討	昆、井上	昆、殿岡	昆
全学実態調査の検討			昆
【カルタヘナ】			
情報収集ならびに本学における対応策の検討		昆	
【安全保障輸出管理】			
情報収集ならびに本学における対応策の検討	昆	昆	
教授会（理・工・農・観光）でのFD	昆		
規程類改訂の検討		昆	
研究コンプライアンスチームの設置検討		昆	昆
安全保障輸出管理制度改革ワーキンググループ運営		昆	昆
該非判定対応		殿岡	昆
【研究公正・研究費公正執行】			
情報収集ならびに本学における対応策の検討	昆	昆	昆
「研究費公正執行教育」「研究倫理教育」教材作成ワーキンググループ	殿岡		
教材の作成（研究費）	昆、井上		
教材の作成（倫理）	井上、昆		
研究費、研究活動不正にかかる規定改正案の改訂作業	昆		
研究費公正執行Webクラス教材の作成	昆		
学内研究倫理教育制度の検討・実施		昆	
理解度確認問題の作成	井上		

	平成26-27年度	平成28年度	平成29年度
図書館リテラシーガイドブック「研究倫理はなぜ大切？」原稿改訂	井上、昆		
研究費公正執行教育セミナーの実施支援・講師として講演	井上		
学術研究フォーラム第8回シンポジウム「科学研究のより良き発展と倫理の確立を目指して」への参加		井上	
論文受理報告書登録システムの検討			昆
論文不正が疑われる事案への対応		井上	
JST 研究公正ワークショップの事前課題提出・参加・情報収集		井上	
【研究費・研究活動不正対応ワーキンググループ委員】			
本学の研究費公正執行教育・研究倫理教育の在り方について検討、本学独自教材の確認		昆、井上	
【植物遺伝資源】			
情報収集と整理		昆	
【新任研修】			
研究倫理についての研修支援		昆	
【その他】			
大学発ベンチャー立ち上げに関する相談		殿岡	
農林水産省 植物遺伝資源の利用促進ワークショップ		殿岡	
CITI Japanプロジェクト JST研究者コース受講	殿岡、昆、 高橋、井上		北條
E. その他（スキル標準にはない業務）			
E1. 地域連携支援			
【沖縄県】			
地域円卓会議の参加	昆		
ポストク支援策の検討	昆		
大学の研究ポテンシャルを活用した伝統工芸産業の基盤強化に関する意見交換会の参加		殿岡	
【沖縄科学技術振興ロードマップ推進会議】			
ロードマップ修正作業	昆		
本学のプレゼンテーション作成		昆	
【美ら島財団】			
包括連携協定締結の支援	昆		
ベトナム公務員研修の調整	昆		
個別研究支援	昆		
共同研究（IIOS）	高橋	高橋	
科学コミュニケーション活動の連携			高橋
【おきなわマリンサイエンスワークショップ】			
OIST開催の第1回についての学内周知・参加受付		昆	

	平成26-27年度	平成28年度	平成29年度
【宮古島市】			
宮古島市教育委員会と八重干瀬の文化庁調査の相談。	高橋		
IIOSの中期計画PJを紹介			
外来種プロジェクト 関係機関との連絡調整支援			昆
【沖縄科学技術振興ロードマップ推進会議】			
本学のプレゼンテーション作成		全員	全員
【沖縄県への国連機関誘致への協力】			
国連大学・琉球大学・沖縄県共催シンポジウムの企画調整			高橋
【沖縄県「生物多様性おきなわブランド発信事業」】			
「自然環境の保全に関する指針」を再査定に関する沖縄県環境部からの相談対応			高橋
【その他】			
西原町、西原町商工会との包括連携関連「西原町新渡戸菊プロジェクト」	殿岡	殿岡	殿岡
宜野湾市との包括連携協定書のブラッシュアップ等	殿岡		
名護市まるごとビジネスマッチング（名護市）参加	殿岡		
オキナワベンチャーマーケット（那覇市）参加	殿岡		
名護市地域おこし支援からの研究者探索依頼への対応	殿岡		
奄美群島広域事務組合との包括連携に関する対応	殿岡		
JATAFF アグリ技術シーズセミナー in 沖縄 参加	殿岡		
久米島円卓会議への参加	殿岡		
中城村との包括連携協定に基づくプロジェクト提案		殿岡	殿岡
喜如嘉芭蕉布プロジェクト			殿岡
E2. ダイバーシティ支援			
【支援一般】			
JST女性研究者研究活動支援事業成果報告書 執筆	高橋		
会議、会計監査立ち会い			
学内公募研究費の検討	井上、昆		
活動相談	高橋	高橋	高橋
E3. 中期目標・中期計画関連			
【評価の実質化】			
作成・修正作業		殿岡、昆、高橋、井上	
【戦略の進捗状況等に関する調書】			
作成・修正作業			昆
【第3期中期目標・中期計画】			
記載内容のプレスト・検討	井上、殿岡、昆、高橋、		

	平成26-27年度	平成28年度	平成29年度
プロジェクトシート記載項目の検討	井上	井上	
科研費に係る中期目標指標の検討・提案			井上
【プロジェクトシート】			
作成		殿岡、昆、 高橋、井上	殿岡、昆、 高橋、井上
【その他】			
第2期実績報告書 研究関連の内容チェック等		殿岡	
E4. URA 自身による外部資金獲得			
【研究不正】			
研究不正行動に関する研究	昆	昆	
【環境DNA】			
ハゼ類の多様性に関する研究			昆
【研究成果公表促進経費（学内）】			
「素潜り漁師の社会誌：サンゴ礁資源利用と島嶼コミュニティの生存基盤」出版（単著）			高橋
【統計数理研究所共同利用研究】			
重点テーマ「学術文献データの新たな統計科学的アプローチ」への応募・実施	井上、昆	井上、昆	井上、昆
【科研費奨励研究】			
IR分野での応募	井上	井上	井上
人文社会科学系の研究力の評価指標の検討			井上
【科研費研究】			
基盤研究（C）「キノコ栽培を行うシロアリの菌床維持機構を制御する分子基盤」研究代表者			北條
挑戦的萌芽研究「シロアリは何故木材をかじることができるか？～大顎へ金属を蓄積するメリットを探る～」研究分担者			北條
挑戦的研究（萌芽）「研究活動における科学者の不正行為を抑制するための新たな倫理教育プログラムの開発」連携研究者			昆
基盤研究(C)「琉球列島におけるサンゴ礁の漁撈活動と民俗分類をめぐる生態地理学的研究」（代表 渡久地健 琉球大学）、研究協力者	高橋	高橋	高橋
基盤研究(S)「浅海底地形学を基にした沿岸域の先進的学際研究－三次元海底地形で開くパラダイム－」（代表 菅浩伸 九州大学）、研究協力者		高橋	高橋
基盤研究(C)「沖縄のコウモリに関する感染症生態学の高感度網羅的遺伝子探索による解析」（代表 斉藤美加 琉球大学）、連携研究者		高橋	高橋

	平成26-27年度	平成28年度	平成29年度
E5. 研究者の研究活動に対する助言			
【ベイズ法による系統解析】			
解析方法に関する相談対応		昆	
【ミトゲノム全周塩基配列決定】			
学内研究プロジェクトの個別課題への助言			昆
【MIG-seq】			
ゲノミクス解析支援チームへの解析法に関する助言			昆
【生物同定】			
有機化合物の抽出元となるホヤの同定に関する相談対応		昆	
【生物試料保管】			
分子系統解析や系統解析の証拠標本保管に関する相談対応		昆	
【次世代シーケンサー】			
研究戦略および技術に関する相談対応		昆	北條
【査読】			
国際学術誌（英文）の査読			昆
【その他】			
セミナー等への参加、意見交換			北條
E6. 大学間の連携支援			
【沖縄科学技術大学院大学】			
技術移転セクション 実務者勉強会	殿岡		
OIST美ら森プロジェクト 吉村氏との情報交換（協定締結に向けた情報収集→沖縄県が保留）	高橋	高橋	高橋
カエルゲノムに関する共同研究			昆、殿岡
【九州工業大学・東京大学・早稲田大学】			
水中ロボットに関する共同研究	昆		
【環境省やんばる野生生物保護センター】			
やんばるの自然多様性に関する研究連携	昆		
【東京大学大気海洋研究所】			
琉球弧の地球科学的研究	昆		
【山口大学】			
山口大学 URA勉強会	殿岡		
【滋賀大学】			
学術国際課による科研費申請支援に関する訪問調査への対応	殿岡、井上		
【佐賀大学】			
研究推進課によるURA組織立ち上げ・運営に関する電話調査への対応	殿岡		

	平成26-27年度	平成28年度	平成29年度
【鹿児島大学】			
産学官連携実務者連携	殿岡	殿岡	
【弘前大学】			
研究戦略委員による研究推進に関する訪問調査への対応	殿岡		
【農研機構】			
九州沖縄農業研究センターとの意見交換		殿岡	
【東京大学】			
東京大学URAからの琉球大学におけるURA室の体制に関する質問への回答			殿岡
【東京外国語大学】			
意見交換会の調整・実施	井上		
【岡山大学】			
大学研究力強化ネットワーク（担当者：岡山大学URA）との意見交換会の調整・実施	井上		
【電気通信大学】			
URA との意見交換会の調整・実施	井上		
【国立極地研究所】			
本学の教員とのマッチング	井上	井上	
【京都大学】			
霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院の熱生圏西表研究施設での実習対応	高橋	殿岡	
野生動物研究センター、霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院との共催シンポジウム企画調整			高橋
共催シンポジウムの聴講			北條
【量子科学技術研究開発機構】			
イノベーションセンターとの包括連携			殿岡
【その他】			
他大学からの個別研究連携に関する相談への対応	殿岡	殿岡	
地域特性を活用した「多能工型」研究支援人材養成拠点（平成26年度採択 文部科学省科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業）への協力（西田睦室長による基調講演）			高橋
東京藝術大学COI拠点「感動」を創造する芸術と科学技術による共感覚イノベーションへの協力（研究者マッチング支援）			高橋
日本科学未来館との連携（科学コミュニケーションに関する意見交換）			高橋

	平成26-27年度	平成28年度	平成29年度
E7. URA自身による講演・研究発表			
【言語系統樹ワークショップ】			
招待講演：「生物学における分子系統解析法の紹介－日本語の言語系統解析論文を読みながら」	昆		
【RA協議会】			
統計数理研究所との共同研究に関する研究発表（大学研究力分析）		昆、井上	
【沖縄県お魚ゼミ】			
沖縄県内魚類研究者で構成されるゼミでの環境DNA研究（リュウキュウアユ）の発表		昆	
【中央水研セミナー】			
魚類の多様化プロセス解析に関する発表		昆	
【日本古生物学会】			
シンポジウム招待講演：「魚類における分岐年代推定と多様化プロセス解析」			昆
【日本魚類学会】			
一般講演：「紅海産幼形進化的シラスウオ属魚類の分子系統的位置」			昆
【第10回 インダー太平洋魚類国際会議】			
一般講演：「Molecular phylogenetics and the diversification of the gobioid fishes」			昆
【魚類学の百科事典】			
分担執筆：魚類学の百科事典「遺伝子分析が明かす隠蔽種」			昆
【IR に関する論文出版】			
「教育達成モデルに基づく退学行動の研究 ～ディシジョンツリー分析による検討～」、鎌田浩史・井上雄介、2016. 大学評価とIR（5）23-27.	井上		
【Kanazawa Workshop 2016】			
研究会「地域社会の再生／再活性化に向けたフィールド・サイエンスの可能性」での発表	高橋		
【沖縄県主催「サンゴ礁保全シンポジウム」】			
シンポジウム招待講演・パネリスト 素潜り漁師のサンゴ礁利用と自然認識	高橋		
【沖縄地理学会論文賞】			
「礁斜面の凹地“カタマ”の漁場としての生物地形学的評価」、渡久地健・藤田喜久・中井達郎・長谷川均・高橋そよ、2016. 沖縄地理（16）1-18.			高橋

	平成26-27年度	平成28年度	平成29年度
【日本島嶼学会】			
一般講演：「地域課題解決型研究へのアプローチ： Land Grant Universityにおける学際的研究プラットフォーム の形成とトランスレーターの役割」			高橋
【オーストラリア 国際サンゴ礁研究セミナー】			
ポスター発表：「Bio-Geomorphological Evaluation of the Depression “Katama” Located in the Reef Edge as a Fishery Ground」			高橋
【九州大学基盤（S）浅海底プロジェクト研究セミナー】			
一般講演：「石垣島新川漁師の複合的生業論＜序＞ サンゴ礁地形を利用した網漁と民俗知識を中心に」			高橋
【シンポジウム「島々の森と海の暮らし：人と自然がつむぐ生物 文化多様性」】			
招待講演：「文化・暮らし・人を紡ぐ超学際的研究の可能性」			高橋
第3回人社系フォーラムポスター発表「Land Grant University におけるURAの役割～地域と協働する超 学際的プラットフォームの形成を目指して～」			高橋
【その他】			
沖縄銀行 振興会議（幹部勉強会）での講演（琉球大 学における研究推進）	殿岡		
福岡県農林総合試験場での講演（琉球大学における研 究推進）	殿岡		
（学内）工学部FD研修での講演（URAによるプレアワー ド支援）	殿岡		
JATAFF アグリ技術シーズセミナー in 沖縄での講演 （ICT活用農業）			殿岡
バイオセンター企業支援セミナーでの講演（天然物化学の シーズ）			殿岡
【兼業】			
宮古島市教育委員会市史編纂委員（平成26年度～）	高橋	高橋	高橋
沖縄県「生物多様性おきなわブランド発信事業」委託調査 （平成29年度～）			高橋
E8. URA研修・人材育成			
【med U-net】			
医学系 URA について考えるためのワーキングメンバー	昆		
【RA 協議会】			
第1回大会（信州）参加	高橋		
第2回大会（福井）参加・発表		昆	
第3回大会（徳島）参加			井上、北條

	平成26-27年度	平成28年度	平成29年度
【URA自身のスキルアップ】			
URA業務に関する資料調査			北條
RA協議会初級者向け研修受講	高橋		
【その他】			
URAスキル標準に基づく業績評価 本学URA用のスキルカード作成	殿岡		
URA活動報告書 取りまとめ		殿岡	
医学系URA選考関連			殿岡
E9. 研究推進機構の運営支援			
【研究企画室】			
URAシステム情報収集	昆		
インフラ整備	昆、井上、高橋		
情報共有メモの立ち上げ	昆		
メーリングリストの立ち上げ	昆		
インフラ整備	昆		
年次報告書の検討	昆		
特命研究員、特命教員の採用計画の立案・実施		昆	昆
研究企画室 室員選考内規の検討			殿岡
戦略的ポスト申請書の修正			昆
【研究推進会議】			
会議の事前調整、準備、運営支援	殿岡、昆、井上	昆、井上	昆、井上
科研費「インセンティブ支援」の原案作成	井上		
【研究推進アドバイザー会議】			
運営支援	昆		殿岡、昆
企画調整	高橋		
研究推進機構活動報告書担当箇所について加筆			高橋
【学長リーダーシッププロジェクト】			
かりまたPIと富山特命助教との研究打ち合わせ、研究会企画調整	高橋	高橋	
平成27年度 文部科学省 概算要求プロジェクトによる地域ニーズ調査	殿岡		
平成28年度 地域ニーズ調査結果を基にしたプロジェクトの検討		高橋、昆	
新規プロジェクトの立案		昆	
新規プロジェクトの選定方法検討のための資料作成			昆
現プロジェクトの評価のための資料作成			昆
評価選定委員			昆
評価・選定委員会への研究力に関する資料提供			井上、殿岡
研究力評価指標の検討、とりまとめ			高橋
文系分野候補者の業績収集・整理			高橋

	平成26-27年度	平成28年度	平成29年度
【戦略的研究プロジェクトセンター】			
インフラ整備	昆		
実験室整備	昆、殿岡		
共用機器利用規則の整備	昆、殿岡		
魚類飼育環境の整備	昆		
機器分析センターとの連携	昆		
特命教員からの相談対応	殿岡		
運営委員	昆、殿岡	昆、殿岡	昆、殿岡
【学内公募研究費】			
プロジェクトコードの整備			昆
【研究推進機構および研究企画室の実績報告書】			
とりまとめ・編集作業			昆
【学内研究環境整備費】			
ワーキンググループメンバーとして審査		昆	昆
【監事監査報告書】			
対応（回答）			昆、殿岡、井上
【その他】			
島嶼防災研究センターとの意見交換	殿岡		
機器分析支援センターとの実務連携	殿岡		
他大学からの機器移設に関する相談への対応	殿岡		

4-2 活動カレンダー

2014 年度（平成 26 年度）

2015 年 1 月

- 1（木） 研究推進機構設立

2015 年 2 月

- 1（日） URA2 名着任（昆、井上）
10（火） 第 1 回 研究推進フォーラム「URA キックオフシンポジウム」（昆、井上）
23（月） 平成 26 年度 第 4 回 研究推進会議
24（火） 平成 26 年度 第 1 回 研究企画室ランチミーティング
25（水） 亜熱帯島嶼科学拠点研究棟改修打合せ／研究不正防止打合せ
26（木） 第 2 回 研究企画室ランチミーティング

2015 年 3 月

- 2（月） 医学系 URA ワーキング（学外委員会）（東京）（昆）
3（火） 第 3 回 研究企画室ランチミーティング
4（水） 研究推進会議事前打合せ（昆、井上）
10（火） 研究推進会議事前打合せ（昆、井上）／第 4 回 研究企画室ランチミーティング
11（水） RA 協議会設立総会（東京）（井上）
20（金） 平成 28 年度 概算要求学内ヒアリング 陪席（井上）／第 5 回 研究企画室ランチミーティング
23（月） 第 3 期中期目標・中期計画打合せ
26（木） 第 6 回 研究企画室ランチミーティング／第 3 期中期目標・中期計画打合せ
27（金） 第 5 回 研究推進会議

2015 年度（平成 27 年度）

2015 年 4 月

- 1（水） URA2 名着任（殿岡、高橋）／業務打合せ／頭脳循環学内説明会
2（木） 平成 27 年度 第 1 回 研究企画室ランチミーティング
3（金） 第 3 期目標・中期計画打合せ
7（火） 第 2 回 研究企画室ランチミーティング
8（水） 科研費 DC/PD 学内説明会／特別研究員・海外特別研究員学内説明会／URA、IR 及び事務職員の交流会
10（金） 第 3 期中期目標・中期計画プレスト／HP デザイン打合せ／総合企画戦略部歓迎会
13（月） URA リーフレット作成打合せ／第 1 回 教材ワーキンググループ（研究費校正執行教育・研究倫理教育）
14（火） 第 4 回 文部科学省 競争的研究費改革に関する検討会 陪席（東京）（昆）
15（水） 研究推進機構、戦略的研究プロジェクトセンター、研究企画室 HP 立ち上げに関する打合せ／URA リーフレット作成打合せ
16（木） 第 3 回 研究企画室ランチミーティング／第 1 回 URA 勉強会／熱帯生物圏研究センター会議参加／風樹館訪問／第 3 期中期目標・中期計画策定担当者 SD セミナー
17（金） 島嶼防災研究センター長情報交換／第 3 期中期目標・中期計画プレスト
20（月） 平成 27 年度 第 1 回 室長・副室長会議／研究活動スタートアップ申請支援開始
21（火） 戦略的研究プロジェクトセンター支援業務打合せ／学長リーダーシッププロジェクト支援業務打合せ
22（水） 平成 28 年度概算要求打合せ

- 23 (木) 第4回 研究企画室ランチミーティング／第3期中期目標・中期計画プレスト／広報室打合せ／第2回 URA 勉強会
- 24 (木) 平成28年度概算要求プレスト
- 27 (月) 研究広報シンポジウム(北海道) (昆)
- 28 (火) 第5回 研究企画室ランチミーティング／第2回 研究費校正執行教育・研究倫理教育教材ワーキンググループ／研究広報シンポジウム2日目(北海道) (昆)
- 30 (木) 第6回 研究企画室ランチミーティング／第1回 広報戦略タスクフォース

2015年5月

- 1 (金) 戦略的研究プロジェクトセンター運営会議
- 7 (木) 第7回 研究企画室ランチミーティング
- 8 (金) 第8回 研究企画室ランチミーティング／医学部総務課研究支援担当訪問
- 9 (土) 総合科学技術イノベーション会議 原山議員来学対応
- 12 (火) 第9回 研究企画室ランチミーティング／戦略的研究プロジェクトセンター運営準備委員会／科研費再チャレンジ企画(個別相談編)受付開始
- 13 (水) 再チャレンジ科研費ワークショップ開催
- 14 (木) 第10回 研究企画室ランチミーティング／トムソン・ロイター講習会(東京) (昆)／ABS講習会(東京) (井上)
- 15 (金) 科研費アドバイザー制度に関する意見交換／平成28年度概算要求に関する打合せ
- 18 (月) 第2回 室長副室長会議／第3期中期目標・中期計画プレスト
- 19 (火) 第11回 研究企画室ランチミーティング／平成27年度 第1回 研究推進会議／研究推進会議メンバー懇親会
- 21 (木) 第12回 研究企画室ランチミーティング／安全保障輸出管理打合せ
- 25 (月) 日本学術振興会国際シンポジウム(東京) (高橋)
- 26 (火) 第13回 研究企画室ランチミーティング／平成28年度概算要求打合せ
- 27 (水) 第2回 広報戦略タスクフォース(昆)／安全保障輸出管理工学部説明会
- 28 (木) 第14回 研究企画室ランチミーティング／第3回 研究企画室勉強会
- 29 (金) 第2回 研究推進フォーラム「中期計画達成プロジェクト報告会」

2015年6月

- 1 (月) トムソンロイターシンポジウム(東京) (昆)／URA訪問PIインタビュー(高橋)
- 2 (火) 第15回 研究企画室ランチミーティング／URA訪問PIインタビュー(殿岡)
- 3 (水) 亜熱帯島嶼科学拠点研究棟 共通機器確認
- 4 (木) 第7回 文部科学省 競争的研究費改革に関する検討会(東京) (船木)
- 5 (金) URA訪問PIインタビュー(昆、殿岡、船木)
- 8 (月) 第3回 室長副室長会議／第3回 研究費公正執行教育・教育倫理教育教材作成ワーキンググループ
- 9 (火) 第3期中期目標・中期計画プレスト／平成28年度概算要求プレスト
- 10 (水) 第8回 文部科学省 競争的研究費改革に関する検討会(東京) (昆)／URA訪問PIインタビュー(殿岡、井上、高橋)
- 11 (木) 第16回 研究企画室ランチミーティング／第3期中期目標・中期計画プレスト／平成28年度概算要求プレスト
- 12 (金) 第2回 研究推進会議／新研究企画室設計打合せ／JST マッチングプランナープログラム説明会
- 15 (月) 第4回 室長副室長会議／URA訪問PIインタビュー(昆、高橋)／琉球新報社イベント告知訪問(殿岡)
- 16 (火) 第17回 研究企画室ランチミーティング／安全保障輸出管理打合せ(昆)／医学部長とURAとの意見交換会(殿岡、高橋)／国立自然史博物館設立を目指すシンポジウム委員会

- 18 (木) 第 18 回 研究企画室ランチミーティング／ABS 講習会 (東京) (昆)／第 3 期中期目標・中期計画に関する全学フォーラム
- 21 (日) 第 3 回 研究推進フォーラム「学長リーダーシッププロジェクト研究キックオフシンポジウム」
- 22 (月) 第 5 回 室長副室長会議／新研究企画室レイアウト打合せ
- 23 (火) 第 19 回 研究企画室ランチミーティング
- 24 (水) 産学連携学会 (北海道) (殿岡)／安全保障輸出管理説明会 農学部・理学部開催／平成 28 年度概算要求プレスト
- 25 (木) 平成 28 年度概算要求まとめ作業／ABS 意見交換会 (東京) (井上)
- 26 (金) 平成 28 年度概算要求修正作業
- 29 (月) 新研究企画室レイアウト備品最終確認／研究企画室リーフレットデザイン確認
- 30 (火) 第 20 回 研究企画室ランチミーティング／第 4 回 URA 勉強会

2015 年 7 月

- 1 (水) 平成 28 年度概算要求打合せ
- 2 (木) 第 21 回 研究企画室ランチミーティング／地方創生！南日本ネットワーク新技術説明会 (東京) (殿岡)／観光産業科学部学部長学科長評議員懇談
- 3 (金) 第 4 回 広報戦略タスクフォース (昆)
- 7 (火) 医学部総務第一係科研費ワークショップ挨拶
- 8 (水) 美ら島・県・琉大、環境 DNA・生物資源ワークショップ (県庁) (昆)
- 9 (木) 第 22 回 研究企画室ランチミーティング／科研費説明会ワークショップ開催 (千原キャンパス) (台風延期)
- 13 (月) 第 6 回 室長副室長会議／ABS 講習会 (東京) (船木、井上)／平成 28 概算要求プレスト／ABS 学内説明会 (基礎編)
- 14 (火) 第 23 回 研究企画室ランチミーティング／研究助成申請支援 JST マッチングプランナープログラムメット／ABS 学内説明会 (応用編)
- 16 (木) 第 24 回 研究企画室ランチミーティング／安全保障輸出管理説明会受講 (県内) (昆)／科研費説明会ワークショップ (千原キャンパス) 開催
- 17 (金) 平成 28 概算要求最終確認
- 21 (火) 第 25 回 研究企画室ランチミーティング／第 7 回 室長副室長会議／研究推進会議事前打合せ
- 22 (水) 安全保障輸出管理説明会 観光産業学部
- 23 (木) 第 26 回 研究企画室ランチミーティング／第 3 回研究推進会議／科研費説明会ワークショップ (上原キャンパス) 開催
- 26 (日) 第 4 回 研究推進フォーラム開催
- 27 (月) 全学安全保障輸出管理説明会
- 28 (火) 第 27 回 研究企画室ランチミーティング／AMED シンポジウム (東京) (殿岡)／第 5 回 URA 勉強会
- 31 (金) 日本学術会議シンポジウム (東京) (高橋)／第 5 回 広報戦略タスクフォース (昆)

2015 年 8 月

- 3 (月) 第 8 回 室長副室長会議／科研費申請アドバイザーマッチング・URA 個別相談担当割・支援標準スタイル打合せ
- 4 (火) 第 28 回 研究企画室ランチミーティング／地域連携推進課産学連携推進課打合せ (殿岡)／第 5 回 URA 勉強会／科研費支援打合せ
- 5 (水) 蛍光顕微鏡説明 (戦略的研究プロジェクトセンター) (昆)
- 6 (木) 第 29 回 研究企画室ランチミーティング／第 1 回 西原町新渡戸菊プロジェクト会議出席 (西原町) (殿岡)／第 6 回 URA 勉強会
- 7 (金) 機構横断実務者勉強会

- 10 (月) 科研費アドバイザー／URA 支援打合せ
- 11 (火) 第 4 回 研究推進会議
- 12 (水) JSPS 拠点形成事業打合せ (井上)
- 13 (木) 広報戦略打合せ (昆)
- 14 (金) 美ら島と琉大包括連携協定締結式／文部科学省エントランス展示打合せ／内閣府沖縄総合事務局来訪対応
- 18 (火) 機器分析支援センター科研費説明会
- 20 (木) 第 30 回 研究企画室ランチミーティング／沖縄経済同友会事務局長来訪／科研費アドバイザー担当者説明会
- 26 (水) 沖縄イノベーションフォーラム 2015 (沖縄県立博物館) (殿岡)
- 27 (木) イノベーション・ジャパン 2015 (東京) (殿岡)
- 28 (金) 産学官による未来創造対話 (東京) (殿岡)
- 29 (土) 産学連携学会リサーチ・アドミニストレーション勉強会 (東京工業大学) (殿岡)
- 31 (月) RA 協議会 (信州大学) (高橋)

2015 年 9 月

- 2 (水) 文部科学省エントランス展示打合せ (昆)
- 3 (木) 第 31 回 研究企画室ランチミーティング／第 7 回 URA 勉強会 (トムソン・ロイター担当者来室)／沖縄銀行常務来訪対応
- 7 (月) 「九州地区 MEXT + JSPS 主催科研費説明会」(北九州市立大学) (井上)
- 8 (火) 第 32 回 研究企画室ランチミーティング／第 9 回 室長副室長会議
- 9 (水) JSPS 招聘科研費説明会
- 10 (木) 第 8 回 URA 勉強会
- 11 (金) 産学官連携推進機構定例会議 (殿岡)
- 12 (土) 亜熱帯島嶼科学拠点研究棟 3 階会議室から新装 1 階へ引越し
- 14 (月) 移転：新研究企画室スタート／第 10 回 室長副室長会議／美ら島・地域連携打合せ (昆)／自家発電機設置 (戦略的研究プロジェクトセンター) (昆)／第 2 回 西原町新渡戸菊プロジェクト (西原町) (殿岡)
- 15 (火) 国際沖縄研究所拠点化打合せ (高橋)
- 16 (水) 広報撮影協力打合せ (昆)
- 17 (木) 第 33 回 研究企画室ランチミーティング (風樹館佐々木職員)／海底資源と海洋問題・防災に関する講演会
- 24 (木) 第 34 回 研究企画室ランチミーティング／科研費一次分析打合せ (井上)
- 25 (金) 第 3 期中期目標・中期計画プロジェクトシート作成プレスト
- 28 (月) 第 10 回 室長副室長会議
- 29 (火) 第 35 回 研究企画室ランチミーティング／第 5 回 研究推進会議
- 30 (水) 日独国際シンポジウム「研究校正を高める取組について」(東京) (昆)

2015 年 10 月

- 1 (木) 大学 HP リニューアル業者プレゼン (昆)／記者会見：気象レーダーが捉えた平成 27 年度台風 15 号の急発達と暴風 (理学部長室) (殿岡)
- 2 (金) 日米クリーンエネルギー技術協力打合せ (殿岡、昆)／自然史博物館シンポジウム打合せ (昆)
- 5 (月) 第 11 回 室長副室長会議／沖縄経営者協会事務局長来学対応／JST 福岡オフィス担当者来学対応
- 6 (火) 第 36 回研究企画室ランチミーティング
- 7 (水) 共用研究機器の管理運用等に関する意見交換会 (殿岡、昆)
- 8 (木) 研究公正ワーキンググループ (昆、井上)

- 9 (金) 第3期中期目標・中期計画プロジェクトシート作成プレスト／産学官連携推進機構定例会議
- 13 (火) 第37回 研究企画室ランチミーティング／博物館データベース調査打合せ（高橋）／広報戦略打合せ（昆）
- 14 (水) Bio Japan 2015 参加（横浜）（殿岡）／戦略的研究プロジェクトセンター運営体制打合せ（昆）
- 15 (木) 第38回 研究企画室ランチミーティング／第3期中期目標・中期計画プロジェクトシート作成プレスト
- 16 (金) 防災システム説明：亜熱帯島嶼科学拠点研究棟（昆）／美ら島財団プロジェクト打合せ（本部町）（昆）／新渡戸菊キックオフシンポジウム（西原町）（殿岡）
- 19 (月) 第12回 室長副室長会議／第6回 研究推進会議／沖縄銀行技術相談打合せ（殿岡）
- 20 (火) 第39回 研究企画室ランチミーティング／科研費セミナー（東京）（井上）／MiSeq デモシーケンシング（戦略的研究プロジェクトセンター）（昆）
- 21 (水) 高大接続講演会
- 22 (木) 第40回 研究企画室ランチミーティング／沖縄県科学技術振興課 来学対応
- 23 (金) 第3期中期目標・中期計画プロジェクトシート作成プレスト／国際沖縄研究所拠点化打合せ（高橋）
- 26 (月) 第3期中期目標・中期計画プレスト（ジェンダー推進室）（高橋）
- 28 (水) セルソーター説明会（戦略的研究プロジェクトセンター）（昆）
- 29 (木) 第41回 研究企画室ランチミーティング／第3期中期目標・中期計画プロジェクトシート作成プレスト／沖縄経済同友会事務局長 来学対応
- 30 (金) トムソン・ロイター-InCites ユーザー会（昆、井上）

2015年11月

-
- 2 (月) 第13回 室長副室長会議／環境 DNA プロジェクトプレゼン（沖縄県庁）（昆）
 - 4 (水) 医学系 URA について考えるワーキンググループ（東京）（昆）／大学のイノベーション経営システム確立推進フォーラム（東京）（殿岡）／科研費申請最終学内提出メット
 - 5 (木) 第42回 研究企画室ランチミーティング／第3期中期目標・中期計画プロジェクトシート作成プレスト／滋賀大学学術国際課長 来学対応
 - 6 (金) 研究不正対応ワーキンググループ（昆）／研究広報打合せ（昆）／イメージングシステム説明会（戦略的研究プロジェクトセンター）
 - 9 (月) 研究倫理セミナー
 - 10 (火) 第43回 研究企画室ランチミーティング
 - 11 (水) 公募情報検索システム打合せ／共用研究機器の管理運用等に関する意見交換会
 - 12 (木) 第44回 研究企画室ランチミーティング
 - 13 (金) サイエンスアゴラ（東京）（昆）／産学官連携推進機構定例会議／第3期中期目標・中期計画プロジェクトシート作成プレスト
 - 14 (土) 国立自然史博物館シンポジウム（昆）
 - 16 (月) 第14回 室長副室長会議
 - 17 (火) 第45回 研究企画室ランチミーティング／第7回 研究推進会議
 - 18 (水) 経産省地域政策研究官による勉強会（沖縄総合事務局）（殿岡）／国際沖縄研究所拠点化打合せ（高橋）／セルソーター説明会（戦略的研究プロジェクトセンター）（昆）
 - 19 (木) 第46回 研究企画室ランチミーティング／アグリビジネス創出フェア2015（東京）（殿岡）／自家発電稼働確認（戦略的研究プロジェクトセンター）（昆）／沖縄琉球放送訪問（昆）／BluePippin（核酸泳動分取装置）取扱説明会（戦略的研究プロジェクトセンター）（昆）
 - 20 (金) 研究推進機構・研究企画室 HP 英語ページ検討開始
 - 24 (火) 第15回 室長副室長会議／URA 昼食会
 - 25 (水) GRIPS 大学ベンチマーキングセミナー（東京）（昆）／第3期中期目標・中期計画プロジェクトシート最終まとめ
 - 26 (木) ABS 海洋遺伝資源ワークショップ（東京）（井上）

- 27 (金) 研究公正シンポジウム (東京) (昆)
- 30 (月) 名護市まるとビジネスマッチング (名護市) (殿岡) / AMED 公募説明会 (東京) (昆)

2015 年 12 月

- 1 (火) 第 47 回 研究企画室ランチミーティング / 第 15 回 室長副室長会議 / 沖縄ベンチャーマーケット (那覇市) (殿岡)
- 2 (水) 学内シーズ調査打ち合わせ (人文社会科学系) (高橋) / 研究推進機構・研究企画室看板設置検討開始
- 3 (木) URA シンポジウム (電気通信大学) (井上)
- 4 (金) 財務部長ほか 7 名戦略的研究プロジェクトセンター実験室見学 / 地域ニーズ調査打ち合わせ (経営戦略課、IR 推進室、法文学部) (高橋)
- 7 (月) アクアマリンふくしま職員 来学対応
- 8 (火) 第 48 回 研究企画室ランチミーティング / NISTEP 政策レビューシンポジウム (東京) (井上) / 第 3 期中期目標・中期計画プロジェクトシート最終まとめ / 戦略的研究センター打ち合わせ (昆)
- 9 (水) 研究広報風樹館ビオトープ受賞取材対応 (高橋) / GRIPS 大学ベンチマーキングセミナー (東京) (昆) / H28 文部科学省科学技術関係概算要求に係る意見交換会 (殿岡) / 地域ニーズ調査打ち合わせ (COC プラス) (高橋) / 九州大 ARO センター 来学対応 (医学部) (殿岡)
- 10 (木) 第 49 回 研究企画室ランチミーティング / 地域ニーズ調査打ち合わせ (経営企画戦略課) (高橋) / 第 3 期中期目標・中期計画プロジェクトシート最終まとめ
- 11 (金) 産学官連携推進機構定例会議 / 大学改革の中の研究支援シンポ (東京) (昆)
- 14 (月) 第 16 回 室長副室長会議 / 戦略的研究プロジェクトセンター運営会議 (殿岡、昆) / JST マッチングプランナー来学 (理事室) (殿岡) / 科研費支援反省会 / 京都目利きシーズ調査 (産学官連携推進課) (井上、高橋)
- 15 (火) 第 50 回 研究企画室ランチミーティング / 第 3 期中期目標・中期計画プロジェクトシート作成最終確認 / ニュースレター打合せ (機器分析支援センター) (昆)
- 16 (水) 地域ニーズ調査打ち合わせ (産学連携推進機構・総合企画戦略部長) (殿岡、高橋、井上)
- 17 (木) 第 51 回 研究企画室ランチミーティング / 沖縄県科学技術振興課来学対応 / 地域ニーズ調査委託矢野経済研究所来学打合せ
- 18 (金) 人文科学とコンピュータシンポジウム (京都) (昆)
- 21 (月) 第 17 回 室長副室長会議 / 地域ニーズ調査プレスト / 沖縄 TLO 平成 28 年度 ライフスタイルイノベーション創出推進事業予告説明会 (殿岡)
- 22 (火) 第 52 回 研究企画室ランチミーティング
- 24 (木) SD 文書作成等講習会 (講師: 船木)
- 25 (金) 先端融合領域イノベーション創出拠点形成プログラムシンポジウム「組織・部局を越えた本格的産学連携拠点形成の秘訣」(東京大学) (井上) / オークランド大学視察打合せ (国際沖縄研究所) (高橋)

2016 年 1 月

- 5 (火) 第 53 回 研究企画室ランチミーティング / 第 18 回 室長副室長会議
- 7 (木) 第 54 回 研究企画室ランチミーティング / アグリ技術シーズセミナー in 沖縄 (沖縄県立博物館) (殿岡)
- 8 (金) 環境省島嶼国ネットワーク打ち合わせ (昆)
- 12 (月) 第 55 回 研究企画室ランチミーティング / 第 19 回 室長副室長会議 / 公募情報 Web インストール作業開始
- 14 (木) 第 56 回 研究企画室ランチミーティング / 戦略的研究プロジェクトセンター特命助教交流会 / 県内機関意見交換会 (県庁) (殿岡) / 第 8 回 研究推進会議
- 15 (金) 産学官連携推進機構定例会議 / 沖縄県振興開発金融公庫懇談会 (殿岡、井上)

- 18 (月) 第 20 回 室長副室長会議／第 2 回 沖縄科学技術ロードマップ委員会 陪席 (那覇市) (昆、井上)
- 19 (火) 第 57 回 研究企画室ランチミーティング
- 21 (木) 東京オフィス下見 (東京) (井上)
- 22 (金) 第 3 期中期目標・中期計画プロジェクトシート作成最終確認
- 25 (月) 第 21 回 室長副室長会議／研究推進アドバイザー会議開催
- 27 (水) COC+キックオフシンポジウム (宜野湾市) (高橋)
- 28 (木) 第 58 回 研究企画室ランチミーティング
- 29 (金) 島嶼国研究者ネットワーク会議打合せ (昆)

2016 年 2 月

- 1 (月) 第 22 回 室長副室長会議／リバネス研究費説明会 (殿岡)
- 2 (火) 第 59 回 研究企画室ランチミーティング／共用システムシンポジウム (北海道大学) (昆)
- 5 (金) 東京オフィス調整 (東京) (井上)
- 7 (日) 沖縄感染症事業 国際シンポジウム (那覇市) (殿岡)
- 8 (月) 第 60 回 研究企画室ランチミーティング／第 22 回 室長副室長会議／
- 9 (火) 第 61 回 研究企画室ランチミーティング／研究力強化ネットワーク岡山大学 URA 来学対応／東京オフィス打合せ
- 10 (水) 沖縄感染症事業評価委員会 (沖縄県庁) (殿岡)／環境省シンポジウム打合せ (昆)／国立自然史博シンポジウム実行委員会 (昆)
- 12 (金) 環境省シンポジウム打合せ (昆)／研究者データベース業者打合せ (殿岡)／沖縄経済同友会事務局局長来室 (殿岡)／OIST セミナー：研究公正の推進に向けて (恩納村) (昆)
- 14 (日) 法文 池田先生 科研費成果シンポジウム (九州国立博物館) 学長随員 (殿岡)
- 15 (月) 農水省シンポジウム (東京) (殿岡)／研究企画室リーフレット英語版検討開始 (昆)／平成 27 年度全学防災訓練／国際沖縄研究所ワークショップ「日本の島嶼文化の多様性と民俗芸能」(高橋)／東京オフィス打合せ／第 9 回 研究推進会議
- 16 (火) 第 62 回 研究企画室ランチミーティング／オミクス解析支援センター打合せ (昆)
- 17 (水) 研究費公正執行セミナー打合せ (昆)／戦略的研究プロジェクトセンター運営会議 (殿岡、昆)／美ら森プロジェクト OIST 打合せ (高橋)
- 18 (木) 沖縄振興開発公庫訪問 (殿岡、井上、高橋)
- 19 (金) 文部科学省エントランス展示打合せ (昆)／安全保障輸出管理打合せ (昆)
- 22 (月) 第 23 回 室長副室長会議／安全保障輸出管理打合せ (昆)
- 23 (火) 第 63 回 研究企画室ランチミーティング／環境省シンポジウム打合せ (昆)
- 24 (水) 沖縄銀行「振興会議」講演 (沖縄銀行本店) (殿岡)
- 26 (金) 輸出管理 DAY for ACADEMIA (東京) (昆)
- 29 (月) 環境省シンポジウム打合せ (昆)

2016 年 3 月

- 1 (火) 第 64 回 研究企画室ランチミーティング／鹿児島大学産学連携支援交流会 (鹿児島) (殿岡)／言語系統樹プロジェクトワークショップ (昆)
- 2 (水) 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所訪問 (東京) (高橋)／沖縄科学技術イノベーション事業 次年度打合せ (殿岡)
- 3 (木) 久米島円卓会議 (久米島) (殿岡)／共用システム事業説明会 (東京：文部科学省) (昆)／CITI 連絡会議 (東京医科歯科大学) (昆)／第 2 期法人評価打合せ (井上)
- 4 (金) 公開ジョイントシンポ「海洋資源メカ沖縄で考えるバイオメテックス」(那覇市) (昆)／電気通信大学 URA 来学対応

- 6 (日) URA シンポジウム「大学の研究経営システムの確立に向けて 経営を担う人材、経営を研究の側面から支える人材の育成確保にどう取り組むか」(東京) (井上)
- 7 (月) 第 24 回 室長副室長会議／共用機器システム打合せ (昆)
- 8 (火) 第 65 回 研究企画室ランチミーティング／科学者の不正行動に関する研究会 (東京) (昆)／オークランド大学視察打ち合わせ (高橋)／INPIT 理事長来学 (TLO 審査会) (殿岡)
- 9 (水) 記者会見：再生医療医学部野口教授 (医学部) (殿岡)／オークランド大学視察打ち合わせ (高橋)
- 10 (木) 第 66 回 研究企画室ランチミーティング／安全保障輸出管理打合せ (昆)
- 11 (金) URA 自己業績評価書提出／宮古島円卓会議 (宮古島市) (昆)／平成 27 年度地域ニーズ調査書納品
- 14 (月) 第 25 回 室長副室長会議／環境省シンポジウム打合せ (昆)／共用機器システム打合せ (昆)／第 2 期法人評価コメント打合せ (井上、高橋)／業績評価面談 (殿岡)
- 15 (火) 第 67 回 研究企画室ランチミーティング／業績評価面談 (昆、井上、高橋)／第 10 回 研究推進会議／ISNTD Bites-London (イギリス) (殿岡)／IR 研究業績説明会等打合せ (井上、高橋)／時空間ゲノミクスプロジェクト打合せ (昆)
- 16 (水) 東京オフィス什器搬入 (東京) (井上)／沖縄科学技術ロードマップ 第 3 回委員会 (那覇市) (昆)
- 17 (木) 第 68 回 研究企画室ランチミーティング／新たな共用システム導入支援プログラム申請 (昆)
- 18 (金) 第 2 回人文・社会科学系研究推進フォーラム (つくば市) (高橋)／環境省シンポジウム打合せ (昆)
- 21 (月) シンポジウム「地方創生に資する日本型イノベーション・エコシステムの構築に向けて」(東京) (昆)
- 22 (火) 第 69 回 研究企画室ランチミーティング／第 26 回室長副室長会議／オークランド大学視察 (ニュージーランド) (高橋)／科学技術ロードマップ改訂 (昆)／研究費公正執行セミナー打ち合わせ
- 23 (水) 船木副室長から山田副室長へ引継ぎ／環境省島嶼国研究者ネットワーク設立会議・島嶼国研究者ネットワーク設立キックオフ会議 (恩納村)／工学部教授会 URA 活動紹介 (殿岡)／九州大学 URA 来室対応 (殿岡)／研究費公正執行教育打合せ (井上)
- 24 (木) 第 70 回 研究企画室ランチミーティング／松浦市との水中遺産事前打合せ (殿岡)
- 25 (金) 研究費公正執行教育全学セミナー (井上)
- 28 (月) 琉球弧の海洋地球環境科学ワークショップ (昆)／共用システム打合せ (昆)
- 29 (火) 第 71 回 研究企画室ランチミーティング／学術会議マスタープラン打合せ (昆)
- 30 (水) 新装附属図書館内覧会
- 31 (木) 第 72 回 研究企画室ランチミーティング／中部大学と工学部研究者との打合せ (殿岡)

2016 年度 (平成 28 年度)

2016 年 4 月

-
- 1 (金) 共用機器システムヒアリング資料提出め切 (昆)
 - 4 (月) 共用機器システム文部科学省ヒアリング (昆)
 - 5 (火) 平成 28 年度 第 1 回 研究企画室ランチミーティング／安全保障輸出管理打合せ (昆)
 - 7 (木) DC,PD,RPD 学内説明会／新任教員 FD 研修／JSPS 研究スタートアップ URA 支援開始
 - 11 (月) 平成 28 年度 第 1 回 室長副室長会議／沖縄電力吉の浦発電所視察 (殿岡)／OIST 富永審議役との情報交換会
 - 12 (火) 第 2 回 研究企画室ランチミーティング／企画経営戦略会議 陪席 (殿岡)
 - 13 (水) 国際沖縄研究所拠点化打合せ (高橋)
 - 14 (木) 第 3 回 研究企画室ランチミーティング
 - 18 (月) 第 2 回 室長副室長会議
 - 19 (火) 第 4 回 研究企画室ランチミーティング／平成 28 年度 第 1 回 研究推進会議

- 20 (水) 共用機器支援事業打合せ (昆) / 文部科学省イノベーション・エコシステム事業ワーキンググループ (殿岡)
- 20 (木) 第 5 回 研究企画室ランチミーティング
- 22 (金) 科研費特別研究員 (RPD) 学内メット／観光産業科学部長訪問 (井上、高橋) / 戦略的研究プロジェクトセンター打合せ (昆)
- 25 (月) 第 3 回 室長副室長会議
- 26 (火) 第 6 回 研究企画室ランチミーティング／科研費審査システム改革 2018 説明会 (東京大学) (井上)

2016 年 5 月

- 10 (火) 第 7 回 研究企画室定例ミーティング
- 11 (水) 共用機器システム事業費決定／科研費再チャレンジワークショップ開催 (千原キャンパス) / 時空間ゲノミクスキックオフセミナー (昆)
- 12 (木) 第 8 回 研究企画室定例ミーティング／蛍光顕微鏡移設作業 & 説明会 (戦略的研究プロジェクトセンター) (昆)
- 16 (月) 第 4 回 室長副室長会議
- 17 (火) 第 9 回 研究企画室定例ミーティング／企画経営戦略会議 陪席 (殿岡)
- 19 (木) 第 10 回 研究企画室定例ミーティング／地域課題解決型研究費公募説明会開催 (千原キャンパス) / レーザーマイクロダイセクション説明会 支援 (昆) / 化学物質・廃液講習会 (昆)
- 20 (金) 第 2 回 研究推進会議／科研費特別研究員 (DC・PD) 学内メット／レーザーマイクロダイセクション説明会 支援 (昆) / 国際沖縄研究所拠点化申請意見交換会 (高橋) / 産学官連携部門定例会議
- 21 (土) 地球研：研究会議 (文化多様性プロジェクト) (高橋)
- 23 (月) 沖縄経済同友会事務局長 来室対応
- 24 (火) 第 11 回 研究企画室定例ミーティング
- 25 (水) Web of Science データ説明会・統計数理研究所公募キックシンポジウム (東京) (井上、昆)
- 26 (木) 第 12 回 研究企画室定例ミーティング／時空間ゲノミクスプロジェクト教員選考委員会
- 27 (金) 熱帯生物圏研究センター西表研究施設大学院生募集説明会 支援 (亜熱帯島嶼科学拠点研究棟)
- 31 (火) 第 13 回 研究企画室定例ミーティング

2016 年 6 月

- 1 (水) 国立科学博物館訪問 (東京) (昆)
- 2 (木) 第 14 回 研究企画室定例ミーティング
- 3 (金) トムソン・ロイター第 4 回学術シンポジウム (大阪) (昆)
- 7 (火) 戦略的研究プロジェクトセンター (共用機器システム担当) 青山特命助教着任／新共用システム打合せ
- 8 (水) 名護市商工会訪問 (名護市) (殿岡)
- 9 (木) 第 15 回 研究企画室定例ミーティング
- 10 (金) 国際沖縄研究所拠点申請打合せ (高橋) / JST CREST・さきがけ説明会 (東京) (昆) / サイエンスカフェ打合せ (高橋) / 産学官連携部門連絡会 (殿岡)
- 11 (土) 西原町新渡戸菊プロジェクト現地植え付け (西原町) (殿岡)
- 13 (月) 研究費・研究活動不正対応ワーキンググループ (昆) / 安全保障輸出管理打合せ (昆)
- 14 (火) 第 16 回 研究企画室定例ミーティング／第 5 回 室長副室長会議／企画経営戦略会議 陪席 (殿岡) / 文部科学省研究公正説明会 (京都大学) (昆) / 第 1 回水循環研究会 (高橋)
- 16 (木) 第 17 回 研究企画室定例ミーティング／第 2 回 水循環研究会 (高橋)
- 17 (金) 第 3 回 研究推進会議／国際シンポジウム「沖縄における医療分野の研究開発の推進」(宜野湾市) (殿岡)

- 19 (日) 13th International Coral Reef Symposium 2016 (ハワイ) (殿岡)
- 20 (月) 第 6 回 室長副室長会議／文部科学省エントランス西表撮影打合せ (昆)
- 21 (火) 第 18 回 研究企画室定例ミーティング
- 27 (月) 研究推進アドバイザー会議 開催
- 28 (火) 第 19 回 研究企画室定例ミーティング／第 7 回 室長副室長会議
- 29 (水) 国際沖縄研究所拠点化申請ヒアリング (北海道大学) (井上)／サイエンスカフェ開催 (高橋)／琉球大学概要パンフレット打合せ (昆)
- 30 (木) 第 20 回 研究企画室定例ミーティング

2016 年 7 月

- 1 (金) 沖縄農業研究会生産技術セミナー (糸満) (殿岡)
- 4 (月) 第 8 回 室長副室長会議／安全保障輸出管理打合せ (昆)／平成 29 年度概算要求学内説明会 (殿岡)
- 5 (火) 第 21 回 研究企画室定例ミーティング
- 7 (木) 第 22 回 研究企画室定例ミーティング／共用システム打合せ (昆)
- 8 (金) 産学官連携部門連絡会 (殿岡)
- 11 (月) 第 9 回 室長副室長会議／科研費獲得ワークショップ開催 (千原キャンパス)
- 12 (火) 企画経営戦略会議 陪席 (殿岡)／戦略的研究プロジェクトセンター 加藤特命助教 着任
- 14 (木) 医学部総務第一係研究支援打合せ (殿岡)
- 17 (日) 第 3 回 国立自然史博物館シンポジウム in 石垣 (昆)
- 19 (火) 第 23 回 研究企画室定例ミーティング／第 9 回 室長副室長会議／第 5 回 研究推進会議／共用機器初心者講習会 (昆)／国際沖縄研究所拠点化申請打合せ (高橋) (井上)／科研費獲得ワークショップ開催 (上原キャンパス)
- 20 (水) 第 3 回 水循環研究会 (高橋)
- 21 (木) 第 24 回 研究企画室定例ミーティング
- 22 (金) 東京海洋大学訪問 (西田室長)
- 25 (月) 第 10 回 室長副室長会議／広報戦略本部会議 (昆)
- 26 (火) JST 新技術説明会 (東京) (殿岡)／時空間ゲノミクス特命講師打合せ (昆)
- 27 (水) 文部科学省子供霞が関見学デー (東京) (昆)
- 28 (木) 第 25 回 研究企画室定例ミーティング
- 29 (金) 第 1 回 研究環境整備費ワーキンググループ

2016 年 8 月

- 1 (月) 戦略的研究プロジェクトセンター (時空間ゲノミクス) 佐藤特命講師 着任
- 2 (火) 第 26 回 研究企画室定例ミーティング
- 3 (水) 国際沖縄研究所拠点に向けた意見交換会
- 4 (木) 第 27 回 研究企画室定例ミーティング／新共用システム打合せ (昆)
- 5 (金) 科研費説明会 (文系)
- 8 (月) 第 11 回 室長副室長会議
- 10 (火) 第 2 回 研究環境整備費ワーキンググループ
- 12 (水) 科研費説明会 (理系)／産学連携部門定例会議 (殿岡)／国際沖縄研究所拠点化申請支援打合せ
- 14 (日) 沖縄感染症事業子供向けイベント (沖縄県立博物館) (殿岡)
- 15 (月) 科研費説明会 (医学系)
- 17 (水) 環境整備費ワーキンググループ実地調査 (昆)
- 18 (木) 安全保障管理打合せ (昆)
- 22 (月) 沖縄科学イノベーション事業申請メット (沖縄科学技術振興センター)

- 25 (木) 大学評価コンソーシアムシンポジウム (立命館大学) (井上) / イノベーション・ジャパン 2016 (ビッグサイト) (殿岡) / 課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業成果シンポジウム (東京大学) (高橋)
- 27 (土) RA 研究会 (東京工業大学) (井上)
- 29 (月) RA 協議会発表 (統計数理研究所共同利用) 打合せ (井上、昆)
- 30 (火) 第 28 回 研究企画室定例ミーティング / 第 12 回 室長副室長会議 / カルタヘナ法説明会 (文部科学省) (昆)
- 31 (水) RA 協議会シンポジウム (福井) (昆、統数研共同利用研究発表)

2016 年 9 月

- 2 (金) 科研費説明会 (九州大学) (井上)
- 3 (土) 第 2 回 海の環境影響評価懇談会 (東京海洋大学) (高橋)
- 5 (月) 第 29 回 研究企画室定例ミーティング / 第 13 回 室長副室長会議
- 6 (火) 先端研究基盤共用促進事業キックオフシンポジウム (東京) (昆)
- 7 (水) JASIS2016 分析機器・科学機器専門展示会 (幕張メッセ) (昆)
- 8 (木) 第 30 回 研究企画室定例ミーティング
- 9 (金) 第 5 回 研究推進会議
- 12 (月) 第 14 回 室長副室長会議 / インドネシア国際共同研究打合せ (昆)
- 13 (火) 第 31 回 研究企画室定例ミーティング / 企画経営戦略会議 陪席 (昆) / ゲノミクス解析支援チームセミナー
- 14 (水) 沖縄銀行との意見交換会 (殿岡)
- 20 (火) 第 32 回 研究企画室定例ミーティング / 第 15 回 室長副室長会議 / 表彰伝達式 (工学部玉城史朗教授) / とんがり研究 新 PI 委嘱状交付式 (農学部中村真也教授) / 沖縄科学イノベーション事業二次面接審査 (殿岡)
- 21 (水) イノベーションサポーターミーティング / 産学連携セミナー (殿岡)
- 23 (金) 鹿児島大学訪問 (殿岡)
- 26 (月) 第 33 回 研究企画室定例ミーティング / 第 16 回 室長副室長会議 / 文部科学省研究振興局小松局長懇談会
- 28 (水) 国際沖縄研究所拠点化申請打合せ / 新共用機器システム打合せ (昆)
- 29 (木) 第 30 回 研究企画室定例ミーティング / 東京海洋大学設楽 URA 来学対応 (ABS 関連) / 戦略的研究プロジェクトセンター HP 打合せ
- 30 (金) JSPS 招聘科研費説明会 / 農水プラットフォーム@九州・沖縄 (福岡) (殿岡)

2016 年 10 月

- 4 (火) 第 34 回 研究企画室定例ミーティング
- 6 (木) 西原町新渡戸菊プロジェクト会議 (西原町) (殿岡)
- 7 (金) 公募情報検索システム検証 / 沖縄県サンゴ礁保全再生事業成果発表シンポジウム (OIST) (高橋) / 安全保障輸出管理および研究公正教育打合せ (長崎大学河合コーディネーター来室) (昆)
- 11 (火) 第 35 回 研究企画室定例ミーティング / ライフサイエンスセミナー (東京: ベルギー大使館) (殿岡) / 企画経営戦略会議 陪席 (高橋)
- 12 (水) Bio Japan 2016 (横浜) (殿岡) / 鳥取大学生命機能研究支援センター来学対応 (昆)
- 13 (木) 公募検索システム説明相談会 / 新共用機器データベース打合せ (昆)
- 14 (金) レーザーマイクロダイセクション講習会 (昆) / 産学官連携部門連絡会 (殿岡)
- 17 (月) 公募情報検索システム説明会 開催
- 18 (火) 第 36 回 研究企画室定例ミーティング / 広報戦略本部ワーキンググループ (昆)
- 19 (水) 熊本大学共用機器システム見学 (昆)
- 20 (木) 第 37 回 研究企画室定例ミーティング / 地域科学技術実証拠点整備事業打合せ (殿岡)

- 21 (金) プロジェクトシート指標打合せ／文部科学省エントランス展示打合せ (昆) ／新共用機器システム打合せ (昆) ／水循環打合せ (高橋)
- 24 (月) 第 6 回 研究推進会議
- 25 (火) 第 38 回 研究企画室定例ミーティング／西表研究施設訪問 (殿岡)
- 26 (水) エルゼビアシンポジウム「大学・研究機関 (分野別・機能別) の研究力はどのような指標で分析可能か？」 (東京) 井上／共通教育学内特別授業「大学で何を学ぶのか」東京海洋大学共同企画 (高橋)
- 28 (金) 内閣府沖縄総合事務局農林水産部長訪問 (殿岡)

2016 年 11 月

-
- 1 (火) 第 39 回 研究企画室定例ミーティング／第 17 回 室長副室長会議
 - 4 (金) サイエンスアゴラ (東京) 昆／公募情報検索システム説明会 開催 (井上、高橋) ／AMED 地域連携会議 (殿岡)
 - 7 (月) 第 18 回 室長副室長会議
 - 8 (火) 第 40 回 研究企画室定例ミーティング／企画経営戦略会議 陪席 (殿岡) ／文部科学省エントランス展示打合せ (昆)
 - 9 (水) 名護市役所農水畜産課訪問 (名護市) (殿岡) ／沖縄環境科学センター 来室対応／文部科学省エントランス打合せ (広報室) (昆) ／環境 DNA プロジェクト調査準備 (昆)
 - 10 (木) 第 41 回 研究企画室定例ミーティング／動物考古学講演会 (西原町) (昆)
 - 11 (金) 第 8 回 九州・沖縄アイランド女性研究者シンポジウム (高橋) ／沖縄科学技術大学院大学コーディネーター 来室対応 (殿岡) ／産学官連携部門連絡会 (殿岡)
 - 14 (月) 第 19 回 室長副室長会議／環境 DNA プロジェクト打合せ (戦略的研究プロジェクトセンター) (昆) ／国際沖縄研究所拠点化意見交換会 (高橋、井上)
 - 15 (火) 第 42 回 研究企画室定例ミーティング／多良間村長意見交換会学生ワークショップ (多良間島) (高橋)
 - 16 (水) 沖縄コンベンションビューロー東京事務所担当者 来室対応 (昆) ／文部科学省エントランス展示打合せ (昆) ／OIST 審議役 来室対応 (昆) ／招聘講演：富山大学極東地域研究センター限界集落ワークショップフィールドサイエンスと地域創成 (富山) (高橋)
 - 17 (木) 第 43 回 研究企画室定例ミーティング／信州大学安全保障輸出監理室訪問 (長野) (昆)
 - 18 (金) InCites ユーザー会 (東京) (井上)
 - 21 (月) 第 20 回 室長副室長会議／第 7 回 研究推進会議／人社系 URA 勉強会フォーラム打合せ (京都大学) (高橋)
 - 22 (火) 第 44 回 研究企画室定例ミーティング
 - 24 (木) 第 45 回 研究企画室定例ミーティング／日本計算機統計学会 第 30 回シンポジウム (静岡) (昆)
 - 25 (金) 沖縄科学技術振興ロードマップ推進会議 (沖縄県庁) (殿岡)
 - 28 (月) 第 21 回 室長副室長会議／OIST マリンサイエンスシンポジウム打合せ (殿岡)
 - 29 (火) JSPS 研究倫理シンポジウム (井上) ／大学等向け安全保障貿易管理説明会 (名古屋) (昆)

2016 年 12 月

-
- 1 (木) 第 46 回 研究企画室定例ミーティング
 - 5 (月) 第 22 回 室長副室長会議／多良間島ワークショップ (多良間島) (高橋)
 - 6 (火) 研究推進フォーラム開催
 - 7 (水) 新共用システム打合せ (昆) ／西原町新渡戸菊プロジェクト会議 (西原町) (殿岡)
 - 8 (木) 第 47 回 研究企画室定例ミーティング (湿地センター主事 来室対応) ／水循環プロジェクト打合せ (高橋)
 - 9 (金) 人文科学とコンピュータシンポジウム「じんもんこん 2016」 (東京) (高橋) ／セルソーター説明会 (戦略的研究プロジェクトセンター) ／産学官連携部門連絡会 (殿岡)
 - 12 (月) 第 23 回 室長副室長会議／環境 DNA プロジェクト打合せ (昆)

- 13 (火) 第 48 回 研究企画室定例ミーティング／企画経営戦略会議 陪席 (殿岡) ／環境 DNA ワークショップ (千葉中央博) (昆)
- 14 (水) 橋渡し研究戦略的推進プログラムシーズ A・B・C 公募説明会 (殿岡)
- 15 (木) 第 49 回 研究企画室定例ミーティング (附属図書館課長 来室対応) ／アグリビジネス創出フェア (東京) (殿岡) ／霞が関夏休み子ども見学デー打合せ (高橋)
- 16 (金) OIST マリンサイエンスワークショップ (恩納村) (昆、高橋)
- 19 (月) 第 24 回 室長副室長会議／研究基盤センター概算要求打合せ／霞が関見学デー打合せ (昆) ／第 2 回 多良間島ワークショップ&多良間村役場水循環プロジェクト意見交換会 (高橋)
- 20 (火) 第 50 回 研究企画室定例ミーティング／新聞取材対応 (殿岡)
- 21 (水) 新共用システム中間報告資料作成 (昆) ／喜如嘉芭蕉布県ものづくり振興課 OIST 打合せ (沖縄県庁) (殿岡)
- 22 (木) 第 51 回 研究企画室定例ミーティング (風樹館職員 来室) ／水循環プロジェクト打合せ (高橋、昆)
- 26 (月) 新共用システム打合せ (昆)
- 27 (火) 招聘出張：東京海洋大学 SIP セミナー「海の影響評価懇談会」(東京) (高橋)

2017 年 1 月

- 4 (水) 人社系フォーラム打合せ (高橋)
- 5 (木) 第 52 回 研究企画室定例ミーティング／新共用システム運営会議 (昆)
- 6 (金) ESNAP 環境省シンポ打ち合わせ (昆)
- 10 (火) 第 25 回 室長副室長会議／第 89 回 琉大 21 世紀フォーラム「国連と持続可能な開発」(高橋) ／企画経営戦略会議 陪席 (殿岡)
- 11 (水) 研究基盤センターとのランチ交流会、共用機器管理委員会 (西田、昆) ／水循環研究打合せ (高橋)
- 12 (木) 第 53 回 研究企画室定例ミーティング／新共用システム事業計画書め切提出 (昆)
- 13 (金) 産学官連携部門連絡会 (殿岡)
- 16 (月) 日本学術会議九州・沖縄地区会議主催学術講演会「琉球列島-その自然の豊かさ」(那覇市) (昆、高橋)
- 17 (火) 第 54 回 研究企画室定例ミーティング／第 1 回 先端医学研究センタータスクフォース (殿岡、昆)
- 18 (水) ABI 3130xl シーケンサー説明会 (戦略的研究プロジェクトセンター) (昆) ／沖縄イノベーション事業中間報告会 (医学部) (殿岡)
- 19 (木) 第 55 回 研究企画室定例ミーティング／水循環打合せ (浦添市) (高橋) ／第 2 回 不正行動研究会 (東京) (昆)
- 22 (日) にしはら産業まつり (西原町) (殿岡)
- 23 (月) 第 26 回 室長副室長会議／AMED 知財部来学対応 (殿岡) ／沖縄感染症事業シンポジウム推進委員会 (那覇市) (殿岡)
- 24 (火) 亜熱帯の時空間ゲノミクス研究セミナー (昆)
- 26 (木) 第 3 回設備サポートセンター整備事業シンポジウム／学内研究者沖縄科学振興受賞講演会 (那覇市) (殿岡) ／第 8 回研究推進会議
- 27 (金) 第 3 回 研究倫理教育責任者・関係者連絡会議 (東京) (昆) ／沖縄科学技術振興ロードマップ打合せ (殿岡)
- 30 (月) 国際沖縄研究所拠点化打合せ (高橋) ／環境 DNA および解析サーバー打ち合わせ (昆)
- 31 (火) 第 56 回 研究企画室定例ミーティング／沖縄感染症会議 (医学部) (殿岡) ／ABI3130xl シーケンサー試運転 (昆)

2017 年 2 月

- 1 (水) 地域イノベーション・エコシステム打合せ (殿岡) ／新共用システム面談 (昆)
- 2 (木) 第 57 回 研究企画室定例ミーティング／第 2 回 先端医学研究センタータスクフォース (殿岡、昆) ／第 11 回 新共用システム運営委員会 (昆) ／GRIPS ベンチマーキング (前期) (東京) (井上)

- 3 (金) 農水省プラットフォーム@九州・沖縄研究会 (那覇市) (殿岡) / 観光科学産業部長面談 (高橋)
- 6 (月) 環境省 ABS 説明会 (東京) (昆) / 喜如嘉芭蕉布事業協同組合訪問 (大宜味村) (殿岡)
- 7 (火) 第 58 回 研究企画室定例ミーティング / 中城村役場訪問共同研究打合せ (中城村) (殿岡)
- 8 (水) 水循環打合せ (高橋)
- 9 (木) 第 59 回 研究企画室定例ミーティング / 沖縄イノベーション申請ヒアリング (殿岡)
- 10 (金) 名古屋議定書実施に向けた意見交換会 (東京) (昆) / 統数研成果発表会 (東京) (井上) (昆)
- 13 (月) OIST 審議役 来室対応 (殿岡) (昆) / 第 2 回 沖縄科学技術振興ロードマップ推進会議 (沖縄県庁) (殿岡) / ESNAP 打ち合わせ (昆)
- 14 (火) 第 60 回 研究企画室定例ミーティング / 第 27 回 室長副室長会議 / 企画経営戦略会議 陪席 (殿岡) / 沖縄県主催 世界自然遺産フォーラム (那覇市) (高橋)
- 15 (水) GRIPS ベンチマーキング (後期) (井上) / 第 3 回 琉球大学・松浦市鷹島神崎遺跡発掘調査連携協議会 (長崎) (殿岡) / 実体顕微鏡搬入・説明会 (昆) / Japan Bio design セミナーワークショップ「イノベーションは学べる」 (高橋)
- 16 (木) 高精度 3D プリンタ事例紹介・サンプル展示会 (昆)
- 17 (金) 九州工業大学 IRer 来学対応 (井上) / 水循環プロジェクト打合せ (沖縄県庁) (高橋) / 第 3 回 水産海洋イノベーションコンソーシアム・フォーラム (東京海洋大学) (昆) / 地域フォーラム: 産学官連携による共同研究強化のためのガイドライン (殿岡、高橋)
- 18 (土) 国際沖縄研究所シンポジウム (那覇市) (高橋)
- 20 (月) 地域イノベーション・エコシステム打合せ (殿岡) / 広報室打合せ (昆)
- 21 (火) 大阪医大教員 来学対応 (共用機器・解析サーバー) (昆) / 西原町新渡戸菊プロジェクト会議 (西原町) (殿岡)
- 22 (水) JST 目利き人材研修 (研究支援制度説明) (東京) (井上) / 農水省植物遺伝資源の利用促進ワークショップ (東京) (殿岡) / RNA-Seq 系統解析 公開デモ・セミナー開催 (昆)
- 23 (火) 感染症セミナー (殿岡)
- 24 (水) 第 61 回 研究企画室定例ミーティング / ジェンダー協働推進室による科研費セミナー (高橋) / 戦略プロジェクト研究会 (水循環ワークショップ) (高橋) / JST 未来社会創造事業打合せ (井上)
- 27 (月) 第 28 回 室長副室長会議 / 琉大 21 世紀フォーラム (西原町) / ABS 情報交換会 (中央水産研究所) (昆)
- 28 (火) 第 62 回 研究企画室定例ミーティング / 第 9 回 研究推進会議 / 輸出管理 DAY for Academia (東京) (昆)

2017 年 3 月

-
- 1 (水) 第 3 回 人社系フォーラム事前打合せ (高橋、昆、井上) / 地域イノベーション・エコシステム打合せ (殿岡)
 - 2 (木) 第 63 回 研究企画室定例ミーティング / 先端医学研究センタータスクフォース (殿岡、昆) / 第 12 回 新共用システム運営委員会 (昆) / 時空間ゲノミクス・シンポジウム (昆)
 - 3 (金) 第 3 回 人社系フォーラム主催
 - 5 (日) RISTEX「持続可能な多世代共創社会のデザイン」研究開発領域シンポジウム (東京) (高橋)
 - 6 (月) 第 29 回 室長副室長会議 / 安全保障輸出管理打合せ (昆)
 - 7 (火) 第 64 回 研究企画室定例ミーティング / 新共用システムの JST 現地調査対応 (昆) / 農学部教授会での競争的研究資金公募情報検索システム説明会 (井上) / 革新エコモルフロジー・シンポジウム (昆)
 - 8 (水) 国際沖縄研究所拠点化に向けたワークショップ / おきなわマリンサイエンスネットワーク意見交換会 (昆)
 - 9 (木) 鹿児島大学懇親会 (那覇市) (殿岡)
 - 10 (金) 新興感染症シンポジウム (東京) (殿岡) / 先端医療実用化推進事業シンポジウム (那覇市) (昆)
 - 11 (土) 学長リーダーシップ PI シンポジウム「ゲノムと言語と文化からみた琉球列島への人の移動」 (那覇市) (昆、高橋)

- 13 (月) 第 30 回 室長副室長会議／学長リーダーシップ PI 国際シンポジウム Biodiversity Conservation: bridging ecological detectives and spatial prioritization scheme (那覇市) (高橋、井上、昆)
- 14 (火) 企画経営戦略会議 陪席 (殿岡)／亜熱帯島嶼科学拠点研究棟運営打合せ (昆)
- 15 (水) URA 自己評価・研究推進機構長個別面談／琉球大学附属病院院長面談 (殿岡)／国際沖縄研究所附属図書館デジタルアーカイブ打合せ (高橋)
- 16 (木) 第 65 回 研究企画室定例ミーティング／水循環プロジェクト宮古・多良間島ワークショップ (多良間村) 高橋／JST マネジメントプロデューサー産学連携部門面談 (来室対応) (殿岡)／安全保障輸出管理打合せ (昆)
- 17 (金) 産学官連携部門連絡会 (殿岡)
- 20 (月) ESNAP 環境省シンポジウム (那覇市) (昆)
- 21 (火) 第 66 回 研究企画室定例ミーティング／第 31 回 室長副室長会議
- 22 (水) 第 10 回 研究推進会議／沖縄地域農林水産物等輸出促進協議会 (那覇市) (殿岡)
- 23 (木) 第 67 回 研究企画室定例ミーティング
- 25 (土) URA シンポジウム 大学等の研究力・経営力の向上に向けて (東京) (昆)／国際沖縄研究所海外共同研究打ち合わせおよび学長表敬 (カナリア諸島) (高橋)
- 27 (月) 第 32 回 室長副室長会議
- 28 (火) 第 68 回 研究企画室定例ミーティング／19th International Conference on Tropical Infectious Diseases (シンガポール) (殿岡)
- 30 (木) 特別研究員等説明会／第 13 回 新共用システム打合せ (昆)
- 31 (金) 先端医学研究センター機能強化タスクフォース (昆)

2017 年度 (平成 29 年度)

2017 年 4 月

-
- 4 (火) 平成 29 年度 第 1 回 研究企画室定例ミーティング／沖縄感染症事業定例会議 (うるま市) (殿岡)
 - 5 (水) 水循環プロジェクト打合せ (高橋)
 - 6 (木) 第 2 回 研究企画室定例ミーティング
 - 7 (金) トヨタ自動車常務理事学長 西田理事表敬訪問対応 (殿岡)
 - 10 (月) 環境 DNA プロジェクト定例ミーティング (昆)
 - 11 (火) 企画経営戦略会議 陪席 (殿岡)
 - 13 (木) 第 3 回 研究企画室定例ミーティング
 - 18 (火) 第 4 回 研究企画室定例ミーティング／文部科学省エントランス展示打合せ (昆)／トロピカルテクノプラス 来室対応 (殿岡)
 - 19 (水) 沖縄イノベーションシステム構築事業 (OSTC) 応募申請支援メット (殿岡)／水循環プロジェクト打合せ (高橋)／国立沖縄自然史博物館打合せ (昆)
 - 20 (木) 第 5 回 研究企画室定例ミーティング／美ら森プロジェクト打合せ (高橋)／医学部共同研究打合せ (殿岡)／共同研究依頼 OIST 来室対応 (殿岡、昆)
 - 24 (金) 研究広報動画制作開始 (昆)／農学部研究者個別発明相談 (殿岡)／広報戦略本部ミーティング (昆)
 - 25 (火) 第 6 回 研究企画室定例ミーティング／沖縄感染症事業定例会議 (殿岡)
 - 26 (水) 産学連携推進係大学発ベンチャー打合せ (殿岡)
 - 27 (木) 第 7 回 研究企画室定例ミーティング／平成 29 年度 第 1 回 新共用システム打合せ (昆)
 - 28 (金) 沖縄県科学技術振興課 来室対応 (殿岡)／沖縄コンベンションビューロー 来室対応 (昆)

2017 年 5 月

-
- 1 (月) 概算要求打合せ (昆)／戦略的研究プロジェクトセンター運営委員会事前打ち合わせ

- 8 (月) 概算要求打合せ (昆) / おきなわマリンサイエンス打合せ (昆) / 環境 DNA プロジェクト定例ミーティング (昆)
- 9 (火) 企画経営戦略会議 陪席 (殿岡)
- 11 (木) 第 8 回 研究企画室定例ミーティング
- 12 (金) 第 1 回 研究推進会議 / 科研費再チャレンジワークショップ主催 (千原キャンパス) / 科研費申請 URA 個別相談開始 / 産学官連携部門連絡会 (殿岡) / 沖縄科学技術振興センター 来室対応 (殿岡) / 文部科学省エントランス展示打合せ (昆)
- 15 (月) 感染症プロジェクトイベント運営委員会 (殿岡)
- 16 (火) 第 9 回 研究企画室定例ミーティング / 産学官金共同研究スタートアップ事業成果報告会 (殿岡)
- 17 (水) 西原町役場 来室対応 (殿岡) / 沖縄産学官協働人材育成円卓会議ワーキンググループ 陪席 (高橋) / 役員等ミーティング 陪席 (昆) / 文部科学省エントランス展示ポスター仮印刷 (昆)
- 18 (木) 第 10 回 研究企画室定例ミーティング / 水循環プロジェクト科学コミュニケーション打合せ (高橋) / 西表研究施設説明会 (亜熱帯島嶼科学拠点研究棟)
- 19 (金) 工学部研究プロジェクト合同会議 (東京オフィス) (井上) / 日本脳炎ウイルス生態学研究会 (北中城村) (殿岡)
- 22 (月) 沖縄開発水産養殖研究センター共同研究打合せ訪問 (殿岡) / 環境 DNA プロジェクト定例ミーティング (昆)
- 23 (火) 第 11 回 研究企画室定例ミーティング / 文部科学省展示動画業者打合せ (昆) / 文部科学省エントランス展示試作印刷 (昆)
- 24 (水) 戦略的研究プロジェクトセンター運営委員会 (殿岡、昆)
- 25 (木) 第 12 回 研究企画室定例ミーティング / 第 2 回 新共用システム打ち合わせ (昆)
- 26 (金) 産学官金セミナー (東京) (殿岡) / 科省エントランスポスター入稿 (昆) / ゲノミクス解析支援チーム公開セミナー (昆)
- 29 (月) 京大 URA 成果公開シンポジウム (京都大学) (井上) / 沖縄イノベーション研究打合せ (医学部) (殿岡) / トヨタ財団研究助成申請打合せ (高橋) / 水循環プロジェクト打合せ (高橋) / 環境 DNA プロジェクト定例ミーティング (昆)
- 30 (火) 第 13 回 研究企画室定例ミーティング / 農学部共用機器実地調査 (昆)
- 31 (水) 沖縄イノベーション事業ヒアリング審査日 / 文部科学省 第 88 回 研究環境基盤部会 傍聴 (東京) (昆) / JSPS 研究打合せ (高橋)

2017 年 6 月

-
- 1 (木) 第 14 回 研究企画室定例ミーティング / 熱帯生物圏研究センター分子生命科学研究施設 共用機器実地調査 (昆) / 水循環プロジェクト打合せ (高橋) / 大学評価・IR マネジメントセンター会議 (井上) / 国立沖縄自然史博物館設立準備委員会 (昆)
 - 5 (月) JST ヒアリング資料提出 / 切 (高橋) / 環境 DNA プロジェクト定例ミーティング (昆)
 - 6 (火) 第 15 回 研究企画室定例ミーティング / 琉大ベンチャー認定会議 (殿岡) / 水循環 JST ヒアリング対策 / 法文学部長意見交換 (高橋、井上) / 沖縄県工業連合会定時総会 (那覇市) (殿岡)
 - 7 (水) 環境 DNA プロジェクト全国一斉調査打ち合わせ (美ら島財団総合研究センター) (昆) / 地域イノベーション・エコシステム学長説明 (殿岡) / 産学官連携部門連絡会 (殿岡) / 軍事研究ワーキング (殿岡、昆)
 - 8 (木) 第 16 回 研究企画室定例ミーティング / 第 1 回 琉球大学 UI 開発仕様策定委員会 (昆) / 第 1 回 文部科学省エントランス動画プレビュー業者打合せ (昆) / 科研費改革説明会 (東京大学) (井上)
 - 9 (金) 水循環プロジェクト: JST 未来共創イノベーション活動支援事業申請ヒアリング日 (東京) (高橋)
 - 10 (土) 日本古生物学会招待講演 (北九州) (昆)
 - 12 (月) 文部科学省エントランス動画修正指示書提出 (昆) / 第 2 回 軍事研究ワーキンググループ (殿岡、昆) / 環境 DNA プロジェクト定例ミーティング (昆)

- 13 (火) 第 17 回 研究企画室定例ミーティング／企画経営戦略会議 陪席（殿岡）／観光産業科学部長意見交換会（高橋、井上）／共用機器利用者セミナー（昆）／熱帯生物圏研究センターの文部科学省でのプレゼン事前打合せ／研究推進会議懇親会
- 14 (水) 第 18 回 研究企画室定例ミーティング／水循環プロジェクト八重瀬町意見交換会（八重瀬町）（高橋）
- 15 (木) 第 19 回 研究企画室定例ミーティング／第 3 回 発明審査委員会（殿岡）
- 16 (金) 沖縄県産業振興公社 来室対応（殿岡）／第 10 回 エルゼビア・ジャパン研究戦略セミナー（東京）（昆）
- 19 (月) 第 2 回 文部科学省エントランス動画業者打合せ（昆）
- 20 (火) 第 20 回 研究企画室定例ミーティング／研究広報セミナー（京都大学）（昆）／西原町新渡戸菊プロジェクト総会（西原町）（殿岡）
- 21 (水) 第 2 回 研究推進会議／医学部倫理審査委員会 陪席（殿岡）／観光産業科学部教授会 FD（科研費関連）（井上、高橋）／第 3 回 軍事研究ワーキンググループ（殿岡、昆）／戦略的研究プロジェクトセンター打合せ（昆）
- 22 (木) 宮古島共同研究視察（殿岡）／水循環プロジェクト打合せ（高橋）
- 23 (金) 第 7 回 ライフサイエンスコンプライアンス研究会 定例会（東京）（昆）
- 26 (月) JST 未来共創イノベーション活動支援事業水循環プロジェクト契約書提出〆切（高橋）／CREST 琉大・美ら島合同全国一斉環境 DNA 調査（昆）／環境 DNA プロジェクト定例ミーティング（昆）
- 27 (火) 第 21 回 研究企画室定例ミーティング／沖縄感染症事業定例会議（殿岡）／文部科学省エントランス動画業者打合せ（昆）
- 28 (水) JST 未来共創イノベーション活動支援事業水循環プロジェクトプレスリリース（高橋）／第 3 回 新共用システム打合せ（昆）／法文学部教授会 FD（科研費関連）（井上、高橋）
- 29 (木) 第 22 回 研究企画室定例ミーティング／第 4 回 軍事研究ワーキンググループ（殿岡）／文部科学省エントランス展示設営（東京）（昆）
- 30 (金) 産学連携とオープンイノベーション（東京）（殿岡）／水循環プロジェクト研究打合せ（高橋）／文部科学省懇談会（昆）

2017 年 7 月

-
- 3 (月) 研究企画室 北條特命講師着任／文部科学省エントランス研究成果展示（8.25 まで）（東京）（昆）／クラウドファンディング打合せ（殿岡）
 - 4 (火) 第 23 回 研究企画室定例ミーティング／水循環プロジェクト研究会（高橋）
 - 5 (水) 科研費獲得ワークショップ主催（千原キャンパス）／産学官連携部門連絡会（殿岡）／安全保障輸出管理面談（昆）
 - 6 (木) 第 24 回 研究企画室定例ミーティング／JST 未来共創イノベーション活動支援事業水循環プロジェクト学長説明（高橋）／JST 事務局学長表敬訪問（水循環プロジェクト）（高橋）
 - 7 (金) 科学者の不正行動に関する研究会（東京）（昆）
 - 10 (月) CREST 琉大・美ら島合同全国一斉環境 DNA 調査（昆）／環境 DNA プロジェクト定例ミーティング（昆）
 - 11 (火) 第 25 回 研究企画室定例ミーティング／企画経営戦略会議 陪席（殿岡）／学長リーダーシップ PI 評価指標打合せ／沖縄科学技術振興ロードマップ推進会議事前打合せ（殿岡）／水循環プロジェクト打合せ（高橋）
 - 12 (水) エコクリーンデー／科研費獲得ワークショップ（上原キャンパス）
 - 13 (木) 第 26 回 研究企画室定例ミーティング／第 4 回 軍事研究ワーキンググループ（殿岡、昆）
 - 18 (火) 第 27 回 研究企画室定例ミーティング／大学発ブランド事業ヒアリング（殿岡）／水循環プロジェクト・キックオフミーティング（高橋）

- 20 (木) 第 28 回 研究企画室定例ミーティング／第 4 回 発明審査委員会（殿岡）／共用機器選定管理委員会（昆）／第 4 回 新共用システム打合せ（昆）
- 21 (金) 広報室取材:URA 座談会（琉球大学 News Letter 2017.vol.22 琉大対談）
- 24 (月) 水循環プロジェクト八重瀬役場意見交換・観測孔視察（高橋）／環境 DNA プロジェクト定例ミーティング（昆）
- 25 (火) 第 29 回 研究企画室定例ミーティング／JST 新技術説明会（東京）（殿岡）
- 26 (水) 工学部教授会 FD（科研費関連）（井上、殿岡）
- 27 (木) 第 30 回 研究企画室定例ミーティング／第 3 回 研究推進会議
- 28 (金) ゲノム解析支援チームセミナー（昆）／国立沖縄工業高等専門学校共同研究打合せ訪問（殿岡）
- 31 (月) 群馬大学研究支援人材育成コンソーシアム 来室対応（殿岡、高橋）

2017 年 8 月

-
- 2 (水) 子ども霞が関見学デー出展対応（東京）（昆）／水循環プロジェクト八重瀬町役場意見交換菊農家ヒアリング（高橋）／沖縄イノベーション事業沖電開発訪問（殿岡）
 - 4 (金) 夏期臨床研究ワークショップ（浦添市）（殿岡）
 - 7 (月) 名古屋議定書国内措置（ABS 指針）に関する説明会（うるま市）（昆）／科研費申請支援アドバイザー担当者ミーティング
 - 8 (火) 第 31 回 研究企画室定例ミーティング
 - 9 (水) 第 1 回 学長リーダーシップ評価選定委員会（昆）／沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業（後期）申請支援メーキング（殿岡）／国立沖縄自然史博物館設立準備委員会（昆）
 - 10 (木) 産学官連携部門連絡会（那覇市）（殿岡）
 - 14 (月) 法文学部科研費申請促進リーフレット作成打合せ（井上）／琉球銀行職員研修セミナー：産学官金連携プレゼン（那覇市）（殿岡）／環境 DNA プロジェクト定例ミーティング（昆）
 - 15 (火) 松浦市協議会事前打合せ（殿岡）／水循環プロジェクトコアメンバー会議（高橋）
 - 18 (金) 国立科学博物館訪問（東京）（井上）／大学評価・IR セミナー（東京）（井上）
 - 21 (月) 環境 DNA プロジェクト定例ミーティング（昆）
 - 22 (火) 感染症事業打合せ（殿岡）
 - 23 (水) 臨時研究企画室ミーティング／戦略的研究プロジェクトセンター特命助教共同研究計画支援（昆）
 - 24 (木) 第 5 回 軍事研究ワーキンググループ（殿岡）／安全保障輸出管理実務者ネットワーク（福岡）（昆）
 - 25 (金) 松浦市水中考古学協議会（福岡）（殿岡）
 - 26 (土) 文部科学省エントランス展示撤収（昆）
 - 28 (月) 環境 DNA プロジェクト定例ミーティング（昆）／第 3 回 RA 協議会（徳島）（井上、北條）
 - 30 (水) 沖縄県企画部 来室対応（高橋）
 - 31 (木) 第 2 回 法文学部研究推進専門委員会 陪席（高橋）／第 6 回 軍事研究ワーキンググループ（殿岡、昆）／水循環プロジェクト打合せ（高橋）

2017 年 9 月

-
- 1 (金) 研究推進機構アドバイザー会議／科研費ガイドブック改定打合せ／日本島嶼学会 2017 ポスター発表（鹿児島）（高橋）
 - 4 (月) 環境 DNA プロジェクト定例ミーティング（昆）
 - 5 (火) 北海道大学医学部 訪問（北海道）（殿岡）
 - 6 (水) 新共用システム打合せ（昆）／産学官連携部門連絡会（殿岡）
 - 7 (木) 第 32 回 研究企画室定例ミーティング／科研費各種説明会（文系：千原キャンパス）研究推進課／JASIS2017（文部科学省共用機器セミナー）（東京）（昆）／水循環プロジェクト（高橋）
 - 8 (金) 沖縄科学技術振興ロードマップ推進会議（沖縄県庁）（殿岡）／科研費説明会（関西学院大学）（井上）

- 11 (月) 医学部科研費各種説明会／第2回 学長リーダーシップ評価選定委員会 (昆)／新共用システム臨時ミーティング (昆)／環境 DNA プロジェクト定例ミーティング (昆)
- 12 (火) 情報・システム研究機構、機構長学長表敬訪問 (井上)／JSPS 招聘科研費各種説明会 (県内説明会) (井上、高橋)／企画経営戦略会議 陪席 (昆)／大学コンソーシアム打合せ (高橋)
- 13 (水) JST 実地調査「新共用システム」(昆)／URA 選考委員会 (殿岡)／法文学部教授会 陪席 (高橋)／Okinawa J-Adviser 来室対応 (殿岡)
- 14 (木) 第33回 研究企画室定例ミーティング／科研費各種説明会 (理系：千原キャンパス)
- 15 (金) 第2回 JINSHA 情報共有会 (早稲田大学) (高橋)／喜如嘉芭蕉布 OIST 共同研究打合せ (恩納村) (殿岡)
- 18 (月) 水循環プロジェクト 宮古島市および多良間村意見交換 (宮古島市、多良間村) (高橋)

- 19 (火) 第34回 研究企画室定例ミーティング／国際沖縄研究所拠点化打合せ (井上)
- 21 (木) 研究広報会場視察：万国津梁館 MICE 内覧会 (昆)／新共用システム臨時ミーティング (昆)
- 25 (月) 第4回 研究推進会議／日本学術会議 ABS シンポジウム (東京) (昆)／第2回 URA 選考委員会 (殿岡)／大学コンソーシアム打合せ
- 26 (火) 第35回 研究企画室定例ミーティング／沖縄感染症事業研究推進委員会 (那覇市) (殿岡)／沖縄コンベンションビューロー 来室対応 (昆)
- 27 (水) 琉大ブランド事業打合せ (殿岡)／科研費キックオフミーティング (昆)／軍事研究 面談 (昆)／沖縄県衛生環境研究所訪問 (うるま市) (殿岡)
- 28 (木) 第36回 研究企画室定例ミーティング／第6回 発明審査委員会 (殿岡)
- 29 (金) 水循環プロジェクト打合せ (高橋)／おきなわマリンサイエンス打合せ (昆)
- 30 (土) IPFC 10 (死チ、10.9 まで) (昆)

2017 年 10 月

-
- 2 (月) 環境 DNA プロジェクト定例ミーティング (昆)
 - 3 (火) 第37回 研究企画室定例ミーティング／沖縄感染症事業蚊のリスクマップ (殿岡)／水循環プロジェクト打合せ (高橋)
 - 4 (水) アグリビジネス創出フェア 2017 (東京) (殿岡)／産学官連携部門連絡会 (殿岡)／国連大学共催シンポジウム沖縄県庁打合せ (高橋)／第3回 学長リーダーシップ評価選定委員会
 - 5 (木) 沖電開発竣工式出席 (山田副室長)／研究者データベース業者デモ
 - 6 (金) 水循環プロジェクトコアメンバー会議 (高橋)／第2回 大学評価 IR マネジメントセンター会議 (井上)／環境再生保全機構打合せ (高橋)
 - 10 (火) 第38回 研究企画室定例ミーティング／企画経営戦略会議 陪席 (殿岡)／URA 面接 (殿岡)
 - 11 (水) Bio Japan 2017 (神奈川) (殿岡)
 - 12 (木) 第39回 研究企画室定例ミーティング／研究環境整備費ワーキンググループ (昆)／共用機器システム運営委員会 (昆)
 - 16 (月) 水循環プロジェクト八重瀬町長表敬訪問 (八重瀬町) (高橋)／環境 DNA プロジェクト定例ミーティング (昆)
 - 17 (火) 第40回 研究企画室定例ミーティング／大学向け安全保障貿易管理説明会 (東京) (昆)／西原町新渡戸菊プロジェクト役員会構成員会 (西原町) (殿岡)／水循環プロジェクト (高橋)
 - 18 (水) 学内研究環境整備費ワーキンググループ (昆)
 - 19 (木) 第41回 研究企画室定例ミーティング／第3回 学長リーダーシップ評価選定委員会 (昆)／産学連携推進係打合せ (殿岡)
 - 20 (金) MiSeq 実験講習 受講 (昆)
 - 23 (月) 国頭村世界自然遺産対策室訪問 (昆)／国際沖縄研究所拠点化申請学長説明 (高橋)

- 24 (火) 第 42 回 研究企画室定例ミーティング／発明審査委員会 (殿岡) ／おきなわマリンサイエンス打合せ (昆)
- 25 (水) 水循環ワークショップ in 八重瀬町 (高橋) ／法学部・および医学部の研究環境整備実地ヒアリング (昆) ／MiSeq 実験講習 受講 (昆) ／水循環プロジェクト JST 事務局長 来室対応 (高橋)
- 26 (木) 第 43 回 研究企画室定例ミーティング／日本政府観光局 (JNTO) 説明会 (昆)
- 27 (金) おきなわマリンサイエンスネットワークシンポジウム開催 (昆)
- 30 (月) 工学部の研究環境整備実地ヒアリング (昆) ／水循環プロジェクト打合せ (高橋) ／環境 DNA プロジェクト定例ミーティング (昆)
- 31 (火) カナダ アルバータ州政府代表 来学対応および研究者情報交換会 (殿岡)

2017 年 11 月

-
- 1 (水) MiSeq 実験講習受講 (昆) ／第 3 回 学内研究環境整備費ワーキンググループ (昆) ／沖縄県成長分野 LP 創出事業産学官連携推進会議 (那覇市) (殿岡)
 - 2 (木) 第 44 回 研究企画室定例ミーティング／第 3 回 共用機器管理委員会 (昆) ／TTP 企業支援セミナー (うるま市) (殿岡) ／第 4 回 学長リーダーシップ評価選定委員会 (昆)
 - 4 (土) 国立沖縄自然史博物館シンポジウム開催 (国頭村) (昆)
 - 6 (月) 第 5 回 研究推進会議
 - 7 (火) 第 45 回 研究企画室定例ミーティング
 - 8 (水) JSPS「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」シンポジウム (大阪大学) (高橋) ／九大 ARO センター 橋渡し研究説明会 (殿岡)
 - 9 (木) 学内海洋研究者連絡会打ち合わせ (昆)
 - 10 (金) 第 46 回 研究企画室定例ミーティング
 - 13 (月) 環境 DNA プロジェクト定例ミーティング (昆)
 - 14 (火) 第 47 回 研究企画室定例ミーティング／企画経営戦略会議 陪席 (殿岡) ／MiSeq 保守点検対応 (昆) ／水循環プロジェクト打合せ (高橋) ／ゲノミクス解析支援チーム公開セミナー
 - 15 (水) 新共用システム：研究機器データベース打合せ (昆)
 - 17 (金) 3130XL シーケンサー保守点検対応 (昆) ／糸芭蕉の生産者育成生産支援検討委員会 (南風原町) (殿岡) ／RETI 出席 (高橋) ／沖縄セルラーオープンラボ共同研究展示 (那覇)
 - 18 (土) RETI 座長 (Island Economy and Its Sustainability) (高橋)
 - 20 (月) 環境 DNA プロジェクト定例ミーティング (昆)
 - 21 (火) 第 48 回 研究企画室定例ミーティング／沖縄感染症事業打合せ (殿岡) ／九州大学来学研究者打合せ (殿岡)
 - 23 (木) サイエンスアゴラ (東京) (高橋)
 - 24 (金) サイエンスアゴラ (東京) (昆)
 - 27 (月) 環境 DNA プロジェクト定例ミーティング (昆)
 - 28 (火) 第 49 回 研究企画室定例ミーティング／セミナー「沖縄で参加型ヘルスケアを考える」(那覇市) (殿岡)
 - 29 (水) アグリ技術シーズセミナー in 沖縄 講演 (那覇市) (殿岡) ／研究公正シンポジウム (東京) (昆)
 - 30 (木) 第 50 回 研究企画室定例ミーティング／発明審査委員会 (殿岡) ／共用機器システム運営委員会 (昆) ／沖縄イノベーション事業会議 (殿岡)

2017 年 12 月

-
- 1 (金) 第 3 回 JINSHA 情報共有会 (TSUKUBA index web 公開記念シンポジウム) (東京) (井上)
 - 3 (日) 情報学研究データポトリ (IDR) ユーザフォーラム (東京) (北條)
 - 4 (月) 第 2 回 水循環ワークショップ (産総研 水文環境図：研究成果を可視化する) 開催 (高橋)
 - 5 (火) 第 51 回 研究企画室定例ミーティング／沖縄イノベーション事業会議 (殿岡) ／琉球大学 SD 研修

- 7 (木) 第 52 回 研究企画室定例ミーティング／風樹館データベース打合せ（北條）／経営戦略課、高橋助教、大学評価 IR マネジメントセンター打合せ（井上）
- 8 (金) “多能工型”研究支援人材育成コンソーシアムシンポジウム 西田室長 基調講演（東京）（西田、殿岡、高橋）
- 11 (月) 環境 DNA プロジェクト定例ミーティング（昆）
- 12 (火) 第 53 回 研究企画室定例ミーティング／企画経営戦略会議 陪席（殿岡）／水循環プロジェクト打合せ（高橋）
- 14 (木) 第 54 回 研究企画室定例ミーティング／SDGs 共催シンポジウム打ち合わせ（高橋）
- 15 (金) 科学者の不正行動研究会（東京）（昆）／住友化学専務学長表敬訪問（殿岡）／附属図書館デジタルアーカイブ研修会（高橋、北條）
- 16 (土) 国際沖縄研究所国際シンポジウム「Community Maintenance in Periphery」企画調整（高橋）
- 18 (月) 第 6 回 研究推進会議／九州地域内大学輸出管理ネットワーク 第 14 回 勉強会（福岡）（昆）
- 19 (火) 第 55 回 研究企画室定例ミーティング／沖縄感染症事業定例会議（殿岡）／水循環プロジェクト打合せ（高橋）
- 20 (水) MiSeq 講習受講（昆）／入試課・グローバル教育推進機構の平成 30 年度大学概要制作相談（殿岡）／風樹館打合せ（高橋）
- 21 (木) 第 56 回 研究企画室定例ミーティング／共用機器システム運営委員会（昆）／沖縄科学技術大学院大学 URA 来室対応／水循環プロジェクト打合せ（高橋）
- 22 (金) OIST 共同記者会見（沖縄県庁記者クラブ）（殿岡）／MiSeq 講習受講（昆）
- 25 (月) 軍事研究ワーキンググループ（殿岡、昆）／沖縄水産高校環境 DNA 研究打合せ（昆）／MiSeq 講習受講（昆）／環境 DNA プロジェクト定例ミーティング（昆）
- 26 (火) 第 57 回 研究企画室定例ミーティング／AMED 知財リエゾン担当者面談（殿岡）／SDGs シンポジウム打合せ（高橋）
- 27 (水) 水循環プロジェクト打合せ（沖縄県環境政策課）（高橋）／琉大ブランド打合せ（殿岡）／エコモルフオロジープロジェクト打ち合わせ（昆）

2018 年 1 月

-
- 9 (火) 第 58 回 研究企画室定例ミーティング
 - 12 (金) 西原町商工会ニトベギクプロジェクト来室打合せ（殿岡）／工学部長室工学部 FD 面談（殿岡・井上）
 - 15 (月) 第 2 回 軍事的安全保障研究の取り扱いにかかる規則検討ワーキンググループ（殿岡）／新共用システム連絡会（東京：JST）（昆）／松浦市との連携協議会学内事前打合せ（殿岡）／沖縄県（SDGs シンポジウム）打合せ（高橋）
 - 16 (火) 第 59 回 研究企画室定例ミーティング／共用機器システム運営委員会（昆）／トピカルテクノプラス来室打合せ（殿岡）沖縄科学技術センター来室打合せ（殿岡）
 - 17 (水) 役員等ミーティング陪席（殿岡・井上）／松浦市連絡協議会（殿岡）
 - 18 (木) クラリベイト・アナリティクスと図書館等の意見交換（殿岡・井上・北條）／統計数理研究所主催：IR 研究集会（井上・昆）
 - 19 (金) SDGs シンポジウム打ち合わせ出張（石垣市，八重山農林高等学校）（高橋）／安全保障貿易管理説明会（沖縄総合事務局）（昆）
 - 22 (月) 学内研究環境整備費関連打合せ（昆）
 - 23 (火) 第 60 回 研究企画室定例ミーティング／発明審査委員会（殿岡）／研究者データベースリニューアルオープンシステム操作説明会（北條）／第 4 回 水産海洋イノベーションコンソーシアムフォーラム（東京海洋大）（昆）
 - 24 (水) ABS セミナー（京都大）（昆）／水循環プロジェクト内閣府総合事務局打合（高橋）／SDGs シンポジウム打合せ（高橋）

- 25 (木) 第7回 研究推進会議／医学部トーマ・クラウド先生 沖縄研究奨励賞授賞式（那覇市）（殿岡）
- 26 (金) 大学評価 IR マネジメントセンター会議（井上）／文科省実態調査来学対応（昆）／沖縄感染症事業最終報告会（うるま市）（殿岡）
- 29 (月)
- 30 (火) 第4回 北海道大学オープンファシリティシンポジウム（北海道大）（昆）
- 31 (水) 公益社団法人 新化学技術推進協会ライフサイエンス技術部会・反応分科会/異分野交流タスクフォース 共催フォーラム「沖縄科学技術推進センターとの交流会／沖縄の産学連携が熱い！ーライフサイエンスを中心にー」講演（殿岡）

2018年2月

- 1 (木) 第61回 研究企画室定例ミーティング／第3回 軍事的安全保障研究の取扱いにかかる規則検討WG（殿岡）／第4回設備サポートセンター整備事業シンポジウム（東京）（昆）
- 2 (金) 東京農工大学施設見学会（設備サポート）（東京農工大学府中キャンパス）（昆）
- 3 (土) 第3回 水循環プロジェクトワークショップ（地球環境学＝問題解決指向のフィールドサイエンス）（高橋）
- 4 (日) 沖縄県・国連大学・琉球大学主催 SDGs シンポジウム「水から考える SDGs×沖縄・島じまの挑戦 2018」（沖縄県立博物館・美術館）（高橋）
- 5 (月) 水循環PJ 外部評価委員会(西田・高橋)／茨城大学 URA 来室対応（殿岡・山田）／奈良先端国際シンポジウム「世界にみる大学強化のための研究推進体制と戦略」（高橋・北條）
- 6 (火) 第62回 研究企画室定例ミーティング／イトバショウの生産者育成生産支援検討委員会（沖縄県工芸産業協働センター）（殿岡）
- 8 (木) 第63回 研究企画室定例ミーティング
- 9 (金) 第4回 軍事的安全保障研究の取扱いにかかる規則検討WG(殿岡)／沖縄科学技術振興ロードマップ推進会議(沖縄県庁)（西田・殿岡）
- 13 (火) 第64回 研究企画室定例ミーティング／企画経営戦略会議陪席（殿岡）
- 15 (木) 第65回 研究企画室定例ミーティング
- 16 (金) 安全保障輸出管理ミーティング（昆）／国際沖縄研究所拠点化打合せ（西田・高橋・井上）
- 19 (月) ジェンダー協働推進室シンポジウム（高橋）
- 20 (火) 第66回 研究企画室定例ミーティング／発明審査委員会（殿岡）／研究推進会議打合せ（昆・井上）
- 22 (木) 第67回 研究企画室定例ミーティング／第5回 軍事的安全保障研究の取扱いにかかる規則検討WG（殿岡・昆）／新共用機器システム運営委員会（昆）／公募情報検索システム連絡会（井上）
- 23 (金) 琉大ニュースレターインタビュー広報室同行（北條）
- 26 (月) 東京藝術大学 URA 来学対応（殿岡・高橋）
- 27 (火) 第68回 研究企画室定例ミーティング／国際沖縄研究所学長面談（高橋・井上）／輸出管理 DAY for ACADEMIA 2018（芝浦工業大学豊洲キャンパス）（昆）／第3回総会・第9回研究会農林水産物の輸出促進研究開発プラットフォーム@九州沖縄（福岡）（殿岡）
- CBD/ABS「デジタル配列情報（DSI）に関わる議論の動向」シンポジウム（東京）（昆）／委託共同研究成果発表シンポジウム（那覇）（殿岡）

2018年3月

- 1 (木) 第69回 研究企画室定例ミーティング／第8回 研究推進会議／国際沖縄研究所打合せ（高橋・井上）
- 2 (金) 時空間ゲミクス第2回公開シンポジウム（学内50周年記念館）（昆）
- 5 (月) インドネシア遺伝資源の取得と利用参加（東京）（昆）／International Funding Agency Seminar（県内 OIST）（高橋）／沖縄県成長分野リーディングプロジェクト会議委員参出席（那覇）（殿岡）

- 6 (火) 平成 29 年度公正研究推進連絡会議参加 (東京) (昆)
- 7 (水) JST 研究開発戦略センターワークショップコメンテーター参加 (東京) (高橋) / 国際沖縄研究所ヒアリング予行演習 (殿岡)
- 8 (木) 第 70 回 研究企画室定例ミーティング / 第 4 回共用機器管理委員会 (昆) / デジタルアーカイブズ学会出席 (東京) (北條)
- 9 (金) 国際沖縄研究所ヒアリングに向けたミーティング (高橋・井上) / 韓国 ABS 打合せ (昆)
- 12 (月) 国際沖縄研究所ヒアリング予行演習 (高橋・井上)
- 13 (火) 企画経営戦略会議 (殿岡) / URA 業績評価面接 (学内: 全 URA) / 水循環プロジェクト会議 (高橋)
- 14 (水) 大学における ABS への取組と対応体制意見交換会参加 (東京) (昆) / 琉大ブランド事業打合せ (殿岡)
- 15 (木) 第 9 期基礎基盤研究部会研究基盤整備・高度化委員会 (第 2 回) 傍聴参加 (文科省) (昆)
- 16 (金) 第 4 回人社系フォーラムポスター発表 (京都大学) (高橋) / 附属図書館相談来室対応 (殿岡・昆・北條) / 西表島貝塚プロジェクト打合せ (昆)
- 18 (日) 人社系フォーラム運営ネットワークミーティング参加 (京都大学) (高橋)
- 19 (月) 21 世紀フォーラム SATREPS 報告会 (高橋) / 研究推進会議事前打合せ (昆)
- 20 (火) 第 71 回研究企画室定例ミーティング
- 22 (木) 第 72 回研究企画室定例ミーティング / 産学官連携部門連絡会 (殿岡) / 新共用機器システム運営委員会 / 研究推進会議事前打合せ (殿岡) / 韓国遺伝資源の取得とその利用—韓国遺伝資源に対する ABS 対応の実際参加 (東京) (昆) / 研究開発評価シンポジウム参加 (東京) (北條)
- 23 (金) 国際沖縄研究所客員研究員対応 (高橋) / 西原町新渡戸菊プロジェクト第 4 回役員会出席 (殿岡)
- 25 (日) みずのわ教室 (科学教室) (高橋)
- 26 (月) ABS 講演会～インド遺伝資源取得の最新事情～ (筑波大学東京キャンパス) (昆) / GRIPS 大学ベンチマーキングセミナー参加 (東京) (北條)
- 27 (火) 第 73 回研究企画室定例ミーティング / 広報委員会・広報戦略本部合同会議 (昆) / 琉大ブランド事業打合せ (殿岡)
- 29 (木) 第 74 回研究企画室定例ミーティング / 第 9 回研究推進会議 / 発明審査委員会 (殿岡) / 琉大ブランド事業記者会見出席 (殿岡)
- 30 (金) 日本学術振興会特別研究員学内説明会 (殿岡) / 新年度新任研修事前打合せ (昆)
-

4-3 イベントポスター集

URA (ユニバーシティ・リサーチ・アドミニストレーター)
キックオフシンポジウム

琉球大学では、平成27年1月の研究推進機構立ち上げに続き、平成27年2月からURA※を導入し、研究の推進に資する様々な取組を進めることとしています。
 URAの導入に当たり、文部科学省から担当課長をお招きし、URAの政策的な位置付けを説明したくとも、琉球大学におけるURAの今後の取組等を紹介するシンポジウムを開催します。

※URA: University Research Administrator
 大学等において、研究者とともに研究活動の企画・マネジメント、研究成果の活用推進等を行うことにより、研究者の研究活動の活性化や研究資源マネジメントの強化等を受ける業務に従事する人材

○日時 平成27年2月10日(火) 13:15~14:15
 ○場所 琉球大学研究者交流施設・50周年記念館
 ○主催 琉球大学研究推進機構

主なプログラム(予定)
 13:15~13:20 学長挨拶
 13:20~13:45 URAに関する行政説明
 (文部科学省 坂本産業連携・地域支援課長)
 13:45~14:00 URAより挨拶
 14:00~14:15 URAの導入趣旨や業務等(西田理事)

司会 伊藤 孝一
 司会 伊藤 孝一
 司会 伊藤 孝一

(本音直伝・石川先生)
 琉球大学 総合企画戦略課 研究推進課 研究推進係
 電話: 098-895-8932 (内線 8932)

H27.2.10「URAキックオフシンポジウム」

研究企画室 **URA** 主催
科研費再チャレンジ
 KAKENHI
ワークショップ

2015/
5/13(水) 13:00~15:00
 会場 **50周年記念館 1F
 交流ラウンジ**
 予約不要(直接会場にお越し下さい)
 プログラム
 13:00-13:05 西田理事あいさつ
 13:05-13:35 申請書作成のポイント、
 申請戦略と科研費改革、
 学内の研究支援制度の紹介
 担当 URA: 井上雄介
 13:35-13:55 質疑応答
 13:55-14:00 休憩
 14:00-15:00 グループディスカッション
 研究計画書の「目的」および
 「研究計画・方法」の議論

本説明会は若手研究者(科研費採択経験のない
 研究者等)を主な対象としておりますが、
 将来研究者を目指す大学院生を含め、
 本学所属であれば誰でも参加できますので、
 大勢のみなさまの参加をお待ちしております。

担当: 研究企画室 URA 井上雄介
 内線 8488 ura@to.jim.u-ryukyu.ac.jp

H27.5.13「科研費再チャレンジワークショップ」

平成27年度
URA室 科研費再チャレンジ企画
 (個別相談編)
 "Who you are tomorrow begins with what you do today"
 - Tim Fargo

今年度、科研費が不採択だった研究者の皆様:
 開示された審査結果をもとに、
 次年度の申請に向けた「次の一手」を
 考えてみませんか?
 研究企画室(URA室)では、そんな皆様の
 再チャレンジを応援します。
募集期間=5/12(火)~5/22(金)

★ご準備頂くもの
 ・科研費 研究計画書の電子ファイル
 ・審査結果開示を電子化したもの
 ・今年度の研究計画
 (WordまたはPowerPoint, A4版1-2枚)

★URAは…
 お申し込みを頂いた後、日程調整の上、
 研究室を訪問いたします。
 (30分-1時間程度、ご来室も歓迎)

★申込方法
 URA室の代表アドレスまで、メールにてご連絡下さい
ura@to.jim.u-ryukyu.ac.jp
 お申し込みの際には、【個別相談希望】をタイトルに入れ
 上記のファイルを添付して頂きますよう、よろしくお願い致します
 担当: 研究企画室 顧問 内線8703/8479

H27 年度「URA室科研費再チャレンジ個別相談編」

第3回 研究推進フォーラム 戦略的研究プロジェクトセンター活動報告
琉大のとりが研究を紹介しす
**学長リーダーシップ プロジェクト研究
 キックオフ・シンポジウム**

日時: 平成27年6月21日(日) 13:30~16:00 受付開始 13:00
 場所: 琉球大学 共通教育棟 1号館 118教室
 主催: 琉球大学 研究推進機構 研究企画室(URA室)
入場無料
 (裏面に地図あります)

13:30~13:35 開会の挨拶(古川羅英 センター長)
 13:35~13:40 趣旨説明(殿岡裕樹 上席URA)

13:40~14:00 気候変動と琉球列島のサンゴはどのように反応するの?
 酒井 一彦 教授
 (はかいやうひこ)
 人為的な気候変動に対して、琉球列島のサンゴはどのような
 反応を示しているのか。最近のサンゴの白化現象は、気候変動による
 海水温度の上昇や水質汚染により顕著なものと見られています。

14:00~14:20 東アジアの生物多様性の起源と維持: 進化生態学と種の保存戦略を模索する
 久保田 康裕 教授
 (くぼた やすひろ)
 日本列島および琉球列島は生物多様性ホットスポットとして
 国際的に有名です。その中でも、生物多様性保護
 戦略の模索に向けた研究プロジェクトを紹介します。

14:20~14:40 外来生物・気候変動・変わり続ける自然環境だからこそできる先端研究
 辻 隆雄 教授
 (つじ たかお)
 外来生物の侵入や気候変動による環境変化は莫大な被害をもたらす
 深刻化する脅威を認識しています。そこで、環境変化のリスクに
 対する生物多様性の保全に注目し、科学的に研究を進めています。

(休憩5分)

14:45~15:05 長寿復活へ向けて: "ゆいほろ"を活かした地域の健康推進
 大島 雄輔 教授
 (おしま ゆうすけ)
 沖縄の健康長寿社会、健康長寿社会の推進に向けた先端研究
 のありかを探る研究を進めています。長寿社会や健康長寿の推進
 から、健康長寿社会の推進に貢献していきます。

15:05~15:25 琉球諸語における"動的"言語系統システムの構築をめざして
 神保 繁久 教授
 (かみもと しげひさ)
 琉球中絶の島々をめぐって様々な言語「しるし」を
 調べ、これらが言語系になった言語系を明らかにすることを
 目指しています。

15:25~15:45 亜熱帯島嶼の厳しい環境における機能的腐食劣化とその防止
 有住 康則 教授
 (ありずみ やすのり)
 亜熱帯島嶼の厳しい環境、強い紫外線などの厳しい環境
 である中で、材料劣化とその防止に関する研究を進めて
 います。

15:45~16:00 総括(西田 睦 研究担当理事・副学長)

琉球大学 戦略的研究プロジェクトセンターは、特色ある戦略的研究プロジェクトを推進し、その中核となる研究者が研究に専念
 できるように支援することにより、本学の研究水準の向上に資することを目的として、平成26年度に研究推進機構に設置されました。
 お問い合わせ先: 研究企画室 098-895-8479

H27.6.21 第3回研究推進フォーラム
 「学長リーダーシッププロジェクト研究キックオフ・シンポジウム」

研究企画室主催

科研費獲得 ワークショップ

～採択への実践編～

日時 2015/07/16(木) 13:30-15:30 当初 07 月 09 日開催予定でしたが、台風警報のため、延期になりました。 申込み 7 月 6 日 15:00 までに 氏名・所属(学部)・申請予定 種目をご記載のうえ、 ura@to.jim.u-ryukyu.ac.jp 宛メールでお申込み下さい。 ★当日申込みも受け付けますが、 資料準備の都合上、できるだけ 事前申込みにご協力下さい。	会場 研究者交流施設・ 50周年記念館1F 交流ラウンジ プログラム 13:30-13:35 西田理事あいさつ 13:35-14:10 科研費説明会 主に申請書の書き方 琉球大学 URA 作成 オリジナルテキスト使用 14:10-14:25 質疑応答 14:30-15:30 ワークショップ 書面審査の体験 担当: 研究会室 URA 井上雄介 098-895-8468 (内線 8488) ura@to.jim.u-ryukyu.ac.jp
--	---

H27.7.16「科研費獲得ワークショップ」(千原キャンパス)

上原キャンパス開催
研究企画室主催

科研費獲得 ワークショップ

～採択への実践編～

日時 2015/07/23(木) 18:30-20:30 申込み 7 月 21 日 15:00 までに 氏名・所属(学部)・申請予定 種目をご記載のうえ、 ura@to.jim.u-ryukyu.ac.jp 宛メールでお申込み下さい。 ★当日申込みも受け付けますが、 資料準備の都合上、できるだけ 事前申込みにご協力下さい。	会場 上原キャンパス 臨床講義棟 1階小講義室 プログラム 18:30-19:05 科研費説明会 主に申請書の書き方 琉球大学 URA 作成 オリジナルテキスト使用 19:05-19:20 質疑応答 19:25-20:25 ワークショップ 書面審査の体験 20:25-20:30 西田理事会長の挨拶 担当: 研究会室 URA 井上雄介 098-895-8468 (内線 8488) ura@to.jim.u-ryukyu.ac.jp
---	---

H27.7.23「科研費獲得ワークショップ」(上原キャンパス)

平成26年度中期計画達成プロジェクト経費による分野横断型研究の成果を報告します！

第4回 研究推進 フォーラム

平成26年度戦略プロジェクト研究報告会②
～「文化」の過去・現在・未来を考える～

日時 平成27年7月26日(日) 13:30-15:30
場所 研究者交流施設・50周年記念館2F 交流ラウンジ
主催 琉球大学研究企画室 (URA室)

13:30-13:35 開会の挨拶
13:35-14:00 国際沖縄研究所 狩俣 繁久 教授
「グローバル社会における主体的島嶼社会創生を
めざした総合的研究」
14:00-14:25 法文学部 池田 栄史 教授
「継続性と断続性-自然・動物・文化-」
14:25-14:35 休憩
14:35-15:25 ディスカッション (含む質疑応答)
15:25-15:30 閉会の挨拶

(問い合わせ) 琉球大学研究企画室
担当 高橋 (098-895-8646)

H27.7.26 第4回研究推進フォーラム「平成26年度戦略プロジェクト研究報告会②」

シンポジウム

沖縄に国立自然史博物館を！

～次世代の博物館像を求めて～

平成27年11月14日(土) 参加費不要
15:00～18:30 (受付14:30～)
沖縄県立博物館・美術館講堂
(事前申し込みの場合、実行委員会事務局に連絡下さい)

プログラム

15:00～15:10 開会挨拶 大城 肇 (琉球大学・学長)
15:10～15:20 趣旨説明 西田 睦 (琉球大学・理事・副学長)

第一部
15:20～17:00 講演 沖縄に造る新しい博物館像について語り合おう！
太田英利 (兵庫県立大学自然・環境科学研究所・教授)
島井とも子 (琉球大学・教授)「生物多様性の科学」の視点としての自然史博物館 一利用者の視点から
瀧田 宏 (神奈川県立生命の星・地球博物館・企画普及課長)
南嶋 隆 (国立遺伝学研究所・教授)
ハクアツカノ、人類文明の源流と
下村政嗣 (千歳科学技術大学・教授)
バリエミル・ディクス (琉球大学・教授)「自然史博物館」の意義と
杉尾幸司 (琉球大学教育学部・教授)
学校教育と自然史博物館が連携した教育活動の可能性 沖縄の自然環境を活用した環境系人材養成

17:00～17:10 休憩

第二部
17:10～18:20 パネルディスカッション
司会 西田 睦 (琉球大学・理事・副学長)
5人の演者のみなさん
大城 肇 (琉球大学・学長)、西田 睦 (琉球大学・理事・副学長)、
尾崎和夫 (京都造形芸術大学・学長)、林 眞博 (国立科学博物館・館長)、
古瀬 隆 (沖縄県・環境企画課長)、高橋 隆 (琉球大学・教授)

18:20～18:30 閉会挨拶 高橋 隆 (北海道大学名誉教授)

主催: シンポジウム「沖縄に国立自然史博物館を！」実行委員会、日本学術会議動物学分会、自然史の保護
と活用分科会、自然史・立憲学分科会、進化分科会
共催: 琉球大学、沖縄科学技術大学院大学、沖縄県立美術館、沖縄生物学会
後援: 沖縄県、平成26-28年度科学研究費補助金基盤(助)「自然史の総合的研究」(研究代表者: 高橋 隆)

問い合わせ先
琉球大学研究企画室自然史プロジェクト事務局
シンポジウム「沖縄に国立自然史博物館を！」実行委員会事務局
電話: 098-895-8973 E-mail: takamori@jim.u-ryukyu.ac.jp

H27.11.14「シンポジウム 沖縄に国立自然史博物館を！」

琉球大学国際沖縄研究所
現代グローバル社会における
「持続可能な島嶼社会モデルの構築と実践」プロジェクト
島嶼多様性・固有性研究ユニット

**第3回 生物文化多様性
ワークショップ**
言語系統樹研究の可能性を探る

◆報告者◆
狩俣繁久
(琉球大学国際沖縄研究所・教授)
「琉球諸語の言語系統樹研究の構想」
津村宏臣
(同志社大学文化情報学部・准教授)
「言語のミメティクス—文化多様性と
要素配列の定量解析—」
昆 健志
(琉球大学研究企画室・主任URA)
「生物学における分子系統解析法の
紹介—日本語の言語系統解析論文を
読みながら—」
下地理則
(九州大学文学部・准教授)
「言語類型論からみた琉球諸語
研究の可能性」

*参加無料
*申込不要

日時:平成28年3月1日(火)
13:00~16:30
場所:琉球大学50周年記念館1階多目的室

★お問合せ: Tel: 098-895-8475 e-mail: iios@w3.u-ryukyu.ac.jp

H27.11.14 第3回生物文化多様性ワークショップ

研究企画室 (URA室) 主催
**地域課題解決型研究のための
競争的資金獲得ワークショップ**

「持続可能な島嶼社会」をデザインする
フィールドサイエンスの挑戦

平成28年
5月19日(木) 16:20~17:50
附属図書館2階ラーニング・commons

＜プログラム＞
第1部 社会技術研究開発センター (RISTEX) 等の公募情報の提供
グループディスカッション
第2部 「持続可能な島嶼社会」をデザインするフィールドサイエンスの挑戦
a. 研究者交流
b. ディスカッション
c. 共有

対象: 地域課題に対して研究面から関心のある研究者/大学院生等

申込み方法: ※当日参加も受け付けますが、資料準備の都合上、事前にメールにて
下記の必要事項を記入の上、お申込みください。
1) お名前、2) ご所属、3) 関心テーマ、4) メールアドレス
申込みメールアドレス: ura@jim.u-ryukyu.ac.jp
※メール件名は、「地域WS」とご記入ください。

問い合わせ先: 研究企画室 (担当URA 高橋) 内線8486

H28.5.19 「地域課題解決型研究のための競争的資金獲得ワークショップ」

平成28年度
URA室 科研費再チャレンジ企画
(個別相談編)

"The secret to getting ahead is getting started."
- Mark Twain

今年度、科研費が不採択だった研究者の皆様

開示された審査結果をもとに、
次年度の申請に向けた「次の一手」を
考えてみませんか？
研究企画室(URA室)では、そんな皆様の
再チャレンジを応援します。

募集期間=5/13(金)~5/27(金)

★ご準備頂くもの
・科研費 研究計画調査書の電子ファイル
・審査結果開示を電子化したもの
・今年度の研究計画
(Word or PowerPoint, A4版1-2枚、なくても可)

★URAは…
お申し込みを頂いた後、日程調整の上、
研究室を訪問いたします。
(30分~1時間程度、ご来室も歓迎)

★申込方法
URA室の代表アドレスまで、メールにてご連絡下さい
ura@to.jim.u-ryukyu.ac.jp

お申し込みの際には、【個別相談希望】をタイトルに入れ
上記のファイルを添付して頂きますよう、よろしくお願い致します

申込受付: 研究企画室 阿部 内線8479

H28 年度「U R A 室科研費再チャレンジ個別相談編」

平成28年度 第1回 琉球大学研究推進アドバイザー会議
パネルディスカッション

「地域社会に貢献する科学を考える」

琉球大学では、本学の重要な研究分野として特色ある研究の強化のために設置された研究推進機構に対する
助成・支援を目的として、外部有識者による研究推進アドバイザー会議を開催しています。2回目になる
今回は、パネルディスカッション形式で開催します。アドバイザーの約1人である総合地球環境学研究所
所長 佐藤 哲 氏に、「地域社会に貢献する科学を考える」話題提供をいただき、また、本学農学部
安元純 助教に、パネルディスカッションとして参加していただき、皆で地域社会に貢献する科学について議論
を深めていければと考えています。多くの皆さんのご参加をお待ちします。

総合地球環境学研究所
佐藤 哲 教授
＜プロフィール＞
理学博士 専門: 地球環境学・生態学
アフリカの国から琉球島のサンゴ礁、長野の森まで、
さまざまな地域で生態系サービスの実証・創出・活用を推進した
地域社会全体の生態系管理と地域振興の両立の方針を策定。食
糧問題の解決に貢献する科学のありか。科学と社会の関係に関する考察をすすめている。

琉球大学農学部
安元 純 助教
＜プロフィール＞
博士(農学) 専門: 農学・農学工学・農村経済学
多岐にわたる地域において、農業従事者の生活の向上に及ぼす
影響や、持続的な農業発展と地域振興の両立を推進することが
可能な農村・水産資源あり方についての問題を研究している。

日 時: 平成28年6月27日(月) 15:00~
場 所: 50周年記念館1F 交流ラウンジ

対 象: 本学教職員・大学院生
申 込 方 法: 電子メール本文に「所属」、「氏名」を記載のうえ、氏名を「アドバイザー会議参
加申込み」として、以下のメールアドレスへお申込みください。
メールアドレス: kinkiyu@to.jim.u-ryukyu.ac.jp
問い合わせ先: 琉球大学総合企画戦略部 研究推進課 池間 TEL: 098-895-8932

University of the Ryukyus

H28.6.27「琉球大学研究推進アドバイザー会議パネルディスカッション」

第3回 人文・社会科学系研究推進フォーラム

地域と共に新しい“ジブン”力を創造する人社会研究の展開

第3回フォーラムのテーマ「地域と共に新しい“ジブン”力を創造する人社会研究の展開」の“ジブン”とは、冲縄の言葉で「生きる知恵」を意味します。我々は日々多くの社会的課題に直面しますが、これら課題は一朝一夕には解決しません。そこでは、科学・技術の知識だけではなく、人間の知恵の力（“ジブン”力）が求められます。こうした求めに対し、大学は、研究者は、どのように応じてきたのでしょうか。そしてどのように応じてゆくべきなのでしょう。本フォーラムでは、地域社会が抱える社会課題の解決や、新たな価値創造と実践に向き合っている研究を紹介しつつ、学術界それ自身が内包する課題もふくめて、人文・社会科学系研究の新たな可能性について議論します。

日時：2017年3月3日（金）13:30-18:00
場所：国立大学法人琉球大学 研究者交流施設・50周年記念館
定員：50名（事前ウェブ申込、先着順）
参加費：無料（情報交換会 会費3,000円）
主催：琉球大学研究推進機構研究企画室
共催：京都大学術研究推進室、筑波大学 URA 研究戦略推進室 / ICR、大阪大学経営企画オフィスURAプロジェクト、早稲田大学研究戦略センター

ウェブ申込・問合せ先
琉球大学研究推進機構研究企画室
<http://www.res.lab.u-ryukyu.ac.jp>
ura@to.jim.u-ryukyu.ac.jp
098-895-8486
担当：URA 高橋

H29.3.3 「第3回 人文・社会科学系研究推進フォーラム」

千原キャンパス開催

研究企画室 URA 主催

科研費 獲得ワークショップ
KAKENHI

— 採択への実践編 —

2017/7/5（水）13:30-15:00
会場 附属図書館 2F ラーニングcommons
申込締切 7/3 正午

申込は下記 URL からおこなってください
https://jp.surveymonkey.com/r/20170705_Kakenhi

プログラム
13:30-13:35 本村教授（研究推進機構 副機構長）あいさつ
13:35-14:30 URA による平成30年度科研費の変更点の説明と研究計画調査書き方の解説
14:30-15:00 質疑応答と総合討論

本ワークショップでは、本年9月公募の科研費からの審査区分・審査方式などの変更点の解説とともに、研究デザインの方法を含む研究計画調査の書き方の説明をおこないます。主に若手の研究者を対象としておりますが、本学所属の教職員および大学院学生はどなたでも参加いただけます。

申込先（URL）：https://jp.surveymonkey.com/r/20170705_Kakenhi
担当：研究企画室 URA 井上達介（内線 8488, ura@to.jim.u-ryukyu.ac.jp）

H29.7.5 「科研費獲得ワークショップ」（千原キャンパス）

平成29年度
URA室 科研費再チャレンジ企画
(個別相談編)

"The beginning is always today."
- Mary Shelley

残念ながら科研費が不採択だった研究者の皆様：

開示された審査結果をもとに、次年度の申請に向けた「次の一手」を考えてみませんか？
研究企画室（URA室）では、そんな皆様の再チャレンジを応援します。

募集期間 = 5/8（月）～5/26（金）

★ご準備頂くもの
・科研費 研究計画調査の電子ファイル
・審査結果開示を電子化したもの
・今年度の研究計画
(Word or PowerPoint, A4版1-2枚、なくても可)

★URAは…
お申し込みを頂いた後、日程調整の上、研究室を訪問いたします。
(30分～1時間程度、ご来室も歓迎)

★申込方法
URA室の代表アドレスまで、メールにてご連絡下さい
ura@to.jim.u-ryukyu.ac.jp

お申し込みの際には、【個別相談希望】をタイトルに入れ上記のファイルを添付して頂きますよう、よろしくお願い致します

申込受付：研究企画室 河野 内線8479

H29 年度「URA 室科研費再チャレンジ個別相談編」

上原キャンパス開催

研究企画室 URA 主催

科研費 獲得ワークショップ
KAKENHI

— 採択への実践編 —

2017/7/12（水）18:30-20:00
会場 医学部 臨床講義棟 1F 小講義室
申込締切 7/10 正午

申込は下記 URL からおこなってください
https://jp.surveymonkey.com/r/20170712_Kakenhi

プログラム
18:30-18:35 西田理事（研究推進機構長）あいさつ
18:35-19:30 URA による平成30年度科研費の変更点の説明と研究計画調査書き方の解説
19:30-20:00 質疑応答と総合討論

本ワークショップでは、本年9月公募の科研費からの審査区分・審査方式などの変更点の解説とともに、研究デザインの方法を含む研究計画調査の書き方の説明をおこないます。主に若手の研究者を対象としておりますが、本学所属の教職員および大学院学生はどなたでも参加いただけます。

申込先（URL）：https://jp.surveymonkey.com/r/20170712_Kakenhi
担当：研究企画室 URA 井上達介（内線 8488, ura@to.jim.u-ryukyu.ac.jp）

H29.7.12 「科研費獲得ワークショップ」（上原キャンパス）

平成29年度 琉球大学研究推進アドバイザー会議
パネルディスカッション

沖縄からイノベーションが 継続して創出される仕組みづくり

琉球大学では、本学の基盤的研究および特色ある研究の強化のために設置された研究推進機構に対する助言・提言を目的として、外部有識者による研究推進アドバイザー会議を設けています。3回目となる今回は、前回に引き続きパネルディスカッション形式で開催します。アドバイザーのひとりである(株)レキサス代表取締役社長 比屋根 隆氏に、「沖縄からイノベーションが創出される仕組みづくり」とのタイトルで話題提供をいただいた後、皆さんで議論を深めていければと考えています。多くの皆さんのご参加をお待ちします。

(株)レキサス代表取締役社長
比屋根 隆 氏

<プロフィール>
1974年沖縄生まれ。
大学在学中からWebサイト制作や学生向けコミュニティサイトを始め、1998年にIT企業の株式会社レキサスを設立。
沖縄の次世代イノベーターを発掘育成する「Ryukyufrogs」の発起人としても活動中。

日 時：平成29年9月1日（金）15：00～17：30
場 所：50周年記念館1F 交流ラウンジ

対 象 者：本学教職員・大学院学生
申 込 方 法：電子メール本文に「所属」、「氏名」を記載のうえ、件名を「アドバイザー会議参加申込み」として、以下のメールアドレスへお申込みください。
メールアドレス：knknkyu@ta.jim.u-ryukyu.ac.jp
問い合わせ先：琉球大学総合企画戦略部 研究推進課 運天 TEL.098-895-8932
主 催：琉球大学研究推進機構

University of the Ryukyus

H29.9.1 「琉球大学研究推進アドバイザー会議 パネルディスカッション」

シンポジウム

国立自然史博物館の設立を目指して ～ネットワーク型博物館がめざす地域との連携～

平成29年11月4日(土)
13:00～16:30(受付12:30～)
国頭村民ふれあいセンター
参加費不要

当日参加可能です。

プログラム

13:00～13:10 主催者挨拶 西田 晴(琉球大学・理事・副学長)

第一部
13:10～13:40 基調講演 土屋 誠(琉球大学・名誉教授) 沖縄まるごと博物館 ― 国立自然史博物館のあり方を考える

13:40～13:50 ネットワーク型国立自然史博物館と地域の連携について語り合う！

13:50～14:00 休憩

第二部
14:00～14:20 パネルディスカッション
司会 西田 晴(琉球大学・理事・副学長)
出席 宮城久和(国頭村民ふれあいセンター)、宮城久和(宮城久和)、大沢清志(沖縄県環境部・部長)、岸本雅雄(お茶の水女子大学・客員教授)、松浦第一(国立科学博物館・名誉研究員)、寺北明久(大阪市立大学・教授)

14:20～16:30 閉会挨拶 松浦第一(国立科学博物館・名誉研究員)

同時開催：パネル展示 10:00～12:00

主催：日本学術会議動物科学分科会、自然史・古生物学分科会、国立沖縄自然史博物館設立準備委員会
共催：琉球大学、沖縄科学技術大学院大学、沖縄県立自然史博物館、沖縄県立自然史博物館設立準備委員会、国頭村民ふれあいセンター、地域推進会議(国頭村、大宜味村、東村)

問い合わせ先
琉球大学研究推進機構 自然史・古生物学分科会
国立沖縄自然史博物館設立準備委員会・シンポジウム実行部事務局
電話 098-895-8932 E-mail takemura@jim.u-ryukyu.ac.jp

H29.11.4 「シンポジウム 国立自然史博物館の設立を目指して」

4-4 国立大学法人琉球大学研究推進機構研究企画室規程

国立大学法人琉球大学研究推進機構研究企画室規程

平成26年12月3日
制 定

(趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人琉球大学研究推進機構規則第6条第3号イに規定する研究企画室（以下「URA室」という。）に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 URA室は、本法人における研究推進体制・機能の充実強化及び研究者の研究活動の支援強化を目指すことを目的とする。

(業務)

第3条 URA室は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 本法人の研究活動・情報の調査及び分析に関すること。
- (2) 科学技術・学術政策等の動向把握及び分析に関すること。
- (3) 競争的資金に係る情報収集、分析及び申請支援に関すること。
- (4) 研究プロジェクトの企画、提案及び調整に関すること。
- (5) 研究推進体制等の検討及び提案に関すること。
- (6) 研究プロジェクトの進捗管理等支援に関すること。
- (7) 研究成果の発信支援に関すること。
- (8) 研究に関する法的支援及び倫理向上への支援に関すること。
- (9) URA人材の育成支援に関すること。
- (10) URA室の目的を達成するために必要な業務に関すること。
- (11) その他室長が必要と認める事項に関すること。

(組織)

第4条 URA室は、室長、副室長、室員及びその他必要な者をもって組織する。

(室長)

第5条 室長は、室員又は本法人の役員及び職員のうちから研究推進機構長が指名する。

2 室長は、URA室の業務を統括する。

3 室長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(副室長)

第6条 副室長は、本法人の職員及び室員のうちから室長が指名する。

- 2 副室長は、室長を補佐し、室長に事故があるとき又は欠けたときは、その職務を代行する。
- 3 副室長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(室員)

第7条 室員は、次の各号に掲げる者とする。

- (1) URA
 - (2) 併任教員
 - (3) その他室長が指名する者
- 2 室員は、室長及び副室長の命を受けて、第3条の業務を行う。

(URA)

第8条 URAは、次の各号に掲げる者とする。

- (1) 主席URA
 - (2) 上席URA
 - (3) 主任URA
- 2 URAの選考その他必要な事項については、別に定める。

(併任教員)

第9条 併任教員は、URAと協力し第3条の業務を行う。

- 2 併任教員は機構長の申請に基づき、学長が任命する。
- 3 機構長は、前項の申請に当たっては、当該教員の所属する学部等の長の同意を得るものとする。

(専門チーム)

第10条 室長は、特定の事項を検討処理するため、必要に応じて専門チームを置くことができる。

- 2 専門チームに関する事項は、室長が別に定める。

(アドバイザー)

第11条 室長は、専門的見地から助言等を求めるため、アドバイザーを置くことができる。

- 2 アドバイザーに関する事項は、室長が別に定める。

(庶務)

第 1 2 条 URA室の庶務は、総合企画戦略部研究推進課において処理する。

(雑則)

第 1 3 条 この規程に定めるもののほか、URA室の運営に関して必要な事項は、研究推進会議が別に定める。

(改廃)

第 1 4 条 この規程の改廃は、研究推進会議の議を経て学長が行う。

附 則 (平成 2 6 年 1 2 月 3 日)

この規程は、平成 2 7 年 1 月 1 日から施行する。

附 則 (平成 2 7 年 1 月 2 7 日)

- 1 この規程は、平成 2 7 年 1 月 2 7 日から施行する。
- 2 この規程の施行後最初に任命される室長及び副室長の任期は、第 5 条第 3 項及び第 6 条第 3 項の規定にかかわらず、平成 2 8 年 3 月 3 1 日までとする。

附 則 (平成 2 7 年 3 月 1 3 日)

この規程は、平成 2 7 年 3 月 1 3 日から施行する。

附 則 (平成 2 7 年 8 月 1 1 日)

この規程は、平成 2 7 年 9 月 1 日から施行する。

附 則 (平成 2 9 年 5 月 1 2 日)

この規程は、平成 2 9 年 5 月 1 2 日から施行する。

附 則 (平成 3 0 年 3 月 3 0 日)

この規程は、平成 3 0 年 4 月 1 日から施行する。

琉球大学 研究推進機構 研究企画室

平成 27～29 年度 活動報告書

2018 年（平成 30 年）6 月 22 日 発行

〔制作〕 昆健志・殿岡裕樹・高橋そよ・井上雄介・北條優・河野恵美子・西田睦

〔発行〕 琉球大学 研究推進機構 研究企画室

〒903-0213

沖縄県 中頭郡 西原町 字千原 1 番地

亜熱帯島嶼科学拠点研究棟

HP <http://www.res.lab.u-ryukyu.ac.jp/ura.html>

E メール ura@to.jim.u-ryukyu.ac.jp

無断複製・複写・転載・電子化等を禁じます